第貳拾貳節　區役所位置變更ノ件

三月三十日ノ會議ニ左ノ四案提出セラレ、孰レモ即決可決セラレタリ。

▽日本橋區役所位置變更ノ件

第七十七號

日本橋區役所位置變更ノ件

本市日本橋區役所改築工事中其ノ位置ヲ日本橋區螺殻町二丁目十一番地及十二番地ニ變更スルモノトス

說明　大正十二年ノ震火災ニ因リ廳舍燒失シ其ノ跡地ノ假廳舍ニ於テ執務中ノ所同所ニ本廳舍建設ノ爲一時其ノ位置ヲ變更スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（圖面省略）

▽赤坂區役所位置變更ノ件

第七十八號

赤坂區役所位置變更ノ件

本市赤坂區役所ハ其ノ位置ヲ赤坂區表町三丁目三十七番地ニ變更スルモノトス

說明　大正十二年ノ震災後現在ノ假廳舍ニ於テ執務中ノ所新廳舍近々落成スヘキニ付其ノ位置ヲ變更スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（圖面省略）

▽牛込區役所位置變更ノ件

第七十九號

牛込區役所位置變更ノ件

本市牛込區役所ハ其ノ位置ヲ牛込區簞笥町十五番地乃至十七番地ニ變更スルモノトス

說明　大正十二年ノ震災後現在ノ假廳舍ニ於テ執務中ノ所新廳舍近々落成スヘキニ付其ノ位置ヲ變更スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（圖面省略）

▽淺草區役所位置變更ノ件

第八十號

淺草區役所位置變更ノ件

本市淺草區役所ハ其ノ位置ヲ淺草區馬道町一丁目二十九番地ニ變更スルモノトス

說明　大正十二年一月從來ノ廳舍燒失ノ爲現假廳舍ニ於テ執務中ノ所新廳舍近々落成スヘキニ付其ノ位置ヲ變更スルモノトシ本案ヲ提出ス

（圖面省略）

▽下谷區役所位置變更ノ件　左記議案ハ七月十三日ノ會議ニ提出セラレ、即決可決セラレタリ。

第百二十四號

下谷區役所位置變更ノ件

本市下谷區役所ハ一時其ノ位置ヲ下谷區上野恩賜公園竹ノ臺（元大禮記念國產振興東京博覽會協贊會演藝館跡）ニ變更スルモノトス

說明　現在ノ下谷區役所假廳舍ハ區劃整理事業ニ伴ヒ撤去ヲ要スルニ依リ本廳舍建築完成迄前記ノ場所ニ變更スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第貳拾參節　復興事業公債條例中改正ノ件

三月三十日ノ會議ニ於テ、左ノ議案ハ異議ナク直ニ可決セラレタリ。

第八十九號

東京市復興事業公債條例中改正ノ件

東京市復興事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第二條中　券面「壹億五千八百參拾壹萬參千五百六拾四圓」ヲ「壹億四千四百五拾萬九百七圓」ニ手取額「壹億參千貳百九拾八萬參千參百九拾參圓」ヲ「壹億貳千五百九拾九萬千九百八拾七圓」ニ改ム

第六條中　「三年內」ヲ「十年內」ニ改ム

第二十條　本公債又ハ第八條及第九條ノ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ簡易生命保險積立金又ハ大藏省預金部ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條第八條第九條第十五條乃至第十七條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

說明　帝都復興費、水道復興費及電氣軌道復興費ノ繼續費更正ニ伴ヒ募債額ヲ減シ募債年度ヲ延長スルノ要アルト又募債額ノ一部ヲ借入金ニ需ムルコトヲ得ル途ヲ拓クヲ適當ト認メ之カ公債條例改正ノ爲本案ヲ提出ス。

（註、本史第六卷九四二頁復興事業公債條例設定ノ件參照）

第貳拾四節　復興復舊事業ニ關スル建議

▽**復興復舊事業費ニ關スル意見書提出ノ建議**　三月三十日ノ會議ニ左ノ建議案上提セラレ即決可決セラレタリ。

復興復舊事業費ニ關スル意見書提出ノ建議

右提出候也

昭和三年三月二十九日

提出者

鎌田芳太郎　中南定太郎　河井榮三郎

岡蕃　細谷鎌太郎　吉井濱治郎

大井善藏　入山祐治郎　八太茂

西村吉兵衞　橋本直一　森原嘉逸

小久江美代吉　小幡敏男　宇田川孝吉

小俣政一　倉田金三郎　若林成昭

中塚榮次郎　稻村藤太郎　太田信治郎

伊東美代松　秋庭伊兵衞　方山正隆

高橋義次　五木田治郎吉　藤原久人
西川嘉門　深山彦平　杉野善作
溝口信　大野敬吉　福田又一
片山久藏　古島宮次郎　松井錦橘
高橋秀臣　村松恒一郎　伊藤勝藏
大橋誠一　小森七兵衛　瀬川光行
戸倉嘉市　金子東一　早川庄太郎
島多郎　小島七郎　大崎清作
有竹雅巳　天野富太郎　坪野房治
田中康三　山本繁吉　茂木久平
藤原俊雄　矢野鉉吉　今津源右衛門
高崎高次郎　小栗富五郎　立川太郎
松永東　岡本瀧雄　加藤辰之
大神田軍治　中川重政　森脇源三郎
新居友三郎　小原要三郎　小坂・梅吉
小島龜藏　瀧澤七郎　天利庄次郎
國枝拾次郎　中村舜二　平林發司

原伊三郎
栗原彦三郎
角野庄太郎

東京市會議長小島七郎殿

復興復舊事業費ニ關スル意見書

伊藤仁太郎　別役增吉
小板久馬吉　松崎權四郎
池田清秋

大正十二年ノ大震火災ニ方リ政府ハ罹災ノ救援ト復興復舊助成ノ爲メ之ニ要スル資源ヲ本市ニ貸付セラレ且ツ其ノ利子ノ補給免除乃至公債元利ノ支拂保證ヲセラルヽ等大ニ財政援助ノ擧ニ出テラレタルハ洵ニ本市ノ感謝措ク能ハサルトコロナリ

然ルニ今ヤ既定復興事業期間ハ終了セントシ前陳借入金中ニハ明年度ニ於テ全額ノ償還ヲ要スルモノアリ又近ク利子免除期經過シテ元利ノ償還期ニ入ラントスルモノアリ更ニ復興事業分擔金モ亦遠カラスシテ納付ヲ命セラルヽヤニ仄聞ス

斯ノ如キハ震災ノ創痍未タ癒エサル本市財政ノ現狀ニ鑑ミ頗ル憂慮ニ堪ヘサルモノアリ惟フニ本市ノ復興事業ハ今尚其ノ途上ニアリ加フルニ打續ク財界ノ不況ハ本市民ノ經濟ヲシテ益々悲境ニ沈淪セシメ所在倒産者相踵クノ現狀ハ洵ニ慘憺タルモノアリ從テ此際豫定ノ如キ元利ノ償還ハ到底市民ノ負擔ニ堪ヘ得ルトコロニ非ス

冀クハ閣下深ク明鑑ヲ加ヘ上ノ點ニ賜ハリ借入金ニ對スル元金ハ復興本建築猶豫期中之ヲ据置カルヽト共ニ其ノ償還年限ヲ相當延長セラレ尚ホ之カ利子ニ對シテモ免除若クハ補給ノ途ヲ講シ更ニ復興事業分擔金納付ノ免除公債利子ノ全額補給等ニ關シ相當ノ方法ヲ講セラレムコトヲ切望ニ堪ヘス

右市制第四十六條ニ據リ意見書提出候也

年　月　日

總理大臣
內務大臣
大藏大臣　宛
復興局長官

▽復興復舊事業費ニ關スル實行委員設置ノ建議　前記建議案ト同時ニ上提セラレタル左記建議案モ、亦同ク即決可決セラレタリ。

復興復舊事業費ニ關スル實行委員設置ノ建議

右提出候也

昭和三年三月二十九日

提出者

鎌田芳太郎　中南定太郎　河井榮三郎
岡　蕃　細谷鎌太郎　吉井濱治郎
大井善藏　入山祐治郎　八太茂
西村吉兵衛　橋本直一　森原嘉逸

小久江美代吉　小幡敏男　宇田川孝吉
小俣政一　倉田金三郎　若林成昭
中塚榮次郎　稻村藤太郎　太田信治郎
伊東美代松　秋庭伊兵衛　方山正隆
高橋義次　五木田治郎吉　藤原久人
西川嘉門　深山彦平　杉野善作
溝口信　大野敬吉　福田又一
片山久藏　古島宮次郎　松井錦橘
高橋秀臣　村松恒一郎　伊藤勝藏
大橋誠一　小森七兵衛　瀨川光行
戶倉嘉市　金子東一　早川庄太郎
島多郎　小島七郎　大崎清作
有竹雅巳　天野富太郎　坪野房治
田中康三　山本繁吉　茂木久平
藤原俊雄　矢野鉉吉　今津源右衛門
高崎高次郎　小栗富五郎　立川太郎
松永東　岡本瀧雄　加藤辰之

大神田軍治　中川重政　森脇源三郎
新居友三郎　小原要三郎　小坂梅吉
小島龜藏　瀧澤七郎　天利庄次郎
國枝捨次郎　中村舜二　平林發司
原伊三郎　伊藤仁太郎　別役增吉
栗原彦三郎　小板久馬吉　松崎權四郎
角野庄太郎　池田清秋

東京市會議長小島七郎殿

復興復舊事業費ニ關スル實行委員設置ノ建議

復興復舊事業費ニ關スル意見書ノ目的達成ノ爲メ之カ實行委員（議長指名）十五名ヲ設置シ之ニ機宜ノ措置ヲ一任セムコトヲ望ム

斯クテ議長ハ左ノ委員ヲ指名セリ。

太田信治郎　深山彦平　大野敬吉　若林成昭　河井榮三郎
藤浦富太郎　金子東一　矢野鉉吉　福田又一　有竹雅巳
今津源右衞門　岡本瀧雄　天利庄次郎　瀧澤七郎　伊藤仁太郎

委員ハ若林成昭君ヲ委員長ニ推シ、屢〻集會審議ノ末、横濱市ト協同シテ運動スルニ決シ、同市代表平沼亮三君外數氏ト共ニ前記意見書ヲ携ヘテ關係官廳ヲ歷訪シ、具ニ陳情スル所アリタリ。

第貳拾五節　田代義德君市會議員ニ當選ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ報告アリタリ。

財發第二五號
下谷區選擧區二級選出市會議員小瀧辰雄昭和三年三月二十日行政裁判所ニ於テ當選無效ノ判決確定ニ付（註、本章第二十一節參照）同月二十九日左記ノ者ニ對シ當選者ト決定致候條御通知候也
昭和三年四月五日

東京市會議長小島七郎殿　　東京市長　市來乙彥

記

下谷區練塀町六十一番地　田代義德
元治元年七月二十六日生

第貳拾六節　御即位大典奉祝費追加豫算

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百十六號

昭和年間　第貳章　昭和三年　第貳拾五節　田代義德君市會議員ニ當選ノ件　第貳拾六節　御即位大典奉祝費追加豫算

昭和三年度東京市歳入出追加豫算

歳　入

一金貳拾九萬九千八百八拾壹圓

歳　出

一金貳拾九萬九千八百八拾壹圓

說明　本年十一月御擧行遊ハサルヘキ　御即位大典ニ際シ奉祝ノ赤誠ヲ捧ケンカ爲之カ關係經費ヲ追加豫算ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

本案ニ關シ、**市來市長**ヨリ左ノ如キ說明アリタリ。

本年ノ秋宮中ニ於テ　御即位ノ御大典ヲ行ハセラルヽニ當リ、本市ガ相當ノ施設ヲ爲シテ奉祝ノ至誠ヲ表スルノ計畫ヲ有スルハ、諸君ノ既ニ諒承セラルヽ所ナルガ、今玆ニ之ニ要スル經費豫算ヲ提出セリ。奉祝ノ計畫ニ關シテハ、能フ限リ市民ノ熱誠ヲ表明スルト同時ニ、經費ヲ節約スルノ目的ヲ以テ、之ガ豫算ヲ立テタルガ、今此計畫ノ大要ヲ述ブレバ、先ヅ京都ニ行幸啓遊バサルヽ際ニ奉送シ、京都ニ於テ　御即位大禮擧行ノ當日奉祝シ、同市ニ於テ大嘗祭竝ニ大饗第一日ノ儀ノ當日奉祝シ、東京ニ御還幸アラセラルヽ際ニ奉迎シ、次ニ東京市ニ於テ奉祝會ヲ催スコト等ナリ。就中東京市ガ自ラ主催スル奉祝會ハ最モ重大ナル關係ヲ有シ、既ニ曩ニ市會ノ決議ニ依リ　兩陛下ノ行幸啓ヲ申出デ、行幸啓アラセラルヽト旨ノ御內沙汰ヲ蒙レル次第ナリ。（本章第四節參照）今回提案セル奉祝費ノ豫算ハ、總額貳拾九萬九千八百八拾壹圓ニシテ、其財源ニ關シテハ、大部分過年度收入ノ市稅ニ依ルコトヽシタルガ、唯奉祝計畫ノ一ナル花電車ニ要スル經費參萬七千圓ハ、前例ニ從ヒ、電氣軌道ノ特別財源ヨリ繰入ルヽノ計畫ヲ立テタリ。奉祝ノ豫算ハ大體以上ノ如クナルガ、願ハクハ協贊ヲ賜ハランコトヲ。

（附言　市長ノ言及セル花電車ノ豫算ハ本案ト同時ニ提出セラレタルモ頗ル簡單ナルヲ以テ之ヲ省略ス）

以上ノ說明ノ後本案ハ全員起立ノ裡ニ可決セラレタリ。

第貳拾七節　軌道敷設特許申請ニ關スル件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

諮問第八號

軌道敷設特許申請ニ關スル件

京成電氣軌道株式會社

社　長　本多貞次郎

右者申請ニ係ル東京府南葛飾郡吾嬬町ヨリ東京市淺草區花川戶町ニ至ル軌道敷設ノ件ニ關シ東京府ヨリ別紙ノ通照會アリタル所本件ハ既特許線タル東武鐵道線ト併行スルノミナラス新設隅田公園ヲ橫切リ鐵道橋ヲ架設スルコトハ風致上支障多ク又一面本市營路面電車及將來實現スヘキ高速度電氣鐵道ニ依リ市內交通網ヲ完成スヘキ義ニシテ前記以外增設ノ必要ヲ認メス更ニ本市ニ於テ從來希望セル市內交通機關公營主義ヲ破壞セラルヽヲ以テ不許可處分アリタキ旨答申スルモノトス

（參考）

卯土第一七六三號

昭和年間　第貳章　昭和三年　第貳拾七節　軌道敷設特許申請ニ關スル件

東京市長殿

京成電氣軌道吾嬬町淺草區花川戸町間軌道支線布設特許申請ノ件

標記ノ件別紙ノ通申請有之候ニ付支障ノ有無調査回報相成度尚添付書類ハ回報ノ際返戻相成度候

電氣軌道支線布設特許願

當會社儀今般東京府南葛飾郡吾嬬町三〇七番地（押上起點〇哩三十二鎖）ヨリ分岐シ東京市淺草區花川戸町一番地ニ至ル區間ニ支線ヲ布設シ一般運輸ノ業ヲ營ミ度候間何卒特別ノ御詮議ヲ以テ該支線布設ノ儀特許被成下度起業目論見書、線路豫測圖、建設費概算書、運輸事業ノ收支概算書相添ヘ此段奉願候也

昭和二年十月十三日

東京市本所區向島押上町二〇三番地

京成電氣軌道株式會社

社長　本多貞次郎

鐵道大臣　小川平吉殿

內務大臣　鈴木喜三郎殿

起業目論見書

一、目的　旅客運送

二、商號又ハ名稱主タル事務所ノ設置地

京成電氣軌道株式會社ト稱シ事務所ヲ東京市本所區向島押上町ニ置ク

三、軌道事業ニ要スル資金ノ總額及出資方法

資金ノ總額ハ金七百萬圓ニシテ增資ニ依ル

四、線路ノ起終點及併用軌道ノ始終點ノ地名、地番竝ニ其ノ經過市町村名

起點　東京府南葛飾郡吾嬬町請地三〇七番地

終點　東京市淺草區花川戸町一番地

經過地　本所町向島請地町、中ノ郷町、新小梅町、淺草區馬道町

五、軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ種類每ノ延長、一般幅員及計畫幅員

線路ハ凡テ專用線ニシテ高架式トシ其ノ計畫幅員二十六呎トス

六、線路ノ延長及單線、複線等ノ別

線路延長ハ一哩三十三鎖ニシテ複線トス

七、軌間及車輛ノ最大幅員

軌間ハ四呎六吋ニシテ車輛ノ最大幅員九呎

八、動力

動力ハ電氣ニシテ水力電氣ヲ使用シ鬼怒川水力電氣株式會社ヨリ供給ヲ受クルモノトス

追而本出願線ハ東武鐵道株式會社既認可線ニ併列スルモノトス　以上

（圖面省略）

本案ハ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

倉田金三郎　鎌田芳太郎　森原嘉逸　小俣政一　五木田治郎吉

金子東一　島多郎　有竹雅巳　藤原俊雄　今津源右衞門

中村舜二　原伊三郎　瀧澤七郎　國枝捨次郎　大井善藏
委員ハ**五木田治郎吉君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、原案ヲ可決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シタルガ、同時ニ左ノ少數者意見報告アリタリ。

諮問第八號案調査委員少數者意見報告

本員等ハ本件ハ許可セラレ度旨答申スルノ意見ヲ有ス

右報告候也

昭和三年七月十日

右調査委員

倉田金三郎　大野敬吉　金子東一
戸倉嘉市　藤原俊雄　中村舜二

東京市會議長小島七郎殿

本案議題ト爲ルヤ、**五木田委員長**ハ左ノ如ク委員會ノ經過ヲ報告セリ。

吾々ハ第一回ノ會議ニ於テ委員長ノ選擧ヲ行ヒタルニ、不肖其任ニ當ルコトトナリ、爾來愼重審議ヲ重ネタル結果、本案ニ對シ、委員中意見二派ニ分ルルニ至レリ、即チ其一ハ原案承認說ニシテ、其二ハ帝都交通整備上、本線ヲ許可スベク答申セントノ說是ナリ。而シテ採決ノ結果、多數ヲ以テ原案ヲ承認スルニ決シ、反對意見ハ少數ヲ以テ倒レタルモ、少數意見ハ尙留保セラレタリ。

次ニ**中村舜二君**ハ左ノ如ク少數意見ヲ說明セリ。

近代ノ大都市ノ密集生活ニ於テ、市民ノ幸福ヲ助長シ、其生活ヲシテ大ニ有意義ナラシムル爲ニハ、近代科學ノ粹ヲ集メタル幾多ノ文明的施設ニ俟タザルベカラズ、就中吾人ノ生活ニ緊切重要ノ關係ヲ有スルモノハ、交通機關ノ完備充實ノ問題ナリ。我ガ東京市ニ於テハ、立體的發達ノ傾向甚ダ緩慢ニシテ著ク平面的ニ發達シツヽアリ、殊ニ近世ノ都市生活ノ樣式トシテ、住宅ト商店又ハ事務所ガ、郊外ト市內トニ分置セラルヽノ關係ヨリ見テ、交通機關ハ市ノ內外ノ連絡ヲ緊密ニシ、以テ吾人ノ利便ニ資スルヲ要ス。此見地ヨリシテ、吾人ハ十年一日ノ如ク郊外電車ノ市內乘入ヲ歡迎シ、其必要ヲ論ゼリ。從ツテ京成電車ノ乘入レハ大都市ノ交通機關ノ整備充實ノ爲ニ、余大ニ之ヲ歡迎ス、端的ニ言ヘバ、本問題ハ民間一營利會社ノ營業政策ニ過ギザルモ、實際重大ナル影響ヲ市民生活ニ及ボスモノナルコトヲ記セザルベカラズ、吾人ノ眼中固ヨリ京成モナク、京王モナク、又京濱モナシ、唯大局ノ上ヨリ東京市ノ交通機關ノ充實ヲ希望スル爲、此意見ヲ主張スルノミ。試ニ大阪ヲ見ヨ、其都心若クハ其近接地ニ於テ、西スレバ直チニ神戶ヲ指スベク、東スレバ直チニ京都ヲ指スベク、或ハ奈良ニ、和歌山ニ、出入往復頗ル容易ナルハ、吾人ノ最モ利便ヲ感ズル所ニシテ、東京市モ亦此ノ如キ交通ノ便ヲ有スルニ至ルコトハ、吾人年來ノ希望ナリ。故ニ余ハ大東京市全部ノ市民ガ、此乘入ニ贊成スベキ理由ヲ有スルコトヲ信ジテ疑ハズ、現ニ本件ガ一タビ東京市會ノ問題トナルヤ、都下ノ大新聞ハ極メテ之ヲ重視シ、可否ノ批評ニ囂々タリ、而カモ大多數ノ市民ハ大ニ之ヲ歡迎シ、僅ニ江東ノ一角ニ於テ之ヲ呪フノ聲ヲ聞クニ過ギズ、吾々ハ都市ノ交通政策上、其事業ニシテ苟モ必要ナル限リ、一日モ早ク之ガ實現ニ努ムルコトハ、市民ニ忠實ナル公人ノ職責

ナリト信ズ。又吾々ガ本案ヲ審議スルニ當リ、滑稽ト悲哀ノ念ヲ禁ジ得ザルハ、我東京市ノ理事者ノ交通政策ニ對スル態度ガ極メテ不徹底ナルコトニシテ、彼等ハ本案ノ如キ諸問ニ接スル場合ニ、問題ノ可否得失ヲ考慮セズシテ、無差別的ニ之ニ反對スルヲ常トシ、東京市ノ責任ヲ顧ズシテ、他人ノ企業他人ノ計畫ヲ抑止スルノ態度ヲ執ル、此ノ如キハ政治的又道德的罪惡ナリト斷ズルニ躊躇セズ。請フ東京市ノ現狀ヲ見ヨ、天下萬民ガ疾ニ其必要ヲ認メタル東京地下鐵道ハ、三年ノ昔、東京市會ノ權威アル協贊ヲ得テ、名譽アル東京市長ノ名ニ於テ政府ニ許可ノ申請ヲ爲シタルニ拘ラズ、此申請ハ今尙ホ內務省ノ一屬官ノ手ニ翻弄セラレツヽアリ、京濱十里ノ國道ハ既ニ竣成シテ、坦々砥ノ如ク、久ク市民ノ利用ヲ俟ツモ、東京市ノ乘合自動車ハ未ダ其上ヲ走ルコトヲ許サレザルニ非ズヤ。郊外ヲ繞ル環狀道路モ將ニ完成ヲ告ゲントスルヲ以テ、市ハ之ニ對シテ乘合自動車ノ計畫ヲ立テツヽアルモ、是亦政府ノ爲ニ一蹴セラルヽノ虞アルニ非ズヤ。更ニ又市內ノ交通機關ハ如何、電氣局ガ當然全力ヲ傾注スベキ未成線完成ノ計畫スラ、今日ハ破綻百出、市民ヲシテ危懼ノ念ヲ抱カシメツヽアリ。以上ノ如キ事實ヲ顧慮セズシテ、他人ノ事業ハ總テ之ヲ排斥セントス、是豈誠實ト謂フヲ得ンヤ、故ニ余ハ此機會ニ於テ理事者ノ反省ヲ促サント欲ス。尙又此京成乘入レノ許可ハ、東京市ノ財政ニ打擊ヲ與フベシトノ論アルモ、是レ杞人ノ憂ニ過ギズ、凡ソ交通機關ノ聯絡ガ便利トナルニ隨ヒ、交通ノ量ハ增加スルヲ常トス、故ニ余ハ此乘入レニ依ツテ東京市ノ財政ハ毫モ脅カサルルコトナシト信ズ。是等ノ理由ニ因リ、市ハ直ニ乘入レヲ許可シ、當業者ヲ督勵シテ、速ニ其目的ヲ達成セシメ、以テ大東京市ノ交通機關ノ利便ヲ計ルベキナリ。但シ余ハ本問題ニ贊成スルニ當リ、衷心ヨリ遺憾ニ感ズルコトアリ、即チ此乘入レノ爲ニ、隅田ノ名公園ハ中斷サルルニ至ルベク、更ニ他日複

複線等ノ計畫ヲ見ルガ如キコトアラバ、公園ノ風致ハ一層破壞セラルベシ、然レ共都市交通政策ノ完備充實ノ爲ニハ、多少ノ犧牲ヲ忍バザルベカラズ。尙ホ本問題ニ關聯シテ、余ノ同情ニ堪ヘザルコトハ、此乘入レノ爲ニ本所區ノ一角ニ於テ、取拂ノ厄ヲ被ルベキ沿道ノ住民諸君ノ境遇ナリ。今ヤ區劃整理ハ大體ニ於テ竣成ヲ見、諸君ハ漸ク其堵ニ安ンズルヲ得ルニ至リタル時、更ニ移轉ノ脅威ヲ受クルハ、洵ニ同情ヲ禁ズル能ハザル所ニシテ、諸君ガ日夕此炎天ヲ侵シテ乘入レ反對ノ運動ヲ試ミラルルノ點ニ關シテハ、余ハ滿腔ノ同情ヲ表スル者ナリ。而カモ諸君ハ大都市四百五十萬市民ノ利益ノ爲ニ、犧牲的精神ヲ以テ忍ブベカラザルヲ忍バレンコトヲ切望ス、以上ノ意味ニ於テ、余ハ乘入案ノ許可ヲ主張ス。但シ其條件トシテ許可ト同時ニ、主務省ニ於テハ軌道敷設ノ認可後少クトモ二年以內ニ工事竣成ヲ命ジ、且ツ工事施行ニ當リテハ、當局ニ出願スルニ先チ、豫メ本市長ノ諒解ヲ得ルコト、本市ガ公益ノ爲ニ軌道其他營業上必要ナル物件ヲ買收セントスル場合ニハ、會社ハ之ヲ拒ムヲ得ザルコトヲ命ズルヲ要ス。本問題ノ如キハ、政黨政派ノ感情ニ囚ハルベキモノニ非ザレバ、願クハ滿場一致、本案ノ通過ニ努力セラレンコトヲ。

右中村君ノ少數意見ノ說明ノ後ヲ承ケ、**小俣政一君**ハ左ノ如ク論ゼリ。

本員ハ此問題ニ付テハ委員長報告ニ贊意ヲ表ス。中村君ハ此問題ニ反對スル者ハ江東ノ一角ノミト云ヘルモ、吾々ノミニ非ズ。抑ミ京成電車延長ノ申請ハ、市會ヲ煩スコト今日迄既ニ六回、而シテ前回市會ニ提案セラレタルハ大正十二年六月二十九日ト記憶スルガ、當時理事者ハ、此延長ノ申請ニ對シ、軌道ノ兩側ニ八「メートル」ノ道路ヲ造ルコト、道路交通上保安設備ヲ爲スコトノ二條件ヲ附スルトキハ、之ヲ許可スルモ支障ナシトノ意見ヲ有シタルガ、兎モ角十一名ノ委員付託トナリ、委員會ニ於テ審議ノ結果、多

數ヲ以テ條件附許可ニ決シタレバ、當時瀧澤君外二名ト余トハ本會ニ於テ大ニ論爭スルノ覺悟ヲ以テ少數意見ヲ留保シタルガ、幸ニシテ本會議ニ於テハ論爭ノ必要モナク、大勢ハ此申請ヲ許可セザルコトニ決セリ。今回市會ニ提案セラレタル問題ハ、三年前ノモノト其內容ニ於テ殆ド同一ニシテ、唯軌道ノ方向ニ於テ、僅ニ異ル所アリ、即チ前回ノ設計ハ請地ヨリ淺草材木町ニ達シタルモ、今回ハ約一丁內外北ニ轉ジ、請地ヨリ花川戶町ニ達スルノ計畫ナリ、然ラバ則チ三年前ノ東京市會ガ、東京市百年ノ大計ヨリ見テ、大多數ヲ以テ否決シタル本問題ハ、今日ノ市會ニ於テモ、前回ト同樣、大多數ヲ以テ否決セラルベキモノト、余ハ確信シテ疑ハズ。中村君ハ枝葉末節ノ點ノミヲ論議シ大局ヲ見ルノ明ナキヲ遺憾トス、吾人ガ乘入レノ絕對不許可ヲ主張スルハ、斷ジテ江東一角ノ利害ニ立脚スルニ非ズシテ、第一ニハ東京市ノ交通政策ノ根本方針ニ基クモノナリ。東京市ガ市民交通ノ利便ヲ增進スル爲ニ、市內ノ交通機關ヲ統一シテ、之ヲ公營トスルコトハ、市ガ多年主張シ來リタル所ニシテ、市民モ亦之ヲ是認セリ。第二ニハ、交通計畫上ヨリ、余ハ乘入レニ反對ス、東京市ハ交通ノ緩和ヲ圖ランガ爲ニ、高速度地下鐵道ヲ計畫シ、之ヲ將來ニ實現スルノ目的ヲ以テ、調査研究ヲ遂ゲ、其實行ニ移リツヽアリ、然ルニ今若シ京成電車ノ乘入レヲ許可スルトキハ、此大計畫遂行ノ上ニ大ナル惡影響ヲ及ボスハ、論ヲ俟タザルナリ。第三ニハ、東京市ノ經濟政策上之ニ絕對ニ反對セザルヲ得ズ、現在路面電車及乘合自動車等ノ收入激減シ、電氣局ノ財政ハ非常ナル窮境ニ陷レルガ、若シ此乘入レヲ許可センカ、市電柳島終點ヨリ雷門ニ到ルノ間、竝ニ市營乘合自動車押上ヨリ雷門ニ到ル路線ノ收入ハ激減シ、一營利會社ノ貪慾ヲ滿スガ爲ニ、東京市ノ財政難ハ益〻深刻化スルヲ免レザルベシ、吾人ハ苟モ市民ノ代表者トシテ、營利會社ノ此專橫ナル計畫ヲ敢然一蹴セザルベカラズ。尙又本計畫ハ高架式ヲ採用スト聞クガ、今世界ニ於ケル交通計畫ノ實情ヲ達觀スルニ、路面電車ハ路下

式トナリ、高架鐵道ハ地下鐵道トナルノ狀勢ニ在ルニ拘ハラズ、時代遲レノ高架式軌道ノ敷設ヲ許スガ如キハ、余ハ其矛盾撞着ニ驚カザルヲ得ズ。加之若シ此乘入レガ許可セラルヽトキハ、沿道ノ住民ハ常ニ不快ナル音響ト震動トノ爲ニ惱マサレ、保健上洵ニ重大ナル問題ヲ惹起スベク、且ツ本所北部竝ニ花川戶ノ住民ハ、其居宅ヲ奪ハレ、職業ヲ奪ハレテ、直チニ生活ノ安定ヲ脅威セラルヽニ至ルベキハ勿論ナルガ、吾々ハ東京市民ノ代表者トシテ、市民ノ生活ヲ脅威シ、其住宅ノ安定ト其職業トヲ脅威スルガ如キ政策ニ對シテハ、大ニ考慮セザルヲ得ズ、殊ニ淺草及本所ニ跨ル雄大ナル隅田公園ノ新設ハ、今ヤ工事ノ進行中ナルガ、日本ニ於ケル最初ノ水ノ公園ハ、若シ高架鐵道ノ爲ニ橫斷サルヽトキハ、其美觀ヲ根底ヨリ破壞セラルベシ、以上ノ理由ニ依リ、余ハ此乘入レハ斷ジテ許可セラルベキモノニ非ズト信ズ、願クハ名譽アル本議場ニ於テ三年前ニ葬ラレタル此申請ヲ今日モ亦三年前ト同樣ニ、滿場一致ヲ以テ一蹴セラレムコトヲ希望シテ止マザルナリ。

此時議長(副議長入山祐治郎君)中村君ノ意見ハ條件ヲ付シテ許可スベシト云フニ在ルカト質シタル後、此條件ヲ明確ナラシムル爲文書ニ認メ、石橋書記長ヲシテ之ヲ朗讀セシメタリ。

條件

一、主務省ニ於テ軌道敷設認可後二年以內ニ完成スヘキコト

一、工事施行ニ方リ當局ヘ出願前ニ豫メ本市長ノ承認ヲ求ムルコト

一、本市カ公益ノ爲軌道其他營業上必要ナル物件ヲ買收セムントスルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルコト

此朗讀終リタル後、瀧澤七郎君左ノ如ク論ゼリ。

中村君ノ所謂市民生活ノ改善ニハ固ヨリ贊成ナルモ、余ハ同君ト着眼點ヲ異ニス、同君ハ江東ノ一小部分ハ東京

市全體ノ爲ニ忍バザルベカラズト言ヘルモ、東京市二百萬ノ人口中、本所區ハ二十一萬ヲ占メ、而カモ其三分ノ一ノ勢力ヲ有スル七萬ノ區民ノ盛衰ニ關スル問題ハ、東京市民ニ取リテ決シテ小ナリト云フベキニ非ズ。又大局論トシテハ、東京市ノ郊外電車ニ市內乘入レヲ許スカ否カハ、議論ノ岐ルヽ所ナルガ、余ハ遺憾ナガラ中村君ノ都心ニ近ク幾多ノ郊外線ヲ引入ルベシトノ說ニ反對スル者ナリ。假リニ今本案ノ乘入レヲ許ストセンカ、現ニ江東電氣ハ向島ヲ經テ馬道八丁目ニ達スル路線ノ出願中ナルヲ以テ、之ヲモ許可セザルベカラズ。更ニ聞ク所ニ據レバ、此種ノ出願計畫中ノモノ三十有餘ニ上ルト云フ、而カモ池袋、板橋、淀橋、目黑、澁谷方面ニ對スル乘入レ出願ハ全部之ヲ許可セザルニ拘ラズ、獨リ本所ノミニ對シテハ京成電車モ引入ルベシ、東武鐵道モ引入ルベシト云フハ、虐待ノ甚シキモノニ非ズヤ。諸君、此問題ハ今ハ僅ニ江東一部ノ問題ナリ、然レドモ本案一タビ通過セバ、更ニ第二、第三ノ乘入案ハ必ズ隨時提出セラルベク、今日本案ヲ許可スル結果、他日第二、第三、其他多數ノ乘入案ヲ許可セザルヲ得ザルニ至ルノ勢ヲ招致セバ、其時諸君ハ始メテ本所區民ガ今日乘入案ニ反對シツヽアル理由ヲ覺ルナラン、吾人ハ諸君ガ他日窮境ニ立ツコトヲ防グ爲ニ、現在奮鬪シツヽアリ。殊ニ東京市ノ唯一ノ交通機關タル路面電車ハ、二億ノ負債ニ呻吟シツヽアリ、然ルニ三十有餘ノ電車ガ郊外ヨリ市內ニ引入レラルヽトキハ、二百萬市民一人當百圓ノ此負債ノ償還ヲ如何ニ處理セントスルカ。中村君ハ本所一角ノ人々ニ同情スト言ヘルガ、願ハクハ此同情ノ範圍ヲ東京市民ノ全部ニ擴大シ、他日彼等ガ今日ノ本所區民ト同樣ノ苦境ニ陷ルベシトノ先見ノ明ヲ以テ、少數意見ヲ撤回シ、原案ニ贊成アランコトヲ。

此時藤原俊雄君ハ討論終結ノ動議ヲ提出シ、大多數ヲ以テ成立シタルガ、本案採決ノ方法ニ關シテハ豫メ大野敬吉君ヨリ無記名投票ニ依ルベシトノ動議提出シアリタレバ、之ガ贊否ヲ起立ニ問ヒ、議長（入山副議長）贊成多數ト宣シタルモ、異議アリタルヲ以テ、氏名點呼ヲ行ヒタルニ、無記名投票贊成者ハ三十ニ對スル四十七ノ多數ヲ占メタリ、仍テ先ヅ少數意見ニ就キ無記名投票ヲ以テ採決シタルニ、中村君ノ少數意見ハ三十五ニ對スル四十二ノ多數ヲ以テ可決セラレタリ。

第貳拾八節　東京市電氣研究所職員ノ爲シタル發明ニ關スル規程設定ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百四號

東京市電氣研究所職員ノ爲シタル發明ニ關スル規程設定ノ件

本市電氣研究所職員ノ爲シタル發明ニ關スル規程左ノ通設定スルモノトス

東京市電氣研究所職員ノ爲シタル發明ニ關スル規程

第一條　本規程ニ於テ職員ト稱スルハ東京市電氣研究所ニ勤務スル吏員、雇員及之ニ準スル者竝囑託員ヲ謂フ

第二條　職員カ其ノ職務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上電氣研究所ノ事務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ職員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付テノ特許ヲ受クルノ權利ハ市長ノ認ムル所ニ依リ本市之ヲ承繼スルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ本市ニ於テ特許ヲ受クルノ權利若ハ特許權ヲ承繼シ特許權ヲ保有スル場合又ハ發明者若ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許權ヲ保有シ之ニ對シ本市カ實施權ヲ保有スル場合ニ於テ特許發

明ノ實施又ハ特許權、實施權ノ處分ニ依リ各號ニ相當スル取得金アリタルトキハ發明者若ハ特許權者ニ對シ補償金ヲ支給ス

一　特許發明ノ實施ニ依リ利益金ヲ得タルトキ

二　特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シ報酬金ノ支拂ヲ受ケタルトキ

三　特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ノ讓渡ニ依リ代償金ヲ取得シタルトキ

四　法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ補償金ノ支拂ヲ受ケタルトキ

五　特許權ノ收用、制限又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金ノ交付ヲ受ケタルトキ

前項補償金ハ發明ノ實施ニ關スル人件費、材料費、製作費其ノ他雜費ヲ控除シ計算上本市ニ於テ發明ノ爲取得シタル利益金アリタルトキニ限ル

第四條　本市ニ於テ發明者又ハ特許權者ニ支給スヘキ補償金ハ第三條ノ規定ニ依リ計算シタル發明ニ依ル利益金ノ百分ノ五十以內トシ市長之ヲ定ム

數人ノ職員カ共同シテ發明シタルモノナルトキハ前項補償金ハ其ノ總額ノ範圍ニ於テ各發明協力ノ程度ニ應シ市長之カ分與額ヲ定ム

第五條　第三條ニ依リ發明者又ハ特許權者ニ對シ支給スル補償金ハ精算ノ上翌年六月ニ於テ之ヲ支拂フ但シ必要アルトキハ補償金ノ一部ヲ交付スルコトヲ得

第六條　第三條ノ規定ニ依リ發明者ニ支給スヘキ補償金ハ發明者退職又ハ解職ノ後ト雖之ヲ支給ス發明者又ハ特許權者死亡シタルトキハ第三條ニ依ル補償金ハ其ノ相續人又ハ遺族ニ之ヲ支給ス

第七條　特許出願、特許手數料其ノ他特許ニ關スル費用ハ本市之ヲ負擔ス但シ發明者カ特許權ヲ保有スル場合ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　市長適當ト認メタルトキハ本市ノ保有スル特許權又ハ實施權ヲ讓渡スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第九條　本市カ特許權ヲ保有スル場合ニ於テ之カ實施ヲ爲サヽルトキハ發明者ノ請求ニ依リ市長ハ特許ニ關シ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ辨償セシメ發明者ニ特許權ヲ讓渡スルコトヲ得

市長特許權又ハ實施權保有ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テ其ノ發明者又ハ特許權者タリシ者ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第十條　前條第二項ノ場合ニ於テハ發明者又ハ特許權者タリシ者特許權又ハ實施權ノ讓受ヲ爲サヽルトキハ市長ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ發明者ハ本市ニ對シ之ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘシ

一　發明者自ラ之ヲ實施シ又ハ故意ニ他人ニ發明ノ內容ヲ知ラシメ且他人ヲシテ實施セシメタルトキ

二　故意ニ自己又ハ他人ヲシテ發明ノ實施ヲ妨害セシメタルトキ

第十二條　職員ノ爲シタル實用新案ニ關シテハ前各條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

第十四條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　本規程施行前ノ發明又ハ實用新案ニシテ第二條ニ依リ權利ノ承繼ヲ適當ナリト認ムルモノニ對シテハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

說明　本市電氣研究所職員中其ノ職務ニ關シ發明ヲ爲ス者アルヲ以テ特許法ニ依リ勤務規程及之カ補償ノ規程ヲ設定スルノ必要アルヲ認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

特許法抄錄

第一條　新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第二條　特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第四條　本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ

二　特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第十二條　特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條　特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與フルコトヲ得

收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許出願ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第三十四條　特許權ハ登錄ニ依リ發生ス

第三十五條　特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權ト牴觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十七條　特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十九條　特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條　特許發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

昭和年間　第貳章　昭和三年　第貳拾八節　東京市電氣研究所職員ノ爲シタル發明ニ關スル規程設定ノ件

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ヲ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十三條　特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ原特許權ノ發期間ト第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條　特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第四十五條　特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條　特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條　特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條　特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス但シ第四十一條ノ決定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十二條　特許發明ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

本案ハ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ議長指名十五名ノ委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

吉井濱治郎　橋本直一　西村吉兵衛　小幡敏男　方山正隆
大橋誠一　島多郎　天野富太郎　高橋秀臣　戸倉嘉市
山本繁吉　岡本瀧雄　小島龜藏　原伊三郎　小栗富五郎

委員ハ**高橋秀臣君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シテ、報告通リ可決セラレタリ。

第貳拾九節　東京市公園特殊施設條例中改正ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百五號

東京市公園特殊施設使用條例中改正ノ件

東京市公園特殊施設使用條例中左ノ通改正ス

「第一章　總則」ヲ削ル

第四條中「承認ノ際」ノ下ニ「別表」ヲ加フ

別表

一使用料

名稱	使用回分	
音樂室	日比谷公園音樂堂	晝間	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	一回ニ付 八十圓
			入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ	一回ニ付 二百圓
		夜間	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	一回ニ付 百圓
			入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ	一回ニ付 二百五十圓
		備付ピアノ毎回別ニ二十五圓		
陳列所	日比谷公園陳列所	一日一坪當リ十錢		

名稱	種別	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ
競技場	芝公園陸上競技場	小學校、青少年團及之ニ準スル團體 一般	一日ニ付 二十圓 四十圓 八十圓	一日ニ付 四十圓 八十圓 百六十圓

名稱	種別	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ
庭球場	日比谷公園庭球場	一箇所 全部 一時間以內	一圓	三圓
		二時間以內	一圓	六圓
		四時間以內	三圓	九圓
		六時間以內	六圓	十八圓
		八時間以內	九圓	二十四圓
	芝公園庭球場	一箇所 全部 一時間以內	三十錢	六十錢
		二時間以內	六十錢	一圓八十錢
		四時間以內	一圓八十錢	三圓六十錢
		六時間以內	三圓六十錢	五圓四十錢
		八時間以內	五圓四十錢	十圓八十錢

名稱	種別	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ
水泳場	芝公園水泳場	一日ニ付 百五十圓	一日ニ付 二百五十圓

名稱	使用料
庭園	芝離宮恩賜庭園	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ
	清澄庭園	一日ニ付 百二十圓
	舊安田庭園	一日ニ付 百八十圓
		一日ニ付 六十圓

園	摘	要	
集會場	大正記念館	活動寫眞撮影等ノ爲庭園ノ一部ヲ使用スルモノノ使用料ニ付テハ右使用料ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム	
	同豫備室	一回(五時間以内)	三十圓
	同別館	一回(五時間以内)	一室　三圓
	涼亭	一回(五時間以内)	六圓
	日比谷公園舊音樂堂	一回(五時間以内)	十五圓
	芝離宮恩賜庭園馬見場	一回(五時間以内)	二十圓
		一回(五時間以内)	八圓

二　入場料

動物園	上野恩賜公園動物園	十二歳以上ノ者	一人ニ付　十五錢
		六歳以上十二歳未滿ノ者	一人ニ付　十錢
音樂堂	日比谷公園音樂堂	五十錢以内ニ於テ其ノ都度市長之ヲ定ム	
競技場	芝公園陸上競技場	一人一回十錢	
水泳場	芝公園水泳場	一人一回十錢	

第七條但書ヲ適用スル場合ニ在リテハ當該料金ヲ以テ他日ニ於テ其ノ使用料及入場料ノ全部又ハ一部ニ充當スルコトヲ得

第二章以下ヲ削ル

附　則

本條令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　特殊施設ノ開設ニ伴ヒ之カ使用料ヲ制定スルト設備改良ニ伴ヒ相當增額ヲ適當トスルモノアリ旁複雜セル使用料及入場料ヲ一表ニ統一スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

（參考）

東京市公園特殊施設使用條例

第一章　總　則

第一條　本市公園特殊施設ヲ使用セムトスル者ハ本條例ノ定ムルトコロニ依リ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　特殊施設ヲ主タル目的以外ニ使用セムトスル者ニハ市參事會ノ議決ヲ經テ承認スルコトアルヘシ

第三條　本條例中特殊施設ト稱スルハ教育、體育及娛樂ノ目的ヲ以テスル設備ニシテ使用料又ハ入場料ヲ徵收スルモノヲ謂フ

第四條　特殊施設ノ使用ニ付テハ承認ノ際使用料又ハ入場料ヲ徵收ス但シ市長ニ於テ相當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第五條　市長ハ特殊施設ノ使用承認ニ付管理上必要ナル條件ヲ附シ又ハ保證金ヲ徵シ若ハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

第六條　使用者ハ其ノ權利ヲ讓渡シ又ハ轉貸スルコトヲ得ス

第七條　既納ノ使用料又ハ入場料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

一　使用者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ使用スルコト能ハサルトキ

二　第九條第二號、第三號ニ依リ施設ノ使用承認ヲ取消シタルトキ

三　使用前使用承認ノ取消又ハ變更ノ申出ヲ爲シ市長相當ノ事由アリト認メタルトキ

第八條　使用者ハ特殊施設ニ特別ノ設備ヲ爲シ又ハ變更ヲ加フルコトヲ得ス但シ豫メ市長ノ承認ヲ受ケタル者ハ此ノ限リニアラス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ其ノ使用條件ヲ變更シ、使用ヲ停止シ又ハ使用承認ヲ取消スコトアルヘシ

一　使用承認ノ目的又ハ條件ニ違反シタルトキ

二　公益上必要ト認ムルトキ

三　本市ニ於テ必要ヲ生シタルトキ

四　本條例又ハ其ノ他之ニ基キテ發スル規定ニ違反シタルトキ

第十條　使用者其ノ使用ヲ終リタルトキ、使用ヲ停止セラレタルトキ又ハ使用ノ承認ヲ取消サレタルトキハ直ニ該施設ヲ原狀ニ回復シテ返還スヘシ

昭和年間　第貳章　昭和三年　第貳拾九節　東京市公園特殊施設條例中改正ノ件

第十一條　使用者特殊施設ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第十二條　特殊施設ノ使用ニ關シ本條例ニ定ムルモノヽ外必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　日比谷公園音樂堂

第十三條　本市カ音樂堂ニ於テ奏樂演伎等ヲ行フトキハ一人ニ付三十錢以内ノ入場料ヲ徴收スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル料額ハ市長之ヲ定ム

音樂堂全部使用ニ付テハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ徴收ス

使用種別	使用料			
	入場料會費ノ類ヲ徴收セサルモノ		入場料會費ノ類ヲ徴收スルモノ	
	晝間	夜間	晝間	夜間
百圓	八十圓	二百五十圓	二百圓	

但シビアノヲ使用スル場合ニ於テハ毎回別ニ二十五圓ヲ徴收ス

第十四條　第十三條第一項ニ依ル入場料徴收後奏樂、演伎等ヲ行ハサル場合ニ在リテハ當該料金ノ領收證ヲ有スル者ハ其ノ後一年以内ニ於テ本市ノ行フ奏樂、演伎等ニ限リ其ノ入場料ノ全部又ハ一部ニ充當スルコトヲ得

第三章　芝公園水泳場

第十五條　水泳場ノ入場料ハ一人ニ付一回十錢トス

水泳場全部ノ使用料ハ一口ニ付二百五十圓トス

第四章　上野恩賜公園動物園

第十六條　動物園ノ觀覽ニ付テハ左ノ區別ニ依リ入場料ヲ徴收ス但シ六歳未滿ノ小兒ハ無料トス

一　十二歳以上ノ者　一人ニ付十錢

二　六歳以上十二歳未滿ノ者　同　五錢

五十人以上ノ團體ニ對シテハ前項ノ入場料ヲ半減スルコトヲ得

第十七條　動物園ノ入場料ニ付テハ第七條但書ヲ適用セス

第五章　庭球場

第十八條　庭球場ノ使用ニ付テハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ徴收ス

種別	一時間	一時間以上二時間未滿	二時間以上四時間未滿	四時間以上六時間未滿	六時間以上八時間未滿
日比谷公園庭球場　一ケ所全部	五十錢	一圓	三圓	六圓	九圓
芝公園庭球場　一ケ所全部	三十錢	六十錢	一圓八十錢	三圓六十錢	五圓四十錢
			五圓四十錢	十圓八十錢	十六圓二十錢

第十九條　第七條ニ依リ使用料ノ一部ヲ還付スル場合ニ於テハ其ノ使用シタル時間ニ對スル割合料金ヲ控除シタル金額トス但シ一時間ニ滿タサル端數ハ之ヲ一時間ト看做シ計算ス

第六章　芝公園陸上競技場

第二十條　競技場ノ入場料ハ一人ニ付一回十錢トス

豫メ日時ヲ具シ市長ノ承認ヲ經タル小學校兒童ニシテ職員引率ノ者ハ一日ニ付二時間以内無料入場セシムルコトヲ得

競技場全部ノ使用料ハ左ノ區別ニ依リ徴收ス

使用料一日ニ付

種別	入場料會費ノ類ヲ徴收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徴收スルモノ
小學校	二十圓	四十圓
學校（小學校ヲ除ク）青少年團之ニ準スル團體	四十圓	八十圓
其他一般	八十圓	百六十圓

昭和年間　第貳章　昭和三年　第貳拾九節　東京市公園特殊施設條例中改正ノ件

第二十一條　集會場ノ使用ニ付テハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ徴收ス

一、大正記念館　一回（五時間以内）三十圓以内
一、同　豫備室　一室一回（同　）三圓以内
一、凉　亭　一回（同　）十五圓以内

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ左ノ條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一　大正十二年十二月十五日市條例第四號東京市公園音樂堂使用條例
一　大正十三年七月九日市條例第八號芝公園水泳場使用條例
一　大正十三年八月六日市條例第十一號東京市上野公園動物園使用條例

本案ハ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ、前記第百四號議案ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審議ノ末、左記希望ヲ附シ、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シテ、報告通リ可決セラレタリ。

記

理事者ハ動物園ノ施設ヲ改善シ其ノ内容ヲ充實センコトヲ望ム

第參拾節　中小商工業者運轉資金借入ニ對スル保證ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百九號

中小商工業者運轉資金借入ニ對スル保證ノ件

一　本市ハ市長ノ指定シタル信用組合カ東京市内中小商工業者ノ運轉資金ニ融通スル目的ヲ以テ産業組合中央金庫ヨリ借入ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ金額三百萬圓ヲ限リ支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

一　前項ノ組合ニ對シ保證スヘキ金額其ノ他ノ契約ニ付テハ市長之ヲ定ムルモノトス

說明　本市内中小商工業者ノ金融困難ナル現況ニ鑑ミ資金融通ノ便宜ヲ與フルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

本案モ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ、前記（第貳拾八節）第百四號議案ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審査ノ末、左記希望ヲ附シ、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告セリ。

記

一、貸付ヲ公正ニシ組合事業ノ監督ヲ嚴重ニセラレンコトヲ望ム

本報告ノ朗讀終ルヤ、**瀧澤七郎君**問ウテ曰ク、本案ノ目的ハ今回政府ガ中小商工業者救濟資金トシテ東京市ニ參百萬圓ヲ貸付ケ、市ハ之ニ保證シテ更ニ其金ヲ市民ニ貸付ケントスルニ在リテ、其方法トシテハ現今ノ燒失地域ノ木造建築組合ヲ普通ノ産業組合ニ改造シテ、之ニ貸付ケントス、余ノ仄聞スル所ニ據レバ、府理事者ノ調査ノ結果、木造建築組合ハ概シテ好成績ヲ擧ゲツヽアルモ、危險ノ狀態ニ在ルモノ亦尠カラズト、果シテ然ラバ、市ハ此産業組合ヲ充分嚴重ニ監督スルニ非ザレバ、將來何千萬圓ノ損失ヲ補償セザルベカラザルノ虞ナシトセズ、此點ニ關スル理事者ノ意見如何、又若シ理事者ノ意圖ハ現在ノ木造建築組合ヲ改良シテ産業組合ト爲シ、尚ホ從來木造建築組合ノ存立セザル山ノ手方面ニハ、新ニ産業組合ヲ設立セントスルニ在ラバ、更ニ進ンデ東京市民ガ自ラ計畫シ自ラ犧牲ヲ拂ッテ好成績ヲ擧ゲ、未ダ曾テ市ノ恩惠ニ浴シタルコトナキ産業組合ヲ無視セザル方法ヲ講ズルノ意アリヤ如何ト。之ニ對シ助役**船田中君**ハ、木造建築信用組合ノ監督ハ、常ニ充分嚴重ニ之ヲ行ヒタレバ、幸ニシテ今日迄弊害ヲ伴ハズ、猶今

後ハ一層注意ヲ加フベシ。第二ノ既存ノ組合ニ對シテ貸付ヲ爲スヤ否ヤノ點ニ付テハ、監督官廳ノ意見ヲ參酌シテ考究セント欲スト答ヘタリ。

斯クテ本案ハ委員長報告通リ可決セラレタリ。

第參拾壹節　木造建築資金貸付條例中改正ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百十號

木造建築資金貸付條例中改正ノ件

木造建築資金貸付條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條中「七百萬圓」ヲ「千四百萬圓」ニ改メ「大正十四年度ヨリ大正十八年度ニ至ル五箇年度間ニ於テ」ヲ削ル

第三條中「其ノ業務ノ範圍ヲ單ニ」ヲ削リ「貯金ノ便宜ヲ得セシムルコトノミ」ヲ「貯金便宜ヲ得セシムルコト」ニ改ム

第三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ組合特別ノ事情アルトキハ市長ノ承認ヲ得テ組合員ニ對シ其ノ產業ニ必要ナル資金貸付ノ業務ヲ取扱フコトヲ得

第四條第二項第一號中「ハ」ノ次ニ「第三條第二項ニ定ムル資金ノミノ貸付ヲ受ケムトスルモノハ　ロ及ハニ依ラサルコトヲ得」ヲ加フ

第五條中「前條組合ニ於ケル」ヲ「建築資金ノ貸付ヲ受クル」ニ改ム

說明　木造建築資金ヲ增額シ市民ノ要望ニ副フト共ニ之カ取扱ヲ爲セル信用組合ニ對シ產業ノ發達ニ必要ナル資金ヲ取扱ハシムル爲本條例改正ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

木造建築資金貸付條例拔萃

第二條　貸付スヘキ建築資金ノ總額ハ七百萬圓以內トシ每年度ノ貸付金額ハ大正十四年度ヨリ大正十八年度ニ至ル五箇年度間ニ於テ市カ本資金ノ爲政府ヨリ融通ヲ受クル金額ト同額トス

第三條　本條例ニ依リ建築資金ノ貸付ヲ受クヘキ者ハ木造建築ノ助成ヲ目的トシ產業組合法ニ依リ設立シタル信用組合ニシテ其ノ組合ノ區域ヲ東京市ノ區一圓ト定メ其ノ業務ノ範圍ヲ單ニ組合員ニ對シ木造ノ店舖若ハ店舖向住宅ノ建築ニ要スル資金ヲ貸付スルコト及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコトノミヲ目的トシテ新ニ設立シタルモノニ限ル

第四條　本條例ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケムカ爲信用組合ヲ設立セムトスル者ハ定款其ノ他ノ事項ニ付設立許可申請以前ニ於テ豫メ市長ニ協議シ其ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ定款ニハ左ノ各號ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合員ノ資格

イ　其ノ組合ノ區域內ニ住所若ハ居所ヲ有シ獨立ノ生計ヲ營ミ現ニ營業ヲ爲シ若ハ將來確實ニ營業ヲ開始スルコト

ロ　其ノ組合ノ區域內ニ店舖若ハ店舖向住宅ノ建築ニ要スル土地ヲ所有シ若ハ地上權又ハ借地權ヲ有スルコト

ハ　住宅組合法ニ依ル住宅組合ノ組合員及住宅ノ建築ヲ目的トシ若ハ住宅建築資金ノ貸付ヲ目的トスル他ノ產業組合ノ組合員ハ本組合ノ組合員タルヲ得サルコト

二　組合ノ存立時期　組合ノ存立時期ヲ二十五年トスルコト

三　出資一口ノ金額及出資口數　出資一口ノ金額ヲ五十圓トシ組合員ハ出資五十口迄ヲ所有スルヲ得ルコト

四　事業年度　組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ルコト

第五條　前條組合ニ於ケル組合員一人ノ出資口數ハ十口ヲ下ラサルヲ要ス

昭和年間　第貳章　昭和三年　第參拾壹節　木造建築資金貸付條例中改正ノ件

本案ハ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ、前記（第貳拾八節）第百四號議案ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審査ノ末、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シテ報告通可決セラレタリ。

第參拾貳節　區公會堂使用條例設定ノ件

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百十三號

東京市區公會堂使用條例設定ノ件

東京市區公會堂使用條例左ノ通設定スルモノトス

東京市區公會堂使用條例

第一條　本條例ハ區ノ公會堂ノ使用ニ關シ之ヲ適用ス

第二條　公會堂ヲ使用セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ本條例ノ定ムル所ニ依リ當該區長ノ承認ヲ受クヘシ

一　使用ノ日時

二　使用ノ目的

三　入場料、會費等徵收ノ有無

四　集合人員豫定數

五　使用者ノ住所氏名年齡

六　其ノ他必要ナル事項

第三條　公會堂ノ使用料額ハ左ノ範圍内ニ於テ區長其ノ區會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

使用種別		入場料會費等ヲ徵收セサルモノ	入場料會費等ヲ徵收スルモノ
公會堂及附屬室使用ノ場合	最高	三〇円	六〇円
	最低	一〇〇	二〇〇
附屬室ノミ使用ノ場合	最高	九	一五
	最低	三	一

使用一回五時間以内トス

前項ノ使用時間五時間ヲ超ユルトキハ一時間ヲ增ス毎ニ前項使用料額ノ一割五分ヲ加フ但シ一時間未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツルモノトス

第四條　公會堂ノ使用ニ付テハ承認ノ際前條ニ定ムル使用料ヲ徵收ス但シ區長ニ於テ相當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第五條　區長ハ公會堂使用承認ニ付管理上必要ナル條件ヲ附シ又ハ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六條　使用者ハ其ノ權利ヲ讓渡シ又ハ轉貸スルコトヲ得ス

第七條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ場合ニ於テハ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

一　使用者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ使用スルコト能ハサルトキ

二　第九條第三號ニ依リ使用承認ヲ取消シタルトキ

三　使用前ニ使用承認ノ取消又ハ變更ノ申出ヲ爲シ區長ニ於テ相當ノ事由アリト認ムルトキ

第八條　使用者公會堂ニ特別ノ設備ヲ爲サムトスルトキハ豫メ區長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ區長ハ其ノ使用條件ヲ變更シ使用ヲ停止シ又ハ使用承認ヲ取消スコトアルヘシ

一　使用承認ノ條件ニ違背シタルトキ

二　本條例其ノ他之ニ基ク規定ニ反シタルトキ

三　其ノ他區長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十條　使用者其ノ使用ヲ終リタルトキ使用ヲ停止セラレタルトキ又ハ使用承認ヲ取消サレタルトキハ直ニ其ノ使用場所ヲ原狀ニ回復シテ返還スヘシ

使用者前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ區長ニ於テ之ヲ執行シ其ノ費用ヲ徵收ス

第十一條　使用ニ付建物又ハ附屬物ヲ毀損若ハ滅失シタルトキハ使用者ハ區長ノ定ムル損害額ヲ賠償スヘシ

第十二條　使用者第十條第二項及前條ノ費用ヲ納付セサルトキハ第五條ノ擔保ヲ以テ之カ全部又ハ一部ニ充當スルコトアルヘシ

第十三條　本條例ニ定ムルモノノ外區長ハ市長ノ認可ヲ受ケ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本條例ハ其ノ開設ノ日ヨリ麴町區、日本橋區、京橋區、下谷區、淺草區及本所區ノ公會堂ニ之ヲ適用ス

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　區公會堂開設ニ伴ヒ之カ使用條例設定ノ必要ヲ認メ關係區會ニ諮問シタルニ何レモ異議ナキ旨答申アリタルヲ以テ本案ヲ提出ス

（別紙）

庶發乙第一三六六號ノ三

昭和三年四月十日

東京市助役小野義一殿

東京市公會堂使用條例設定ニ關スル件

三月二十八日財發第五〇八號御照會ニ係ハル標記ノ件本區會ニ於テ別紙ノ通リ決議相成候條及送付候也

決　議　書

昭和三年三月二十八日附財發第五〇八號ヲ以テ東京市長ヨリ本區會ニ諮問相成タル東京市區公會堂使用條例案ハ原案ヲ妥當ナリト認ム

昭和三年四月九日

東京市麴町區長　川部爽介

昭和三年四月二十一日

東京市麴町區會議長　大橋誠一

東京市長市來乙彥殿

日本橋區會議長　菊池長四郎

財發第五〇八號ヲ以テ御諮問ニ係ル東京市公會堂使用條例設定ノ件ハ去ル四月十七日本區會ニ於テ滿場一致ヲ以テ原案承認致候ニ付此段答申候也

區會第五號ノ二

昭和三年四月二十八日

東京市京橋區會議長　小坂梅吉

東京市長市來乙彥殿

東京市區公會堂使用條例案諮問答申ノ件

客月二十八日付財發第五〇八號ヲ以テ御諮問相成候東京市區公會堂使用條例案ニ對シ本區會ハ異議無之事ニ決定候條此段答申候也

庶教發第五九四號

昭和三年四月二十日

昭和年間　第貳章　昭和三年　第參拾貳節　區公會堂使用條例設定ノ件

東京市長市來乙彥殿

東京市區公會堂使用條例設定ニ關スル件

標記ノ件異議無之旨別紙區會ニ於テ決議相成候也

東京市下谷區長　森岡保喜

決議書

一、區公會堂使用條例設定ニ關スル東京市長ヨリノ諮問案ハ原案通可決セリ

昭和三年
淺草區會諮問第一號

東京市區公會堂使用條例設定ノ件

右ニ關シ左記ノ通諮問アリタルニ依リ之ニ對シ異議ナシト答申スルモノトス

昭和三年五月十五日

東京市淺草區長　杉　梅之治

記

財發第五〇八號

淺草區會

東京市區公會堂使用條例ヲ別紙ノ通設定スル爲市制町村制施行令第六十九條ニ依リ其ノ區會ノ意見ヲ諮フ

昭和三年三月二十八日

東京市長　市來乙彥

甲第一、四九八號ノ一
庶第一、四九八號ノ一

昭和三年四月十七日

本所區長　田村瑞穗

東京市助役小野義一殿

東京市區公會堂使用條例設定ニ關スル件回答

客月二十八日財發第五〇八號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ本區會ニ諮問相成候處原案通リ異議無之決定相成候條御了知相成度候

追テ本區會ノ決議ニヨリ區役所廳舍公會堂ヲ區ノ營造物トシテ無償貸付相成度別紙申請書提出候也

本案ハ大橋誠一君ノ動議ニ依リ、第百四號議案ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審議ノ末、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シテ、報告通可決セラレタリ。

▽區役所廳舍一部無償貸付ノ件　左記議案ハ上記第百十三號議案ト同一ノ經過ヲ以テ可決セラレタリ。

第百十四號

區役所廳舍一部無償貸付ノ件

左記區役所廳舍ノ一部ハ區ノ公會堂ニ供用スル場合ニ限リ必要ナル條件ヲ附シ之ヲ區ニ無償貸付スルコトヲ得ルモノトス

記

麹町區	（既設）	
日本橋區	（工事中）	
京橋區	（同）	
下谷區	（同）	
淺草區	（同）	
本所區	（同）	

說明　曩ニ區役所廳舍建設ニ方リ公會堂設置ニ要スル建築資源ヲ區ノ寄附金ニ依リタルモノニ對シ區ノ營造物トシテ管理スルヲ適當ト認メ前記ノ通處理スルモノトシ本案ヲ提出ス

第參拾參節　市役所費雜給其他追加豫算

五月二十五日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレタリ。

第百十八號

昭和三年度東京市歳入出追加豫算

歳入　金八拾四萬五千百拾五圓

歳出　經常部　金六萬五千參百五拾圓
　　臨時部　金七拾七萬九千八百圓
　　合計　金八拾四萬五千百五拾圓

內譯

歳入

第十一款	繰入金（電氣軌道事業費其他ヨリ繰入）	九、五〇〇、〇〇〇圓
第十二款	財產賣拂代（土地物件賣拂代）	二五〇、〇〇〇、〇〇〇
第十三款	繰越金（前年度繰越金）	四五〇、〇〇〇、〇〇〇
第十四款	雜收入（過年度收入）	一三五、六五〇、〇〇〇
	合計	八四五、一五〇、〇〇〇

歳出臨時部

第二十款	公園費（多摩陵建造物移築費其他）	二、〇〇〇、〇〇〇圓
第二十六款	交付金（市場權利者交付金）	七〇〇、〇〇〇、〇〇〇
第二十七款	補助費（大禮記念國產振興博覽會補助其他）	七七、八〇〇、〇〇〇
	合計	八四五、一五〇、〇〇〇

說明　本件ハ左記事由ニ依リ豫算追加ノ爲提出ス。

經常部

市役所費　前市長、助役、參與其ノ他ニ對シ左記ノ通特別慰勞金ヲ贈與スルモノトシ資源ヲ繰入金及過年度市稅ニ需ム

記

金貳萬千圓　前市長西久保弘道　金壹萬貳千圓　前助役勝正憲　金壹萬圓　同大西一郎　金壹萬圓　同松本忠雄　金七千五百圓　前參與（電氣局長）生野團六　金貳千四百圓　前技師（橋梁課長）谷井陽之助　金四百五拾圓　前本所區書記　朝比奈釜三

臨時部　公園費　宮內省ヨリ下付ヲ受ケタル多摩陵建造物其他附屬物ヲ清澄庭園、日比谷公園、上野恩賜公園動物園ニ移築スルモノトシ資源ヲ公園積立金處分繰入ニ需ム

交付金　昭和二年市會第九十四號議決ニ伴ヒ昭和三年度分ノ支出ヲ要スルト昭和二年度交付豫定額カ特殊權利者ノ調査完了ニ至ラサリシニ因リ豫算未執行ニ終リタル爲之ヲ昭和三年度ニ於テ併セテ支出スルヲ適當ト認メ資源ヲ財產賣拂代及前年度繰越金ニ需ム

補助費　產業奬勵上必要ト認メ資源ヲ過年度市稅ニ需ム

本案ハ**大橋誠一君**ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ指名ヲ爲セリ。

倉田金三郎　高橋義次　藤浦富太郎　大崎清作　天野富太郎
田中康三　小森七兵衞　有竹雅已　天利庄次郎　別役增吉
小板久馬吉　中川重政　本田義成　新居友三郎　松崎權四郎

委員ハ**天利庄次郎君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、七月十三日ノ會議ニ報告シタルガ、之ニ對シテ左ノ問答アリタリ。

大野敬吉君　本案ニ據レバ、國産奬勵御大禮記念ノ博覽會ニ、東京市ハ七萬五千圓ヲ補助スルコトトナレルガ、此補助ノ理由如何、市長ハ市會ニモ市會ノ協議會ニモ諮ラズシテ此博覽會ニ協賛シタルガ、市ハ市長ノ面目ノ爲ニ此寄附ヲ爲スカ、又ハ國産奬勵ノ意味カ、或ハ斯ル有益ノ計畫ガ司會者ノ損失ニ終リタル場合ニ、東京市ガ之ヲ補償スルノ意味カ、此三者何レノ理由ナルカ。**第二**、産業組織ノ幼稚ナル時代ニ產業博覽會ノ必要ナルコトハ萬人ノ齊ク認ムル所ナルモ、今日ノ如ク大「デパートメント、ストアー」ノ發達シタル時代ニハ、博覽會ノ規模頗ル大ナルニ非ザレバ、却テ百貨店ノ組織ニ劣ルノ虞アリ。余ハ上野ノ博覽會ガ內容貧弱ニシテ三越、白木屋、松屋等ノ商店ニ比シ、著ク優レルノ觀ナシトノ評ヲ耳ニシタルガ、本案ノ調査委員諸君ハ、該博覽會ガ果シテ日本ノ國產奬勵ノ目的ヲ達シ得タリト思惟スルカ。**第三**、此博覽會ノ司會者タル商業會議所ハ、日本屈指ノ「ブルジヨア」階級ノ集團ナルガ、東京市ハ上野公園ノ一部ヲ博覽會ノ敷地トシテ無償ニテ此富豪階級ニ貸付シタリ、其總坪數ハ如何。**第四**、此博覽會ノ關係者ハ此ノ如ク無償ニテ借リタル土地ヲ、坪參拾圓以上ノ非常ニ高價ナル權利金ヲ以テ轉貸セリト聞クルガ、此轉貸ノ總坪數ト其總益金ハ幾許ナリシカヲ委員諸君ハ調査シタルカ。**第五**、委員ハ博覽會ノ收支決算ヲ調査シタルカ。又博覽會ガ交際費トシテ使用セル金額及其使途如何、蓋シ之ニ依ツテ博覽會司會者ノ目的ト其活動方面トヲ察知スルヲ得ベキガ故ニ、監督補給ノ任ニ當ル者ニ取リテハ、是レ重要問題ナリ。**第六**、博覽會ガ相當ノ利益ヲ上ゲタルコトハ、其終了當時、全市ノ新聞紙ガ齊ク稱揚シタル所ナルガ、事實果シテ如何、願ハクハ計數ヲ知ルヲ得ン。**第七**、補助金額ヲ七萬圓ニ止メズ、七萬五千圓トシテ、特ニ五千圓ヲ加ヘタル計算ノ根據如何。**第八**、此博覽會ノ敷地ニ充ツル爲、公園內ノ樹木ハ補償契約ノ下ニ他ニ移植セラレタルナランモ、其外ニ多數ノ櫻樹ヲ損傷シタルコトハ、當時ノ新聞紙ガ大ニ非難シタル所ナルガ、博覽會終了後、司會者ハ公園ノ被リタル此種ノ損害ヲ賠償スル上ニ、如何ニ誠意ヲ示シタルカ。

此質問ニ對シ、**天利委員長**ハ、大野君ノ周密ナル質問ノ點ハ、多クハ委員會ニ於テモ理事者ニ質シタル所ニシテ、頗ル多岐ニ亘レルガ故ニ、余ハ今之ヲ反覆セズ、請フ委員會ノ記錄ニ依ツテ了知セラレムコトヲ、尙余ハ他ニ述ベムト欲スル所ナキニ非ザルモ、今夕ハ議案山積、時間ノ餘裕ナキヲ恐ルルガ故ニ、多言ヲ避ケテ議事ノ進行ニ資セント答ヘタリ。

是ニ於テ**大野君**ハ再ビ起チテ曰ク、余ハ記錄ヲ一讀シタルモ、今余ガ試ミタル質問ノ答辯ト看做スベキ點ヲ發見セザリキ、余ハ現下市費ヲ支出シテ博覽會ニ賛助スルノ理由ヲ認メズ、然レドモ旣ニ前市長ガ之ニ協賛シタル以上、今之ヲ如何トモスル能ハザルベシ、故ニ余ハ將來ノ爲市長ニ警告スルノ要アリト信ズ、即チ今後斯ノ如ク市ニ負擔ノ義務ヲ課スベキ契約若クハ協賛ヲ爲ス場合ニハ、須ク豫メ市會ノ意嚮ヲ確ムベシト云フコトヲ、余ハ此機會ニ於テ、理事者ニ對シテ强調スル者ナリ。殊ニ今回ノ博覽會ハ相當ノ成績ヲ擧ゲ、少シモ損失ナカリシモ、唯充分ノ慰勞手當ヲ使用人ニ支給スル爲ニ、多少ノ不足ヲ生ジタルヲ以テ、東京市ヨリ補助ヲ受ルヲ得バ幸甚ナリト云フニ過ギザルガ如シ、司會者タル商業會議所ノ巨頭等ハ、博覽會ヲ利用シテ、頗ル自己宣傳ニ成功シタルコトニ想到スルトキハ、其上更ニ利得ヲ收メントスルガ如キハ、大禮記念國產奬勵ノ名ニ副ハザルモノニシテ、彼等富豪ハ相當ノ努力ト犧牲トヲ提供シテ、始メテ產業奬勵ノ美名ニ背カズト言フヲ得ベク、七萬五千圓ノ市費ヲ投ジテ、彼等ヲ救濟スルノ理由ナシト信ズ、故ニ余ハ本案ニハ全然反對ナルモ、前市長ノ約束ニ對スル現市長ノ立場ヲ推察シ、全額削除ヲ主張セズシテ、玆ニ七萬五千圓ヲ五萬圓ニ修正スルノ動議ヲ提出シ、敢テ諸君ノ賛成ヲ請フト。

此動議ノ文面ハ左ノ如シ。

一、第百十八號議案修正ノ動議

右提出候也

昭和三年七月十三日

提出者

大野敬吉　戸倉嘉市　大井善藏

大橋誠一　松永東　坪野房治

古島宮次郎　外四名

賛成者

東京市會議長小島七郎殿

第百十八號議案修正ノ動議

一　第百十八號議案中左ノ通修正ス

一　歳入豫算高　八四五、一五〇ヲ八二〇、一五〇ト修正

一　歳出豫算高　同　上

歳　入

第十四款　雜　入　一三五、六五〇圓ヲ一一〇、六五〇圓ト修正

第四項　過年度收入　一三五、六五〇圓ヲ一一〇、六五〇圓ト修正

歳　出　臨時部

第二十七款　補助費　七七、八〇〇圓ヲ五二、八〇〇圓ト修正

第一項　補助費　七七、八〇〇圓ヲ五二、八〇〇圓ト修正

第二十目　大禮記念國産振興博覽會補助　七五、〇〇〇圓ヲ五〇、〇〇〇圓ト修正

斯クテ直チニ採決ニ入リタルガ、大野君ノ修正動議ハ敗レ、委員會ノ報告通可決セラレタリ。

第參拾四節　電力料金低減ニ關スル建議

五月二十五日ノ會議ニ左ノ建議案提出セラレ、即決可決セラレタリ。

一　電力料金低減ニ關スル建議

右提出候也

昭和三年五月二十五日

提出者

岡　蕃　吉井濱治郎　橋本直一　小久江美代吉

宇田川孝吉　倉田金三郎　太田信治郎　秋庭伊兵衞

高橋義次　鎌田芳太郎　深山彦平　入山祐治郎

西村吉兵衞　森原嘉逸　小幡敏男　小俣政一

若林成昭　稻村藤太郎　伊東美代松　方山正隆

五木田治郎吉　西川嘉門　河井榮三郎　藤浦富太郎

溝口信　片山久藏　村松恒一郎　大橋誠一

金子東一　島多郎　大崎清作　天野富太郎

田中康三　茂木久平　高崎高次郎
中南定太郎　福田又一　矢野鉉吉
小森七兵衛　小島七郎　古島宮次郎
坪野房治　山本繁吉　早川庄太郎
岡本瀧雄　八太茂　有竹雅巳
天利庄次郎　中村舜二　立川太郎
小板久馬吉　角野庄太郎　原伊三郎
松永東　加藤辰之　池田清秋
新居友三郎　小坂梅吉　中川重政
平林發司　伊藤仁太郎　瀧澤七郎
松崎權四郎　大井善藏　栗原彦三郎

東京市會議長小島七郎殿

電力料金低減ニ關スル建議

近時東京市内ニ於ケル電力供給能力ハ頗ル潤澤ナルモノアルニ不拘需用之ニ伴ハサルハ畢竟電力料金ノ著シク高價ナルニ因ラスンハアラス

惟フニ電力料金ヲ低廉ナラシムルハ萎靡セル產業ヲ振興スル所以ニシテ復興途上ニ在ル我東京市ニ於テ最モ緊要ナル急務ナリ而カモ供給會社經營上ノ現狀ニ鑑ミ値下ケノ餘地アルコト明ナルニ於テオヤ此故ニ理事者ハ本市内ノ電力料金ノ低減ニ關シ相當ノ方法ヲ講シ以テ市民負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ本市經營事業ノ電力供給者ニ對シ此際値下ケノ交涉ヲナシ速ニ低廉ナル料金ヲ以テ供給ヲ受クルノ方法ヲ講セラレムコトヲ望ム

第參拾五節　市廳舍建設ニ關スル建議

七月十三日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレタリ。

市廳舍建設ニ關スル調査委員設置ノ建議

右提出候也

昭和三年七月十二日

提出者

大崎清作　別役增吉　秋庭伊兵衛
宇田川孝吉　山本繁吉　大橋誠一
藤浦富太郎　井濱治郎　五木田治郎吉
本田義成　森原嘉逸
森金子東一　外十五名

贊成者

東京市會議長小島七郎殿

市廳舍建設ニ關スル調査委員設置ノ建議

曩ニ建議セル市廳舍建設ニ關シ本市會ニ調査委員十五名(議長指名)ヲ置キ理事者ノ調査ト相俟テ之カ促進ヲ圖ラ

ントス

右ノ建議ハ即決可決セラレタレバ、議長ハ調査委員トシテ左ノ如ク指名セリ。

宇田川孝吉　秋庭伊兵衛　鎌田芳太郎　杉野善作　方山正隆
河井榮三郎　藤浦富太郎　大崎清作　天野富太郎　小森七兵衛
有竹雅已　八太茂　別役増吉　本田義成　國枝捨次郎

委員ハ**大崎清作君**ヲ委員長ニ推シ、市廳舍ノ位置財源等ニ關シ審議シタル末、敷地トシテハ日比谷公園ノ一角ヲ第一候補地トシ、現在ノ水道局構内ヲ第二候補地トシ、財源ニ關シテハ理事者ニ立案セシムルコトトシ、大藏、內務兩省ニ屢ゝ出頭陳情スル所アリタリ、然ルニ此年十二月二十一日附ヲ以テ市會ハ解散ヲ命ゼラレタルヲ以テ、本委員會モ終ニ自然消滅ニ歸セリ。

第參拾六節　土木及社會事業常設委員會條例制定ノ建議

七月十三日ノ會議ニ左ノ建議案上提セラレ、即決可決セラレタリ。

一　土木及社會事業常設委員會條例制定ノ建議

右提出候也

昭和三年七月十二日

提出者

本田義成　天利庄次郎　天野富太郎

中南定太郎　田中康三　小幡敏男

贊成者

東京市會議長小島七郎殿　大野敬吉　外二十一名

土木及社會事業常設委員會條例制定ノ建議

本市土木事業及社會事業ノ完備ヲ期スル爲メ之カ常設委員會條例ヲ制定シ提案アラムコトヲ望ム。

第參拾七節　電力問題ニ關スル決議案

七月十三日ノ會議ニ左ノ決議案提出セラレ、即決可決セラレタリ。

一　電力問題ニ關スル決議案

右提出候也

昭和三年七月十三日

提出者

岡蕃　細谷鎌太郎　吉井濱治郎　橋本直一
小久江美代吉　宇田川孝吉　倉田金三郎　中塚榮次郎
太田信治郎　秋庭伊兵衛　高橋義次　藤原久人
鎌田芳太郎　深山彥平　杉野善作　大野敬吉
入山祐治郎　西村吉兵衛　森原嘉逸　小幡敏男

小俣政一　若林成昭
方山正隆　五木田治郎吉
溝口信　片山久藏
瀬川光行　金子東一
天野富太郎　田中康三
高崎高次郎　中南定太郎
古島宮次郎　田代義德
小森七兵衛　戸倉嘉市
坪野房治　山本繁吉
岡本瀧雄　八太茂
小島龜藏　天利庄次郎
別役增吉　小板久馬吉
小栗富五郎　加藤辰之
新居友三郎　小坂梅吉
平林發司　大井善藏

東京市會議長小島七郎殿

決議

一　曩ニ東京市會ニ於テ全會一致ヲ以テ可決シタル電力料金値下ニ關スル建議ノ趣旨未タ其ノ實現ヲ見サルヲ遺憾トス仍テ理事者ハ速カニ之カ遂行ニ努力スヘシ

一　最近頻發セル停電ニヨリ本市カ被リタル甚大ノ損害ニ關シ理事者ハ鬼怒川水力電氣株式會社ニ對シテ之カ賠償ヲナサシムル爲メ遺算ナキ方法ヲ講スヘシ

一　電力供給ニ關シ理事者ハ將來市民ノ不利不安ヲ除去スル爲メ最善ノ方策ヲ樹立スヘシ

右決議ス

第參拾八節　祝賀文議定竝奉呈ニ關スル件

九月二十八日秩父宮雍仁親王殿下御結婚ニ付、祝賀文奉呈ノ爲、市長ノ請求ニ基キ特ニ會議ヲ開キタルガ、劈頭**市來市長**ハ左ノ如ク發言セリ。

畏クモ秩父宮殿下ニハ、本日ヲ以テ御結婚ノ盛儀ヲ行ハセラル、是レ國民ノ齊ク慶賀措ク能ハザル所ニシテ、殊ニ吾人輦轂ノ下ニ在ル者ハ、皇恩ニ浴スルコト最モ深キガ故ニ、此際滿腔ノ誠意ヲ以テ、充分ニ奉祝ノ至情ヲ捧グベキハ勿論ナリ。此意味ニ於テ、余不肖ヲ顧ミズ、奉祝文ヲ起草シタルヲ以テ、此席ニ於テ之ヲ朗讀シ、諸君ノ贊同ヲ請ハント欲ス。

斯クテ市長ハ左ノ文案ヲ朗讀セリ。

東京市長市來乙彥言ウス

殿下今月今日ヲ以テ　御結婚ノ儀ヲ行ハセ給フ誰カ滿腔ノ誠意ヲ以テ

稻村藤太郎　伊東美代松
河井榮三郎　藤浦富太郎
松井錦橘　大橋誠一
島多郎　大崎清作
茂木久平　矢野欽吉
近藤達兒　福田又一
高橋秀臣　伊藤勝藏
早川庄太郎　有竹雅巳
藤原俊雄　立川太郎
大神田軍治　小原要三郎
中村舜二　原伊三郎
角野庄太郎　池田清秋
中川重政　本田義成
瀧澤七郎　國枝捨次郎
松崎權四郎

皇運ノ益〻隆昌ニシテ

殿下ノ榮光ニ滿タサセ給フヲ祝シ奉ラサランヤ恭シク惟ミルニ

殿下文武孝友ノ德ヲ稟ケサセ給ヒ學ハ東西ニ涉リ善ヲ擇ヒ美ヲ集メテ

聖明ノ治ヲ翼贊シ以テ我カ

建國ノ大精神ヲ發揚シ給ハントス

妃殿下淑德崇高ニシテ才學竝ヒ優レサセ給ヘルハ內外ノ均シク讀頌シ奉ル所ナリ吾等市民ハ

葦穀ノ下ニ住シ

皇恩ニ浴スルコト尤モ深シ今日ノ嘉辰ニ當リ歡天喜地ノ情ニ堪ヘス竊ニ想フニ

御苑ノ風光ハ是ヨリ更ニ新ニ

貞松千年ノ翠ハ益〻其色ヲ深クシ

金蘭百世ノ馨ハ愈〻其香ヲ高クスルヲ知ル乙彥玆ニ市會ノ議ヲ經市民ニ代リ謹ミテ祝詞ヲ上ル乙彥頓首謹言

昭和三年九月二十八日

東京市長正四位勳一等　市來乙彥　上

右ノ文案ハ全員起立ノ裡ニ可決セラレタリ。斯クテ副議長**入山祐治郎君**ハ即日市長ト共ニ宮邸ニ伺候シ、奉呈ノ手續ヲ執リ、其旨直チニ文書ヲ以テ議員ニ通知シ、且ツ十月二十六日ニ開カレタル次ノ會議ニ於テ、更ニ口頭ヲ以テ同樣ノ報告ヲ爲セリ。

第參拾九節　市會議員ノ辭職

▽**田中康三君ノ辭職**　十月二十六日ノ會議ニ左ノ報告アリタリ。

財主丙第二號

市會議員田中康三君ヨリ別紙寫ノ通辭職屆提出有之候條報告候也

昭和三年八月二十日

東京市會議長小島七郎殿

東京市長　市來乙彥

（別紙）

議員辭任屆

東京市會議員

田中康三

右者左記理由ニ依リ本日東京市會議員ヲ辭任候條屆出候也

昭和三年八月十九日

東京市長市來乙彥殿

理由

議員ノ職責ニ在ル者カ司直ノ嫌疑ヲ受ケタル以上不德ノ致ストコロナルハ勿論議員タル資格無ク其任ニ留ルヘキモノニ非ス余ハ大

正十一年以來市民カ與ヘラレタル好意ニ對シ滿腔ノ感謝ヲ表ス

▽**金子東一君ノ辭職**　同日ノ會議ニ更ニ左ノ報告アリタリ。

財主發第二一三號

金子東一君ヨリ別紙寫ノ通市會議員辭職屆提出有之候條報告候也

昭和三年十月六日

東京市會議長小島七郎殿

東京市長市來乙彥

（別紙寫）

辭職屆

私儀東京市會議員ヲ辭職仕候間此段御屆申上候

昭和三年九月二十七日

金子東一

東京市長市來乙彥殿

辭職ノ理由

今更申上グル迄モ無之候得共職ヲ辭シ謹ンデ市民諸君ニ謝罪仕リ候

第四拾節　市來市長ノ東京市財政計畫案ニ對スル質問竝答辯

十月二十六日ノ會議ニ左ノ質問趣意書提出セラレタリ。

市來市長ノ東京市財政計畫案ニ對スル質問趣意書

右十月二十六日ノ市會ニ提出候也

昭和三年十月二十四日

提出者　高橋秀臣

贊成者　小久江美代吉　外五名

東京市會議長小島七郎殿

市來市長ノ東京市財政計畫案ニ對スル質問趣意書

市來東京市長ノ腹案ニ成ル東京市將來ノ普通經濟財政計畫案中歲入不足ヲ補フタメ增稅新稅六百十萬八千圓ヲ起シテ之ニ充當セントスルハ是レ東京市民ノ苦痛ヲ增シ經濟界ヲ益々不況ニ陷ルモノ也市長ハ之ヲ以テ當ヲ得タルモノナリト信スル乎之ヲ市長ニ質問セントス是レ本案ヲ提出スル所以也

當日ノ日程ニ入ルニ先チ、右質問趣意書提出者ト市長トノ間ニ左ノ問答アリタリ。

高橋秀臣君　余ハ東京市民ニ取リテ極メテ重要ナル東京市ノ財政計畫案ニ關シ、市長ニ質サント欲スルガ、之ニ先チ、余ハ諸君ト共ニ洵ニ悲マザルヲ得ザルモノアルコトヲ甚ダ遺憾トス、即チ吾々ト同ク東京市民ヨリ選バレタル市會議員中、法律違反ノ嫌疑ヲ蒙リ、司直ノ手ニ因リテ身體ノ自由ヲ拘束セラレ、當議場ニ缺席ノ已ムナキニ至リタル諸氏アルコトヲ是也、冀クハ公明ナル司法官ノ審理ニ由リ、歸宅ノ許可ノ一日モ速ナラムコトヲ。偖本月十九日、市來市長ハ其腹案ニ成レル東京市ノ普通經濟財政計畫案ヲ吾々議員ノ手許ニ配布シ、同ク二十三日ニハ之ヲ臨時財政調査會ニ提出シテ其理由ヲ說明セリ。余ハ此書類ヲ熟讀シ、又市長ノ說明ヲモ傍聽シタルガ、此

說明ニ據レバ、東京市ノ財政ハ昭和四年度ヨリ出入ノ均衡ヲ失ヒテ、窮境ニ陷リタルヲ以テ、之ヲ整理スル爲、一方ニ於テハ歲出ヲ節約シ、他方ニ於テハ歲入ノ增加ヲ圖リ、而カモ其間緊急已ヲ得ザル事業ハ之ヲ遂行セザルベカラズ。蓋シ歲入ニ缺陷ヲ生ジタル原因ハ、土地ノ賣却意ノ如クナラザリシコト其一ニシテ、殊ニ本年度ニ於ケル市債募集ノ成績不充分ナリシコトハ市ノ財政ヲ益ミ苦境ニ立タシムルニ至レリ、仍テ今般經費ノ節約ヲ行フト同時ニ、路面ノ改良、下水道ノ完成、街路河川ノ修築、江戸川ノ改築、東京灣ノ築港、市內枝川ノ改修、屠場ノ建設、京橋商業學校ノ建築等ノ如キ已ムヲ得ザル事業ハ、普通ノ市費ヲ以テ之ヲ遂行シ、中央市場分場費ト東京市廳ノ建設費ハ、之ヲ延期スルコトトセリ。又國庫ニ對スル借金ノ返濟及一般市債ノ利拂等モ容易ナラザルノミナラズ、昭和三年度以降ハ斷絕スル爲、東京市ハ玆ニ財政上非常ニ窮乏ヲ告グルニ至レリ。以上ハ市長ノ說明ノ梗概ナリ。又市長ハ收入ノ增加ヲ圖ル爲ニ、如何ナル財政策ヲ立テタルカヲ見ルニ、第一ニ市有地ノ貸貸料ヲ引上ゲテ拾七萬圓ヲ增收シ、次ニ增稅ヲ斷行シ、先ヅ地租ノ附加稅ヲ增率スルコトニ依リテ六拾萬圓ヲ得、營業收益稅附加稅ノ增率ニ依リテ五拾九萬九千圓ヲ得、所得稅附加稅ノ增率ニ依リテ九拾壹萬圓ヲ得、家屋稅附加稅ノ不均一賦課ニ依リテ六拾貳萬圓ヲ得、猶特別稅中不動產取得稅ヲ增シテ六拾九萬壹千圓ヲ得、斯クテ總計參百九拾七萬五千圓ノ增收ヲ得ンコトヲ企圖セリ。此增稅計畫以外、更ニ新稅ヲ起スノ計畫ヲ立テ、借地權稅ニ依テ百八拾壹萬五千圓ヲ舉ゲ、借地權收得稅ニ依テ貳拾六萬圓ヲ得、商品切手稅ニ依テ拾萬四千圓ヲ得、斯クテ新稅ヨリノ收入ハ、總計貳百拾七萬四千圓ニ達スルノ豫定ナリ。從ッテ增稅ト新稅トヲ合セ、增徵額六百拾萬八千圓ニ達シ、之ヲ東京市ノ人口二百十四萬三千二百人ニ割當ツレバ、市稅一人當ノ增稅ハ貳圓八拾錢、又東京市ノ一世帶ヲ四人六分ト見テ、之ニ此

增稅額ヲ割當ツレバ、一世帶拾貳圓八拾八錢ノ增稅トナル。換言スレバ、市長ノ財政案ハ、市民一人當約參圓、一世帶當約拾參圓ノ增稅ヲ意味ス、此ノ如キ大負擔ハ、東京市民ニ取リテハ實ニ非常ノ苦痛ニシテ、經濟界ハ益ミ悲境ニ陷ルベキヲ以テ、余ハ恐ル市民ハ容易ニ本計畫ニ承認ヲ與ヘザルノミナラズ、縱令之ヲ實行スルモ、豫定ノ收入ヲ擧グルコト亦頗ル困難ナルベキヲ、市長ハ果シテ此腹案ヲ完全ニ遂行シ得ルノ自信ヲ有スルカ、是レ余ノ問ハント欲スル所ナリ。元來東京市民ハ最モ義勇奉公ノ念ト愛市ノ思想トニ富ムガ故ニ、勿論納稅ノ義務ヲ忌避スルガ如キコト無キモ、如何セン市民ハ現下新タナル負擔ニ堪ヘ得ザルノ狀態ニ在リ、試ニ思ヘ、彼等ハ大正十二年九月一日ノ大震火災ニ因リ、六拾五億萬圓ノ富ト十萬ノ人員トヲ失ヒ、彼等ノ預金ハ、銀行休業ノ爲、之ヲ引出スコトヲ得ズ、財界ハ空前ノ不振ニ陷リ、金融ハ杜絕シ、稅金ハ增加シ、失業者ハ職業紹介所ノ門前ニ蝟集ス、區劃整理ノ結果道路ト家屋トハ面目ヲ一新シタルモ、家屋ノ內部ハ空虛ナリ。東京市民ハ此ノ如ク種々ノ災厄ニ遇ヒ、不景氣ト生活難ニ泣キツヽアル時、新ニ六百何拾萬圓ノ稅金ヲ彼等ニ負擔セシメントスルハ、是レ瘦馬ニ重荷ヲ負ハシムルノ比ノミ、市長ノ財政計畫中ニハ、社會政策ノ見地ヨリ、多少首肯シ得ル稅目ナキニ非ザルベキモ、强壓的搾取ハ財政計畫ノ妙諦ニ非ザルハ勿論、市民ノ最モ苦痛トスル所ナリ。要スルニ今日ノ計ハ增稅ニ據ルコトナクシテ、各方面ニ節約整理ヲ加ヘ、以テ財源ヲ捻出スルニ在リ。且夫レ市民ニ多大ノ負擔ヲ課セントスルニ當リテハ、先ヅ其富力、其所得ヲ精査スルノ要アリ、今東京市民ノ富力ハ余ノ統計的ニ詳細ニ調査シタル所ニ據レバ、六拾五億五千百四拾萬圓ニシテ、一人當參千五拾七圓ナリ。又東京市民一年間ノ所得ハ如何ト云フニ、此調査ハ頗ル困難ナルモ、余ノ計算ニテハ概略六億五六千萬圓乃至七億ト見テ大差ナシト信ズ、之ヲ市民一人ニ割當ツレバ、約參百貳拾七圓、之ヲ一箇月

ニ割レバ、一人ノ所得、貳拾七圓、一世帶ノ所得、百貳拾四圓、之ヲ一日ニ割レバ、一人ノ平均所得九拾錢、一世帶ノ所得四圓四拾錢、之ヲ一時間ニ割レバ一人ノ所得參錢五厘、一世帶ノ所得拾六錢壹厘トナル。他面市民ガ負擔スル市稅ハ幾許ナルカヲ見ルニ、從來ノ市稅ハ壹千九百七拾九萬圓、之ニ今回ノ新稅竝增稅總額六百拾萬八千圓ヲ加フレバ、貳千五百八拾九萬八千圓ニ達シ、市民一人當ノ市稅拾貳圓餘、一世帶當五拾五圓貳拾錢ナリ。猶又市ノ普通會計ハ如何ト云フニ、普通會計ハ復興費ヲ合セテ、昭和三年度ニ於テハ、壹億貳千六百拾五萬圓ナルヲ以テ、市民一人當五拾九圓、一世帶貳百七拾壹圓ナリ、此歲計一人當五拾九圓ハ、所得一人當參百貳拾七圓ノ一割八分ニ該當ス。此外市民ハ國稅ヲ徵セラレ、府稅、區稅ヲ徵セラレ、町會費、寄附金等モ公課金同樣ニ賦課セラルヽヲ以テ其負擔ハ實ニ重シト謂ハザルヲ得ズ。尙其他ニ普通會計ノ市債ハ貳億參百四拾貳萬圓ニ上ルガ故ニ、市民一人當ノ借金ハ九拾五圓、一世帶ノ借金ハ四百參拾七圓也。現ニ此苦痛ヲ重ネツヽアル市民ニ、更ニ六百何拾萬圓ノ稅金ヲ課スルノ結果ハ如何、地租ノ附加稅上レバ地代上ル、地代上レバ家賃上ル、而カモ市民ノ七割以上ハ借家人ナルガ故ニ、彼等ハ非常ニ困難ヲ感ジ、爲ニ家賃ノ滯納續出スルニ至ルベシ。又一方營業稅附加稅ガ增率サルレバ、勢ヒ物價ノ騰貴ヲ免レズ、之ガ爲ニ市民ノ購買力ハ減殺サレ、經濟界ハ益ゝ悲境ニ陷リ、稅金ノ滯納ハ激增スベシ。本年七月末日迄ノ計算ニ據レバ、市稅ノ滯納ハ百九拾七萬五千百參拾貳圓ニ達ス、財界不振ノ今日、若シ增稅ヲ斷行スルモ、其徵收ハ愈ゝ困難ナルベク、遂ニ徵稅員ヲ增加シテ苛斂誅求ヲ事トスルニ至ラン。市長ノ計畫案中ニハ「市稅ノ徵收事務ヲ刷新シ、能率ノ增進ヲ圖ルガ爲ニ徵稅事務ヲ市長ノ直轄ニ屬セシムル制ヲ立テ、之ニ依テ貳拾五萬圓ノ增收ヲ得ベキ見込ナリ」ト云ヘリ、市長ハ曾テ大藏大臣タリ、國家ノ財政ニハ精通センモ、東京市稅ノ上ニ貳拾五萬圓ノ增收ヲ爲スノ手腕ヲ有スルヤ否ヤハ大ニ疑ナキ能ハズ、余ハ恐ル、此增稅ノ結果、失業者ノ數ヲ激增シ、延イテ思想ノ惡化ヲ招徠センコトヲ。何トナレバ思想ノ惡化ハ經濟界ノ不振ニ伴フ生活難ト、負擔ノ過重ニ對スル國民ノ怨嗟トニ起因スレバナリ、市長ハ常ニ思想ノ健全ヲ口ニスルモ、健全ナル思想ハ健全ナル政治ト健全ナル生活ノ結果ナルコトヲ記セザルベカラズ、然ラバ則チ增稅ニ依ラズシテ市ノ財政難ヲ救治スルノ方法如何、假リニ一家ニ於テ收支相償ハザル場合ヲ想像センニ、之ガ救治策ハ三ヲ出デズ、收入ヲ增加スル其一ナリ、債ヲ起ス其二ナリ、節約ヲ行フ其三ナリ。市ニ於テモ亦然リ、而カモ現下ノ狀勢ニ於テ、市トシテハ起債增稅共ニ不可能ナルヲ以テ、節約實行以外ニ對策ナシ、市長ハ宜ク緊縮方針ヲ嚴守シ、市費ヲ市民ノ所得ノ一割內外ニ止ムルコトヲ努メ、同時ニ市有地ノ處分ニ關シ、適當ノ方法ヲ講ズベシ、此ノ如クナレバ則チ六百萬圓ヲ捻出スルコトハ決シテ難事ニ非ズト信ズ。吾人ガ市來市長ヲ迎ヘタル所以ハ、市ノ困難ナル財政ヲ整理スル爲ニ、大ニ其手腕ニ期待シタルニ外ナラズ、然ルニ之ヲ整理セズシテ、却テ六百萬圓ノ增稅ヲ爲サントスル本案ニ對シテハ、吾人ノ贊同スル能ハザル所ナリ、願ハクハ詳細ナル說明ヲ與ヘラレムコトヲ。

市來市長　余ハ東京市ガ財政窮迫ノ狀態ニ在ルコトヲ言明スルコトヲ遺憾トスルモ、是レ現在ノ實情ナルヲ如何セン、余ガ就任ノ際、前任者タル東京市長職務管掌ヨリ引繼ヲ受ケタル調査事項中、東京市ノ財政ヲ充實セント欲スレバ將來增稅ヲ爲スノ外ナシト記述セル文書アリタリ、前任者ノ意見既ニ然リ、而モ市ノ財政ガ困難ニ陷レルコトハ、永ク市政ニ從事サレタル高橋君ノ、余以上ニ諒知セラルヽ所ナラン。而シテ此財政難ノ原因ハ、或ハ改メテ指摘スルノ要ナカランモ、震災後ノ復興計畫ガ東京市ノ負擔ニ堪ヘザル程度ノ大規模ナリシコト其一ナリ、市ハ從來重大ナル事業ヲ概ネ市債ニ依リテ遂行シタルガ爲、將來市債ノ元利ノ支拂ガ年々增加シテ、經費ノ膨脹ヲ來

スノ趨勢ニ在ルコト其二ナリ、復興事業ハ前述ノ如ク頗ル廣大ナル計畫ナルガ故ニ、其進行ニ伴ヒ、之ガ維持、修繕ニ要スル經費ハ巨額ニ達スルコト其三ナリ。此等ノ原因ニ因リ經費ハ將來非常ニ膨脹スルコトヲ免レザルモ、之ニ對シテ歲入ハ著キ增加ノ見込ナク、殊ニ從來歲入豫算中收入不能ト爲リタルモノ尠カラズ。此ノ如クニシテ昭和四年以降、市ノ財政ハ頗ル困難ニ陷ルガ故ニ、之ヲ救濟スル爲、增稅ヲ斷行セザルヲ得ズトノ說ハ、余ノ就任前ヨリ唱道セラレタル所ナリ。勿論此財政狀態ノ對策トシテハ、根本ニ於テ余ハ高橋君ノ主張ト同感ニシテ、整理ノ第一手段ハ經費ノ節約ニ在リト信ズ、但シ高橋君ハ無限ニ節約シ得ルカノ如ク論ゼラレタルモ、節約ニハ自ラ限度アリ、市ノ事業ハ全部市民將來ノ發展ヲ計リ、且今日ノ生活ヲ安定セシムルコトヲ目的トスルヲ以テ、或ル程度ノ經費節約ハ固ヨリ可能ナルモ、無限ノ節約ハ市政ノ目的ト相悖ル所アルガ故ニ、不可能ノ事ニ屬ス、余ノ腹案ニ於テモ固ヨリ相當ノ緊縮節減ヲ試ミ、殊ニ將來ニ對シテハ多大ノ緊縮ヲ企圖セリ。次ニ市有財產ヨリ生ズル收入ノ增加ヲ計ルハ最モ急務ナルヲ以テ、市有地ノ賃貸料ヲ適度ニ引上ゲタリ、高橋君ハ賣却スベキ市有地頗ル多シト言ヘルガ、之ヲ一朝一夕ニ賣却スルハ甚ダ困難ナリ、殊ニ市有地ノ大部分ハ未ダ熟地ト爲ルニ至ラズ、今後年數ヲ經バ、相當ノ價格ヲ生ズルナラントモ、近キ將來ニ於テ之ヲ有利ニ賣却スルコトハ、蓋シ困難ナラン。更ニ又東京市ノ財政ヲ整理スルニハ、政府ニ對シテモ援助ヲ求メザルベカラザルハ勿論ナルガ、政府ハ震災ノ復興事業費ニ充當シタル市債ノ利子ヲ昭和三年度以後ハ補給セザル方針ナルヲ以テ、目下此補給ノ繼續ヲ請求シツツアリ、政府ニ於テモ考慮中ナリト聞ク。以上ノ方法ヲ以テシテモ、東京市ノ財政ハ尙收支ノ均衡ヲ保ツ能ハザルガ故ニ、最後ノ手段トシテ、增稅ニ依ルノ外ナシト信ズ。高橋君ノ意見ノ如ク、增稅ハ務メテ避ケザルベカラザルモ、現在市ノ財政ヲ整理セント欲セバ、到底之ヲ避クルコトヲ許サズ、但シ增稅ナ

ルモノハ假リニ之ヲ實行スルトシテモ、能フ限リ少額ニ止ムベキハ勿論ナリ、幸ニシテ東京市ノ負擔ハ、之ヲ他ノ大都市ニ比較スレバ、稍輕ク、尙ホ增稅ノ餘地アリト認メ得ルヲ以テ、現在市稅ノ總額約貳千萬圓ニ對シ、三割程度ノ增稅計畫ヲ立テタルガ、是レ市民ニ取リテ固ヨリ苦痛ニ非ズト言フヲ得ザルモ、敢テ堪ヘ難キ負擔ニ非ザルベシ。殊ニ今回ノ增稅及新稅ニ關シテハ、之ガ負擔ノ歸着點ヲ愼重ニ考究シ、中流階級以上ノ負擔能力ニ尙ホ餘裕アル方面ニ增稅及新稅ノ目標ヲ置ケリ。例ヘバ所得稅附加稅ノ增率、借地權及ビ商品切手等ノ新稅、家屋稅ノ不均一附加稅等ハ、總テ中流以上、殊ニ上流階級ノ負擔ニ歸スベキヲ信ズ。又增稅計畫ヲ立ツルニ當リテハ、須ク總テノ新事業ヲ排斥スベシトノ議論ハ一理ナキニ非ザルモ、東京市將來ノ發達ヲ期スルガ爲ニハ、其基礎タルベキ或ル種ノ經濟的事業ノ遂行ハ、愈ミ必要ナルガ故ニ、增稅計畫ヲ立ツルト同時ニ、本市將來ノ發達ニ資スベキ事業ハ、市債ニ依リテ之ヲ遂行スルコトセリ、換言スレバ一面ニ於テハ消極的ニ整理ヲ行フト同時ニ、他面ニ於テ將來ノ發達ニ必要ナル施設ハ、積極的ニ之ヲ遂行スルコトヲ期セリ。東京市民諸君ハ以上ノ事情ヲ諒トセラレ、已ヲ得ザルコトトシテ、本計畫ニ贊同アランコトヲ切望ス。

藤原俊雄君　市ニハ余ノ洋行中ニ財政調査會ヲ設置セラレタレバ、此ノ種ノ案ニ付テハ發表ノ手續時期等自ラ順序アリト推察セラルルニモ拘ラズ、從來ノ慣例ヲ破リテ、本計畫案ヲ直ニ議員ニ配布シ、且ツ翌日ノ新聞紙ニ公表シタルノ事實ニ鑑ミレバ、市長ハ必然本計畫ヲ斷行スルノ決意ヲ有スルニ非ザルカ、果シテ然リトセバ、本計畫ニ關シテ議論起リ、又ハ其代案ガ提出セラルル場合ニハ、紛擾ヲ免レザルナラン、若シ市長ガ本計畫ニ基キテ來年度ノ豫算ヲ編製スルノ決心ヲ有ストセバ、吾人ハ大ナル覺悟ヲ以テ本案ヲ研究セザルベカラズ、若シ又然ラズトセバ、高橋君ノ言ヘルガ如ク或ル程度迄ハ他ノ方法ヲ講ズルノ餘地アラン、市長ガ其腹案ヲ斯ク早急ニ吾々

ニ發表シタル動機及精神如何。

市來市長　余ハ就任以來前任者ノ計畫ヲ踏襲シテ、昭和三年度ノ暫定的豫算ヲ編製シ、爾後財政ノ整理ニ關シテ鋭意調査ヲ遂ゲ、最近ニ到リ大體ノ計畫案ヲ得タルガ、一面ニハ之ヲ主務省ニ提出セザルベカラズ、又一面ニハ貴設ノ如ク、之ヲ財政調査會ノ審議ニ付スルヲ當然ノ順序トスルモ、同時ニ之ヲ世ニ公ニシ、且ツ市會議員諸君ノ全部ニ之ヲ配布シテ、其研究ヲ請フコトヽセリ。又此計畫ハ變更ヲ許スヤ否ヤノ點ニ關シテハ、余ガ今日マデ愼重ニ調査シタル結果、本案以外ノ計畫ヲ立ツルコトハ至難ナリト信ズルモ、多少改善ヲ加フベキ點ガ發見サレタル場合ハ、余ハ敢テ修正ヲ躊躇スルモノニ非ズ、但シ大體ニ於テハ詳密ナル調査ヲ遂ゲタル考ヘナリ。例ヘバ新稅增稅ニ關シテモ、從來研究サレタル資料ヲモ反覆精査シタルガ、相當ノ收入ヲ擧ゲ、且ツ課稅ノ適當ナル歸着點ヲ得ル等ノ問題ニ關シテハ、余ガ今日迄調査研究シタル結果トシテハ本案ニ如クモノナシト信ズ。本案ハ固ヨリ市民ノ諒解ヲ得ザルベカラザルモ、主トシテ調査會及議員諸君ノ承認ヲ得テ之ヲ實行センコトヲ希望シテ止マズ。

第四拾壹節　建築復興貸付資金ニ關スル議決更正ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレ、即決可決セラレタリ。

第百六十八號

建築復興貸付資金ニ關スル議決更正ノ件

大正十四年十二月八日市會議決第二百六號復興建築貸付資金ニ關スル件中左ノ通更正スルモノトス

第二項中「復興貯蓄債券發行ニ依ル」ヲ削ル

說明　本件復興建築貸付資金ハ從來復興貯蓄債券ニ依ル收入金中ヨリ融通ヲ受ケタルモ今回大藏省預金部ノ都合ニ依リ該收入金以外ノ資金ヨリモ融通ヲ受クルコトヽナリタルヲ以テ前記ノ通更正ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス

（參　照）

復興建築貸付資金ニ關スル件（大正十四年十二月八日第二百六號市會議決）

復興建築貸付資金ニ關スル收支經理ノ爲復興建築貸付資金經濟ヲ設クルモノトス

前項貸付資金ニ關スル起債及其ノ方法、利息ノ定率、償還ノ方法歲入出豫算ハ復興貯蓄債券發行ニ依ル資金ノ融通ヲ政府ヨリ受クル限度ニ於テ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス

第四拾貳節　公園使用料條例中改正ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百七十二號

東京市公園使用料條例中改正ノ件

東京市公園使用料條例中左ノ通改正シ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第四條中「番外　建一坪一月　金八圓二十五錢」ヲ「番外　建一坪一月　金十二圓四十錢」ニ改ム

說明　本件淺草公園仲店ハ大正十二年一月一日以來使用料ノ改正ヲ爲サヽルヲ以テ他トノ權衡上增額スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

（參　照）

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾壹節　建築復興貸付資金ニ關スル議決更正ノ件　第四拾貳節　公園使用料條例中改正ノ件

第四條　工作物使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス

一　淺草公園仲店

東側建物	建一坪一月	金十二圓四十錢
西側同	同	金十三圓六十錢
番外同	同	金八圓二十五錢
通路上同		金五圓

第二十四條　使用者ハ別ニ定ムル使用料ヲ納付スヘシ

使用料額ハ新設又ハ改正後五箇年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ增加セス

本案ハ**伊東美代松君**ノ動議ニ依リ、既記百六十三號議案ト同一委員（本章第貳拾節參照）ニ併託スルニ決シタルガ、委員ハ審議ノ末、原案ヲ可決スルニ決シタル旨、十一月二十九日ノ會議ニ報告シ、報告通リ可決セラレタリ。

第四拾參節　墓地使用條例中改正ノ件

左案モ前記第百七十二號議案ト同一ノ經過ヲ以テ可決セラレタリ。

第百八十二號

東京市墓地使用條例中改正ノ件

東京市墓地使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第三條第二項中「**戸主**ニ非サル世帶主」ノ次ニ「本市外ニ住所ヲ有スル**戸主及**」ヲ加フ

第四條中「許可」ヲ削ル

第十一條第一項第一號中「四圓」ヲ「五圓」ニ「六圓」ヲ「七圓五十錢」ニ「三圓五十錢」ヲ「四圓」ニ「七圓」ヲ「八圓」ニ改メ、同項第二號中「二十圓」ヲ「二十五圓」ニ改ム

同條第二項中「四十圓」ヲ「五十圓」ニ「十四圓」ヲ「十六圓」ニ「一圓五十錢」ヲ「二圓」ニ「二圓」ヲ「二圓五十錢」ニ「十圓」ヲ「十二圓」ニ「二十圓」ヲ「二十五圓」ニ改ム

第十一條ノ二　第三條第二項ノ規定ニ依リ本市外ニ住所ヲ有スル者ニ對シ特ニ使用ヲ許可スルトキハ前條ニ定ムル使用料ノ二割ヲ增加シタルモノヲ以テ其ノ使用料トス

埋葬場所ニ設備ヲ附屬シタルモノニ付テハ市長前條第一項第一號所定ノ倍額迄ノ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條　相當ノ事由アル場合ニ於テハ市參事會ノ議決ヲ經定額使用料ヲ減免スルコトヲ得

說明　墓地使用ニ付テハ經營上ノ實績ニ徵シ使用料及使用者制限等ニ關シ條例中改正スルヲ適當ト認メ本案ヲ握出ス

（參照）

東京市墓地使用條例抄錄

第三條　墓地ノ使用者ハ埋葬場所ニ付テハ本市ニ住所ヲ有スル戸主、前條但書ニ該當スルモノニ付テハ本市ニ住所ヲ有スル者トス

市長相當ナリト認ムル場合ニ於テハ戸主ニ非サル世帶主其ノ他ノ者ニ對シ特ニ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條　市長ハ墓地ノ使用許可ニ付條件ヲ附シ又ハ墓地管理上必要ナル負擔ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條　使用料ハ左ノ區別ニ依リ許可ノ際之ヲ徵收ス

一　埋葬場所

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾參節　墓地使用條例中改正ノ件

甲種		乙種	
六平方メートル迄一平方メートルニ付	四圓	二平方メートル迄一平方メートルニ付	一圓五十錢
十二平方メートル迄一平方メートルニ付	六圓	四平方メートル迄一平方メートルニ付	二圓
二十四平方メートル迄一平方メートルニ付	十圓	八平方メートル迄一平方メートルニ付	三圓五十錢
四十八平方メートル迄一平方メートルニ付	二十圓	十六平方メートル迄一平方メートルニ付	七圓

二　碑石形像類建設場所　一平方メートルニ付二十圓

埋葬場所甲種ニ在リテハ四十八平方メートル、乙種ニ在リテハ第二十七條第四項ノ規定ニ依リ十六平方メートルヲ超ユルトキ其ノ超過部分ノ使用料ハ一平方メートルニ付甲種四十圓、乙種十四圓トス

青山及谷中墓地ニ付テハ前二項ニ定ムル使用料ノ倍額ヲ以テ其ノ使用料トス

第十二條　市長使用料ヲ納付スルノ資力ナシト認ムル者ニ對シテハ埋葬場所乙種二平方メートル以内ノモノニ限リ其ノ使用料ヲ免除スルコトアルヘシ

第四拾四節　社會事業諸費竝道路費其他追加豫算

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上程セラレ、即決可決セラレタリ。

第百八十三號

昭和三年度東京市歳入出追加豫算

歳　入

一金八拾貳萬五千八百四圓

歳入豫算高

歳　出

一金壹萬七千百圓

一金八拾萬八千七百四圓

合計金八拾貳萬五千八百四圓

說明　御大禮祝祭日三日間及本市御大禮奉祝當日ニ於テ要救護者ニ對シ賑恤ヲ爲シ又勞働者失業期間救濟事業ヲ爲スヲ適當ト認メ之カ所要經費追加ノ爲資源ヲ國庫補助金、借入金、前年度繰越金及過年度市稅ニ需ノ本案ヲ提出ス。

經常部豫算高

臨時部豫算高

第四拾五節　博覽會出品協會補助ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレ、即決可決セラレタリ。

第百七十九號

博覽會出品協會補助ノ件

一金五千圓　大禮記念京都大博覽會東京出品協會補助

一金七百圓　御大典奉祝名古屋博覽會東京出品協會補助

一金五百圓　大禮奉祝博覽會東京出品協會補助

前記各博覽會東京出品協會ヨリ左記ノ通補助方申請アリタルトコロ右ハ產業奬勵上適當ト認メ右金額昭和三年度普通經濟豫備費ヨリ支出補助スルモノトス

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾四節　社會事業諸費竝道路費其他追加豫算　第四拾五節　博覽會出品協會補助ノ件

補助金下附申請

來ル九月二十日ヨリ十二月二十五日迄京都市ニ於テ同市主催大禮記念京都大博覽會開設ノ處右ハ千歲一遇ノ大典ヲ記念シ奉リ併セテ本邦産業ノ精華ヲ蒐メ昭和新世ニ於ケル産業文化ノ進展ニ資セムトスルモノニ有之京都市ニ於ケル奉祝記念計畫トシテ適切ナルノミナラス其規模宏大ニシテ會場數地面積十一萬坪建物坪數二萬四千坪ニ上リ觀覽者又多數ヲ豫想セラレ稀ニ見ルノ大博覽會ト相認候間過般府下有力ナル業者相謀リ東京出品協會ヲ組織シ優良ナル東京製品ノ出陳ニ努メ以テ「復興セル帝都産業ノ壯觀」ヲ展示シ販路擴張ニ資シ度夫々計畫罷在候ニ付テハ特別ノ御詮議ヲ以テ補助金八千圓也御下附相成右事業御補助被成下度別紙會則及豫算書相添此段申請候也

昭和三年七月十一日

東京市長市來乙彥殿

大禮記念京都大博覽會東京出品協會
理事長　山本留次

補助金下附申請書

本年九月十五日ヨリ十一月二十三日ニ至ル七十日間名古屋市ニ於テ名古屋勸業協會主催ノ下ニ御大典奉祝名古屋博覽會開催セラレ候處右ハ今秋ノ御大典ヲ奉祝記念シ併セテ我國産業ノ助長發達ニ資セシメムトスルモノニ有之候、惟フニ名古屋市ハ最近市域ヲ擴張シ市勢ノ興隆産業ノ發達又著シキモノアリ今回同市ニ於ケル博覽會ノ開設ハ東京製品ノ宣傳及販路擴張上眞ニ絶好ノ機會ト被認候就テハ豫而府下主要ナル當業者相謀リ東京出品協會ヲ組織シ優秀ナル東京製品ヲ多數出品シ以テ本市製品ノ眞價ヲ示シ之カ販路ノ開拓ニ資スヘク相努メ居候ヘ共財界多年ニ亘ル不況ノ爲當業者ノミヲ以テハ之カ經費ノ負擔ニ大ナル困難ヲ感シ居候ニ付右事情御賢察ノ上本市産業奬勵ノ御趣旨ヲ以テ當協會經費中ニ金八百圓御補助相成樣特別ノ御詮議ヲ仰キ度別紙當協會規程及豫算書相添此段申請候也

昭和三年八月十六日

御大典奉祝名古屋博覽會東京出品協會
理事長　工藤隆治

東京市長市來乙彥殿

補助金下附御願

來ル十月一日ヨリ二箇月間東京市上野恩賜公園ニ於テ大禮奉祝博覽會開設セラレ候處右ハ曩古ノ大典ヲ記念シ奉ル趣旨ニ於テ邦家産業ノ精華ヲ集メ普ク之ヲ展示シテ其ノ改善發達ニ資シ吾ガ國富ノ增進ニ寄與セントスルモノニシテ誠ニ時宜ニ適シタル計畫ニ有之候由ツテ東京府下出品關係者相謀リ東京出品協會ヲ組織シ優良製品ノ出陳ニ努メ以テ府下産業ノ復興ノ狀況ヲ如實ニ示シ東京製品ノ聲價ノ維持增進ニ努メ其ノ販路ノ擴張ヲ圖ルヘク計畫罷在候ニ就テハ特別ノ御詮議ヲ以テ金壹千圓也補助金御下附相仰度別紙會則及豫算書相添ヘ此段申請候也

昭和三年九月十三日

大禮奉祝博覽會東京出品協會
理事長　山本留次

東京市長市來乙彥殿

第四拾六節　水道鐵管工事費其他追加豫算竝起債及償還方法ニ關スル件

▽**追加豫算**　十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレ、即決可決セラレタリ。

第百八十四號

昭和三年度東京市水道歲入出追加豫算

歲入

一金貳拾八萬圓

歲出

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾六節　水道鐵管工事費其他追加豫算竝起債及償還方法ニ關スル件

一金貳拾八萬圓

說明　勞働者失業期間、水道鐵管敷設、鐵管連絡、既設鐵管維持竝附屬器具修繕ノ各工事ヲ起シ失業者ノ救濟ヲ爲スヲ適當ト認メ之カ所要經費追加ノ爲資源ヲ國庫補助金借入金及水道積立金繰入ニ需メ本案ヲ提出ス。

▽起債及償還方法ニ關スル件　第百八十四號議案ト共ニ左ノ議案提出セラレ、同ク可決セラレタリ。

第百八十五號

起債償還方法ニ關スル件

一　起債金額　七拾六萬四千圓（普通經濟分　五拾九萬五千五百圓　水道經濟分　拾六萬八千五百圓）

二　起債ノ目的　失業救濟事業費ニ充當

三　借入金利率　年四分八厘

四　借入先　大藏省預金部其ノ他

五　借入ノ時期　昭和三年度

六　償還ノ方法　別紙償還年次表ノ如ク償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　普通市費及水道事業收入ヲ以テ充當

說明　第百八十三號及第百八十四號議案ニ伴ヒ失業救濟事業費資金起債ノ爲本案ヲ提出ス。

（起債償還年次表、失業救濟事業費資源調等省略）

第四拾七節　市參事會條例中改正ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレタリ。

第百八十六號

市參與條例中改正ノ件

市參與條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項電氣事業ヲ擔任スル市參與ハ當分ノ內之ヲ置カサルコトヲ得

說明　電氣事業ヲ擔任スル市參與ハ當分ノ內之ヲ置クノ必要ナシト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

市參與條例

第一條　市ノ經營スル左ノ事業ヲ擔任セシムル爲市參與ヲ置ク

一　養育院

一　電氣事業

第二條　市參與ノ定數ハ前條ノ事業ニ付各一人トシ其任期ハ四年トス

第三條　電氣事業ヲ擔任スル市參與ハ有給トス

本案ハ左ノ質問應答ヲ經テ可決セラレタリ。

藤原俊雄君　元來條例ノ改正又ハ樞要ナル議案ニ關シテハ、議員ノ質問ナキモ、市長自ラ進ンテ說明スルヲ當然トス。然ルニ例ヘハ過刻此議場ニ於テ吾々ガ承認ヲ與ヘタル副收入役ノ更迭ニ關シテモ、市長ハ此承認ヲ求ムルニ當リ、前任者及新任者ニ付、何等ノ說明ヲ爲サヾルニ、市會ハ直チニ之ヲ承認シタルガ如キハ、市會ノ道德

上、習慣上、善良ナリト云フヲ得ザルナリ。又第百八十六號案、市參與條例ノ改正ハ、內務大臣ノ許可ヲ要スル重大ナル問題ナリ、況ヤ事ハ東京市ノ殆ド半ニ近キ財政ヲ運用シ、公共事業中最モ大ナル電氣局ニ關スルニ於テヲヤ、故ニ從來此大任ヲ完ウセシムル爲ニ、市長ト殆ド同格、若ハ其レ以上ノ人才ヲ推擧スルノ希望ヲ以テ、本條例ノ制定ヲ見タリト信ズ。但シ市參與ヲ任命スルニハ「市參與ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム」トノ條文ニ依リ、市長ノ推薦ニ待ツベキモノナルヲ以テ、條例變更ノ必要ナキニ拘ラズ、今突如トシテ之ヲ提案シタル理由如何。先般市長ハ小久江議員ノ質問ニ答ヘテ、「現在ノ局長事務取扱ヲ以テ不充分ト思惟セズ、今日ノ場合此狀態ヲ以テ推移シテ可ナリ」ト言ヘリ、而シテ數日前市長ヨリ吾々ニ配付セラレタル冊子中ニハ「サレバ電氣局ノ事ニ就テモ、市ハ之ガ爲ニ電氣局ヲ設置シ、其局長ヲ特ニ市參與ト爲シ、以テ鋭意電氣事業ノ改善充實ニ努メ」ト記セリ。惟フニ電氣局ハ負債總額貳億ニ近ク、年收亦實ニ參千萬圓ノ大事業ニシテ、東京市ノ繁榮ト雜沓トニ伴ヒ、交通機關ノ問題ハ、市民ノ福利ニ直接影響ヲ及ボスヲ以テ、地下鐵道ノ計畫、自動車ノ經營、電車ノ改善等ノ爲ニ大ナル專門的人才ヲ要スルコト急ナルノ時ニ當リ、十箇月ノ久キニ亘リテ局長ヲ得ル能ハズ、而カモ其原因ハ市會ガ市長ノ推薦スル人物ニ同意セザルニ在リトノ世上ノ疑惑ヲ喚起スルノ虞アル議案、換言スレバ市會ニ對スル一種ノ不信任トモ看做サレ得ベキ議案ガ爰ニ提出セラレタルハ、余ノ怪訝ニ堪ヘザル所ナリ。余ハ市會ガ市長ノ推薦セル候補者ニ同意ヲ表セザルガ如キ險惡ナル空氣アルコトヲ信ゼズ、少クモ余自身ハ市長ニ滿腔ノ好意ヲ寄スルニ拘ラズ、此ノ如キ德操ヲ缺クカノ嫌アル議案ガ時々提出セラルルハ、市長ノ爲ニ甚ダ取ラザル所ナリ。聞クガ如クンバ、初メ市會ノ大勢ハ、本案ハ條例ノ改正ナルガ故ニ、委員ニ付託シテ審議スベシト云フニ在リタルモ、市長ノ强キ希望ノ爲ニ今夕即決可決セラルベキ運命ニ在リト、果シテ然ラバ余ハ詳細ナル提案理由

ノ說明ヲ請ハント欲ス。

市來市長　本件ニ關シテハ、余ハ本會議ノ席上ニ於テ曾テ正式ノ說明ヲ爲シタルコトナキモ、各會派間ノ種々ノ協議ノ際ニ其趣旨ヲ陳ベタルガ故ニ、今夕ハ再說ノ必要ナシト思惟セリ請フ諒セラレンコトヲ。余ハ刻下ノ狀勢ニ於テ、市參事會條例ノ改正ハ最モ急務ナリト信ズ。諸君ノ知悉セラルル如ク、參與ハ市長ノ監督ヲ受クルモ、一面ニ於テハ獨立ノ職權ヲ有ス、電氣局ノ一般經營及市ノ經濟ガ、何等ノ故障ナク、通常ノ狀態ニ在ル場合ニハ、此制度ハ最モ適當ナラン、然レドモ今日市ノ經濟ハ甚シク窮迫シ、電氣事業ノ經營モ、亦頗ル困難ニ陷リ、兩者共ニ一大整理ヲ爲サザルベカラズ、之ガ爲ニハ雙方ノ理事者間ニ充分ナル聯絡ト協力トヲ必要トス、然ルニ電氣局長ガ參與トシテ獨立ノ職權ヲ有スル場合ニハ、完全ナル調和ヲ以テ整理ヲ遂グル上ニ、時ニ或ハ支障ヲ來スコトナキヲ保セズ。余ノ希望トシテハ、市長ヲ中心トシテ此整理ヲ總テ同一轍ニ進行スルニ在リ、從ツテ少クトモ現在ノ狀態ニ於テハ、必ズシモ參與ヲ置クヲ要セズ、普通ノ局長ヲシテ事務ヲ處理セシムルコトハ、却テ機宜ノ措置ナリト信ズ、是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ。猶目下整理ノ進行ハ急ヲ要スルニ拘ハラズ、本年モ漸ク切迫シ、且ツ遠カラズ御大典ヲ擧行セラルルヲ以テ、此整理事務ニノミ沒頭スル能ハザルノ狀態ニ在リ、本案ニ對スル市會ノ承認ガ一月遲クルレバ、理事者ノ此事務ハ從ツテ遲ルルノ虞アルヲ以テ、願ハクハ直ニ本案ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ。

藤原俊雄君　余ハ市長ノ答辯ニ二ツノ矛盾ヲ感ズ、其一、七月十二日ノ會議ニ於ケル小久江君ニ對スル答辯中ニ、市長ハ「現在ノ局長事務取扱ヲ以テシテ、假令充分ナラズトスルモ、不充分ナリトハ考ヘズ、今日ノ所此狀態ヲ以テ推移シテ可ナリ」ト言ヘルガ、今ノ說明ニ據レバ、電氣局長ハ重要ナルガ故ニ、事務ノ遂行上至急之ヲ

任命シテ、市長ノ支配下ニ置クベキナリト言ヘリ。其二、市長ハ電氣局長ハ市長ニ隷屬スベキモノニシテ、多少ヲ論ゼズ、獨立ノ權限ヲ有スルハ不可ナリトノ說明ヲ爲セルモ、本案ヲ見ルニ、參與ヲ廢スルニ非ズシテ、單ニ當分ノ內之ヲ置カザルコトヲ得トノ附則ヲ設ケタルニ過ギズ、提案ノ精神ト文字トハ大ニ齟齬セルガ如シ、如何。

市來市長　第一ノ點ハ決シテ矛盾ニ非ズ、余ハ永久ニ局長事務取扱ヲ置クトノ意思ヲ言明シタルコトナク、初ヨリ之ヲ暫定的ノ任命ト思惟シ、當分現狀ニテ可ナリト云ヒタルニ過ギズ、故ニ毫モ本案ト矛盾セズ。第二ノ點モ亦然リ、余ハ現下ノ狀態ニ於テ、參與ニ非ザル局長ノ必要ヲ認ムルニ止マリ、其恒久的必要ヲ主張スル者ニ非ザルナリ。

第四拾八節　市設卸賣市場使用條例中改正ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上程セラレ、即決可決セラレタリ。

第百八十七號

東京市市設卸賣市場使用條例中改正ノ件

東京市市設卸賣市場使用條例中左ノ通改正シ其ノ施行期日ハ市長之ヲ定ム

第三條第一項中

江東青物市場　ヲ　江東青果市場　ニ改ム

第三條第一項江東青物市場中

醱酵室使用料	一月一坪ニ付	一圓二十錢
芋洗場使用料	一	月　二百圓
待舍所使用料	一月一坪ニ付	五　圓

ヲ

醱酵室使用料	一月一坪ニ付	二　圓
芋洗場使用料	一月ニ付	百　圓
待合所使用料	一月一坪ニ付	一　圓

ニ改メ

車置場使用料	一月一坪ニ付	十　錢

ノ次ニ

電話交換室使用料	一月一坪ニ付	二　圓

ヲ加フ

第三條第一項中

神田青物市場競賣所

使用料	一月一坪ニ付	一圓五十錢

ヲ

神田青果市場

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾八節　市設卸賣市場使用條例中改正ノ件

店舖使用料	一月一坪ニ付	六圓
臨時店舖使用料	同	三圓
店舖前通路使用料	同	一圓
荷捌場使用料	同	二圓
荷揚場使用料	同	一圓五十錢
醱酵室使用料	同	三圓五十錢
臨時醱酵室使用料	同	一圓
倉庫及計算場使用料	同	二圓十錢
銀行及信用組合事務所使用料	同	十圓
營業人事務所使用料	同	四圓五十錢
小賣商組合事務所使用料	同	四圓五十錢
附屬商賣場使用料	同	七圓
食堂使用料	同	五圓
芋洗場使用料	一月ニ付	二百四十圓
待合所使用料	一月一坪ニ付	一圓五十錢
車置場使用料	同	二十錢
物置使用料	同	二圓

電話交換室及蓄電池室使用料　同

ニ改ム

第六條ノ二　青果市場ニ關スル業務規程ハ市長之ヲ定ム

說明　市設中央卸賣市場神田分場一部本年十一月末竣功ニ付現神田青物市場ニ之ヲ收容シ其ノ建物及設備ヲ使用セシムル爲之カ使用料ヲ制定シ尙江東青物市場ノ使用料ニ付テハ一部改造シタルト從來ノ實績トニ徵シ改正ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス

（參照）

東京市市設卸賣市場使用條例抄錄

第三條　市場ノ使用ニ付テハ左ノ使用料ヲ徵收ス

築地魚市場		
店舖使用料	一月一坪ニ付	五圓
附屬商建物使用料	一月一坪ニ付	五圓
銀行建物使用料	一月一坪ニ付	十圓
鹽置場物置使用料	一月一坪ニ付	一圓
棧橋使用料	一月一箇所ニ付	八十圓
棧橋見張所使用料	一月一箇所ニ付	一圓
江東青物市場		
店舖使用料	一月一坪ニ付	四圓五十錢
荷捌場使用料	一月一坪ニ付	二圓
醱酵室使用料	同	一圓二十錢
倉庫及計算所使用料	同	二圓
信用組合事務所使用料	同	十圓

昭和年間　第貳章　昭和三年　第四拾八節　市設卸賣市場使用條例中改正ノ件

營業人事務所使用料	同	四圓五十錢
附屬商賣場使用料	同	六 圓
食堂使用料	同	五 圓
芋洗場使用料	一 月	二 百 圓
待合所使用料	一月一坪ニ付	五 圓
車置場使用料	同	十 錢
神田靑物市場鑑賣所		
使用料	一月一坪ニ付	一圓五十錢

使用料ハ毎月二十五日限其ノ翌月分ヲ徵收ス

既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ第四條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四拾九節　靑物市場費追加豫算

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上程セラレ、即決可決セラレタリ。

第百八十八號

昭和三年度東京市歲入出追加豫算

歲　入

一金八萬七千四百五拾壹圓

歲　出

一金參萬六千七百七圓

一金貳千九百七拾圓

合計金參萬九千六百七拾七圓

歲入出差引

殘金四萬七千七百七拾四圓

說明　本件ハ神田靑物市場本建築落成ニ伴ヒ之カ管理費ヲ計上シ資源ヲ當該使用料ニ需メ豫算追加ノ爲本案ヲ提出ス。

歲入豫算高

經常部豫算高

臨時部豫算高

第五拾節　上下水道公債條例中改正ノ件

十月二十六日ノ會議ニ左ノ議案上程セラレ、即決可決セラレタリ。

第百八十九號

東京市上下水道公債條例中改正ノ件

東京市上下水道公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第八條ノ三　前條ノ短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ前二條ノ規定ヲ準用シ更ニ短期債ヲ發行スルコトヲ得

說明　第八條ノ二ニ依リ發行シタル短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ更ニ短期債ヲ發行シ得ルノ途ヲ拓クヲ必要ト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市上下水道公債條例（大正五年十二月十三日市條例第五號）

第一條　本公債ハ上下水道擴張及下水改良事業竝計量給水制實施ノ費途ニ充ツル爲大正六年度以降八年度間ニ手取額四千八百四十萬圓以內ヲ必要ノ都度發行ス

ニ應シ募集ス

前項公債募集額ハ券面五千三百八十萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第三條　本公債利子ノ割合ハ券面額ニ對シ年率百分ノ六以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回トシ前六月分宛ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日マテ日割ヲ以テ計算ス

第五條　本公債ノ元金ハ左ノ區分ニ依リ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲スコトアルヘシ

一　大正六年度發行ノ券面一千萬圓ハ大正十一年六月一日以降十五年間

二　大正十年度以降發行ノモノハ大正十五年度以降同三十七年度迄ノ間

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

大正十年度以降發行ノモノヽ據置期間及其償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

第六條　本公債ノ元金及利子ハ上水道費及下水道費ニ對スル國庫補助金、上水道收入、河岸地貸付料、市區改正特別稅及上水道擴張竝下水道改良事業ヨリ生スル雜收入ヲ以テ支辨ス

第七條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利子年率百分ノ八以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テ第一條ノ募集期間ハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ償還スルモノトシ其利率及償還ノ方法ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二條、第四條及第七條ノ規定ハ短期債發行ノ場合ニ之ヲ適用ス

第八條ノ二　短期債償還ノ爲發行スヘキ本公債募集ノ時期適當ナラサル時ハ前條ノ規程ヲ準用シ更ニ償還期限大正十八年度ヲ越エサル短期債ヲ發行スルコトヲ得

第九條　本公債ノ各年度ニ於ケル發行額其手取額及利率其他必要ナル事項竝本公債取扱ニ關スル手續ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十條　短期債償還ノ爲發行スヘキ本公債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ簡易生命保險積立金ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條乃至第六條ノ規定ハ前項借入金ニ之ヲ準用ス

第五拾壹節　御即位ノ大典ニ關スル件

▽**賀表議定竝奉呈ニ關スル件**　市來市長ノ請求ニ因リ、本件ヲ議定スル爲、十一月六日特ニ會議ヲ召集シ、**議長**（副議長入山祐治郎君）先ヅ開會ヲ宣シ、且曰ク、御大典御擧行ノ第一日タル今朝ハ、天氣極メテ晴朗ニシテ、龍顏殊ニ麗ハシク、市民歡呼ノ中ニ芽出度京都ニ御進發アラセラレタルハ、誠ニ大慶ノ至ニ堪ヘズ。本日ノ會議ハ市長ノ請求モアリ、賀表奉呈ノ議決ヲ爲スタメ、特ニ諸君ノ參集ヲ請ヘリ。御發輦奉送ノ直後ニ於テ、曠古ノ御盛典ヲ祝シ奉ルベク、賀表奉呈ノ件ヲ愼重審議スルノ機會ヲ得タルハ、吾々議員トシテ眞ニ一代ノ光榮ニシテ、誠歡誠喜ノ至ニ堪ヘズ、玆ニ議事ヲ開始スルニ方リ、謹デ一言ス。是ヨリ先キ是ニ於テ石橋書記長ハ左ノ文面ヲ朗讀セリ。

財主發第三六九號

御即位禮賀表議定竝奉呈ノ件ニ關シ本月六日午前十時市會開會相成度候也

東京市長　市來乙彥

東京市會議長小島七郎殿

斯クテ本日ノ會議ニ入ルヤ、**市來市長**發言ヲ求メテ曰ク、畏クモ　天皇陛下ニハ、御即位ノ大典ヲ擧ゲサセラルル爲、今朝市民歡呼ノ中ニ京都ニ御發輦アラセラレタルハ、洵ニ慶賀ノ至ニ堪ヘズ、我々國民ハ滿腔ノ赤誠ヲ捧ゲテ、皇室ノ昌榮ヲ祈リ奉ルハ言ヲ俟タザル所、況ヤ我々東京市民ハ、日常皇室ニ接近シ奉ルガ爲、奉祝ノ情特ニ深厚ナルモノアルニ於テヲヤ、此故ニ御即位禮ノ當日、市民奉祝ノ赤誠ヲ捧グル爲、

謹テ賀表ヲ奉呈セント欲シ、其決議ヲ請フノ目的ヲ以テ、本日開會ヲ求メタリ、余ハ茲ニ恭ク賀表ノ文案ヲ朗讀スベシ。

東京市長臣市來乙彥言ウス伏シテ以フニ

天皇陛下

皇家ノ成典ニ遵ヒテ

即位ノ禮ヲ行ハセ給フ生民孰レカ慶賀シ奉ラサランヤ臣乙彥誠歡誠喜頓首頓首臣聞ク

日月天ニ麗リ

明皇地ニ御ス是故ニ四海升平ニシテ萬物生ヲ遂ク ト恭シク惟ミルニ

陛下

皇祖

皇宗ノ遺烈ヲ承ケテ

萬世一系ノ大統ヲ繼キ給ヒ

允ニ文允ニ武ニシテ

建國ノ宏謨ヲ恢ニシ

誠ニ仁誠ニ慈ニシテ

累聖ノ惠澤ヲ熙メ給フ是ニ於テカ

和風ハ遍ク太靈ニ度リ

恩露ハ溥ク草野ヲ霑シ山巓水涯、老幼相和シテ

清平ヲ謳歌シ

皇室ノ益〻榮エサセ給ヒテ

寶祚ノ愈〻窮リナキヲ祝セサルナシ臣乙彥公職ヲ

辱穀ノ下ニ奉シ斯ノ嘉辰ニ値ヒ欣忭ノ至リニ堪ヘス謹ミテ市會ノ議ヲ經、市民ニ代リテ表ヲ奉リ賀ヲ稱ケ以テ

聞ス臣乙彥誠歡誠喜頓首頓首謹ミテ言ウス

昭和三年十一月十日

東京市長正四位勳一等　臣　市來乙彥　上表

本案ハ直ニ議題ニ供セラレ、全員起立ノ裡ニ可決セラレタリ。尚賀表ノ奉呈ハ、大典參列ノ爲京都ニ出發スル市長ニ之ヲ一任スルコトヲ議決シ、且來ル十日御即位當日ハ、先例ニ準據シ、市長代理小野助役及議長代理入山副議長ガ、宮城及　皇太后陛下ノ御在シマス青山御所ニ伺候シ、市長ニ代リテ賀詞ヲ捧クベシトノ副議長ノ豫告ヲ承認シテ散會シタリ。

斯クテ十一月二十九日ノ次回ノ會議劈頭、**市來市長**ハ發言ヲ求メテ曰ク、「御即位禮ノ　賀表ハ本月十一日午前十時、京都ニ於テ奉呈ノ手續ヲ終了セリ。尚本職ハ市長トシテ諸般ノ御儀式ニ參列スルノ光榮ヲ擔ヒタルガ、是レ實ニ本職ノ感激措ク能ハザル所ナリ。又曩ニ市會ノ決議ヲ以テ請願シタル　天皇　皇后兩陛下　御大禮本市祝賀會ニ　行幸　行啓ノ儀ニ關シテハ、十二月十三日ニ　行幸　行啓アラセラルベク、若シ當日雨天ナレバ、翌十四日ニ　行幸　行啓アラセラルベシ、又若シ同日モ雨天ナレバ、　行幸　行啓ハ御取止メニ相成ルベキ旨仰出サレタル趣、宮內大臣ヨリ

本月十七日ニ通達ヲ受ケ、且其際奉祝會ニ於テ特ニ　勅語ヲ賜ハルベキ旨ノ有リ難キ御内沙汰ヲ拝セリ、以上謹ミテ報告スト。

▽**御大禮東京市奉祝辭議定ニ關スル件**　十二月十一日頭書ノ件ヲ議スル爲特ニ開カレタル會議ニ於テ、劈頭**入山副議長**曰ク、余ハ謹ミテ一言挨拶ヲ述ブルノ光榮ヲ有ス、曩古ノ御盛典タル　御即位式ノ諸禮モ無事終了シテ、　兩陛下芽出度御歸還アラセラレタルハ大慶ノ至ニ堪ヘズ、而シテ來ル十三日若ハ十四日ヲ以テ擧行セラルヽ大奉祝會ニ、畏クモ　行幸啓ノ御沙汰ヲ蒙リタルハ、實ニ感激言フ所ヲ知ラザルナリ。本日ハ右奉祝會場ニ於テ市長ノ名ヲ以テ奉呈スベキ奉祝文ヲ議決スル爲、諸君ノ參會ヲ請ヘリ、先ヅ市長ノ開議請求書ヲ朗讀セシムベシト。

右請求書ハ左ノ如シ。

財主發第五〇五號

十二月十三日御大禮東京市奉祝會當日市長ヨリ奉呈スベキ賀辭議決ニ關シ來ル十一日午前十時市會開議相成度候也

東京市長　市來乙彦

東京市會議長小島七郎殿

斯クテ當日唯一ノ日程タル御大禮東京市奉祝辭議定ニ關スル件ノ議事ニ入ルヤ、**市來市長**先ヅ發言ヲ求メテ曰ク、畏クモ　行幸　行啓ヲ仰ギテ上野恩賜公園ニ於テ開會スベキ東京市奉祝會ハ、愈ミ明後日ニ迫リタルヲ以テ、本日ハ右奉祝會ニ於テ奉呈スベキ賀辭ヲ決定スル爲メ、開議ヲ請求セリ。余ハ賀辭ノ文案ヲ起草シタルヲ以テ、此席ニ於テ之ヲ朗讀スベシ、願ハクハ審議ヲ遂ゲラレンコトヲト。其文案ハ左ノ如シ。

東京市長臣市來乙彦言ウス

陛下本市民ノ情願ヲ允シ

車駕今日ヲ以テ此ニ臨幸シ市民ノ奉賀ヲ受ケサセ給フ臣乙彦誠懽誠喜頓首頓首竊ニ以フニ

天日偏照セスト雖モ晨光ハ先ツ扶桑ノ枝ニ上ル普率皆王臣タルモ

惠風ハ每ニ

輦路ヨリ起ル是故ニ市民ハ朝夕ニ

宮城ノ莊嚴ヲ仰キ時時ニ

行幸ノ威儀ヲ拜シテ忠愛ノ心油然トシテ生ス恭シク惟ミルニ

陛下聰明睿知ノ資ヲ稟ケ

聖文神武ノ德ヲ躬ニシ

皇祖

皇宗ノ鴻謨ニ據リ

惟神ノ寶祚ヲ繼キ給ヒ

明敕ヲ下シテ臣民ノ當サニ鬱フヘキノ大道ヲ示シ給ヘリ市民ハ

聖旨ヲ奉體シ感激ノ至リニ堪ヘス此ニ恭シク奉賀ノ忱ヲ表ス是日天澄ミ氣清ク菊花ハ馨ヲ放チテ八百ノ街衢都ヘテ

御代ノ榮エヲ稱ヘ霜葉ハ錦ヲ染メテ千萬ノ市民皆丹心ノ誠ヲ捧ケ西ヨリ東ヨリ北ヨリ南ヨリ欣欣然トシテ交ミ

來リ均シク

寶祚ノ無窮ヲ祈リ

聖壽ノ萬年ヲ祝シ奉ラサルハナシ市民ハ今日ヲ記念シ入リテハ各自ノ業務ヲ勵ミ國力ノ充實ヲ謀リ出テテハ剛健ノ氣象ヲ養ヒ

皇化ノ宣揚ヲ力メ以テ

聖旨ノ萬一ニ奉對センコトヲ期ス臣乙彦不才ヲ以テ公職ヲ

帝都ニ奉シ幸ニ斯ノ盛時ニ逢ヒ

天顏ニ咫尺シテ激切屏營ノ至リニ任フルナシ謹ミテ市會ノ議ヲ經市民ニ代リテ賀辭ヲ上ル 臣乙彦 誠惶誠喜頓首頓首

昭和三年十二月十三日

東京市長正四位勳一等 臣 市來乙彦

市長ノ朗讀終ルヤ、議長ハ本案ヲ議題ニ供シ、直チニ採決ニ入リ、總員起立ノ裡ニ之ヲ可決セリ。

第五拾貳節　市政一般方針ニ關スル質問竝答辯

七月十二日ノ市會ニ左ノ質問書提出セラレタリ。

一　市政一般方針ニ關スル質問趣意書

右七月十二日ノ市會ニ提出候也

昭和三年七月十一日

提出者　藤原俊雄

賛成者　倉田金三郎　外四名

市政一般方針ニ關スル質問趣意書

市長ノ市政一般ニ關スル方針如何

一　市民ノ共同生活ニ關スル基礎的精神ヲ如何ニシテ指導セントスルカ

二　行詰レル電氣局經濟ヲ如何ニセントスルカ

三　東京市ノ國際的地位ニ對シ市長平素ノ要意及所見如何

本案ノ提出後時ヲ經テ、十一月二十九日ノ會議ニ於テ、提出者ハ始メテ質問ノ趣意ヲ左ノ如ク說明スルノ機會ヲ得タリ。

藤原俊雄君　質問演說ハ常ニ人氣ニ投セザルガ故ニ、余ガ本質問書ヲ七月十二日ノ市會ニ提出シタルニ拘ラズ、種々ノ事情ノ爲ニ、今日迄其趣旨ヲ說明スルノ機會ヲ與ヘラレザリキ、提出當時ノ質問ノ趣意ハ、市民ノ共同生活ニ關スル基礎的精神ヲ市長ニ質スニ在リテ、問題ハ甚ダ廣汎ニ亘ルモ、要ハ市長ヲシテ大體ノ主義方針ヲ自由ニ語ラシメムトスルニ在リタリ。爾來數月ヲ經過シ、市竝ニ市會ノ事情モ、市民ノ心裡狀態モ、著ク變化シタルヲ以テ、余ノ說明ハ或ハ前揭質問ノ條項ニ該當セザルガ如キコトナキヲ保セズ、請フ諒セヨ。抑ミ市政ハ政治運動ト全然其性質ヲ異ニシ、政黨政派ノ爭ヲ超越セル純然タル實務ニ過ギザルコトハ、何人モ承認スル所ナリ、然

ルニ今期ノ市會議員選擧以來、東京市政ガ著ク政黨化シタルハ、余ノ慨嘆ニ堪ヘザル所ナルガ、若シ東京市長ニシテ此ノ如キ趨勢ハ市政ヲ誤ルコトヲ看取セバ、敢然起テ吾々市會議員ヲ指導スルノミナラズ、市民ニ對シテ大ニ輿論ヲ喚起シ、或ハ之ニ戒飭ヲ加フルハ其責任ニ非ズヤ、而カモ今日マデ此事アルヲ聽カザルノミナラズ、問題ノ起ル毎ニ、其裏面ニハ政黨若クハ政府ノ影ガ潛ムヲ見ル時、市長ハ如何ニ之ニ對處セムトスルカ。現ニ吾々ノ間ニ瀆職事件ヲ惹起セル瓦斯問題、板舟問題、若クハ京成電車引入問題等ガ、市會以外ノ政治家ニ大ナル關係ヲ有スト云フガ如キハ、甚ダ憤慨スベキニ非ズヤ。此等ノ問題ニ關シ、過去ニ遡リテ調査スレバ、或ハ政治家ノ誘惑ニ因リテ提案セラレタルニ非ザルカトノ疑問ヲ生ズベキ理由一ニシテ止マラズ、例ヘバ瓦斯ノ報償契約改訂ニ關シテモ、「スライデング・スケール」ヲ全然放棄シテ、一割二分ノ配當ヲ許スト云フガ如キ提案ハ、實ニ不理ヲ極ムルモノニシテ、當時瓦斯會社ハ或ル派ノ政治家ニ四拾萬圓他ノ派ニ八拾萬圓ヲ醵金シテ、市會議員ノ選擧費ニ充當セシメタリトノ醜聞ヲ耳ニスルハ、痛嘆ニ堪ヘザルナルモ、之ヲ九拾萬圓ト定メタル根據ハ何レニ在ルカヲ知ルニ苦ム、余ハ先般松本船田兩助役ニ對シ、若シ補償案ガ市ノ責任ヲ基礎トスル提案ナラバ別問題ナルモ、同情的補償ノ如キハ市ノ爲スベキ所ニ非ザル旨ヲ述ベ、斯ノ如キハ贈收賄ノ因トナルノ虞アルコトヲ說キテ反省ヲ促シタルモ、容ルル所トナラザリシガ、果セル哉、今ヤ不幸ニシテ刑事問題ヲ惹起セリ。又京成電車ノ引入ニ關シテハ、余ハ都市計畫上淺草ハ勿論、更ニ進ミテ日比谷公園迄引入ルベシトノ意見ヲ有ス、余ハ決シテ利慾ヤ情實ノ爲ニ斯ル主張ヲ爲スモノニ非ズ。然ルニ當時表面引入ニ反對シナガラ、裏面ニ於テ醜行爲ヲ敢テシタル電氣局理事者ハ目下獄中ニ在リ、理事者側ニ於テ此ノ如ク瀆職罪ニ問ハルヽ者アリトセバ、市長ハ今後如何ナル方針ヲ以テ之ニ對處セントスルカ。第二ニ東京市ハ近來甚シク金錢慾ニ惑溺シツヽアルノ感アリ、是レ或ハ市會ニ於ケル瀆職事件ノ如キモノヲ誘致スルノ因ヲ爲スニ非ザルカ、君子ハ義ニ敏ク、小人ハ利ニ敏シ、金錢ニ關シテハ市長ハ嚴格ナル態度ヲ固執セザレバ、或ハ人ヲ誤リ世ヲ誤ルコトナキヲ保セズ、此意味ニ於テ、瓦斯問題ヤ電車引入問題ノ紛糾未ダ解ケザルニ、前理事者ノ慰勞金ヲ決定セントスルガ如キハ甚ダ遺憾ナリ。又今年ノ豫算ニ於テ、市會議員ノ報酬增額ヲ計上シタルガ、當時吾々ハ非常ナル迷惑ヲ感ゼリ、吾々議員ハ議場以外ニ於テハ坐スルニ席ナク、書信ヲ認メントスルモ筆紙ノ備ナシト云フガ如キ冷遇ヲ受ケツヽアルニ拘ラズ、單リ歲費ノミヲ增額セント試ミタルハ、余ノ諒解ニ苦ム所ニシテ、此ノ如キハ市民、市會及市吏員ノ間ニ漸次金錢慾ヲ誘致シ、市政ノ淨化ハ得テ期スベカラザルニ至ラン。余ガ昨年諸外國ヲ巡視シタル際、注目ヲ惹キタル點ハ、何レノ市廳ニ於テモ、功勞アル市長ノ肖像畵、石像、或ハ銅像等ヲ安置シ、人ヲシテ尊嚴ノ念ヲ起サシムルモノアリ。我東京市ハ市長ニ拾萬圓ノ慰勞金ヲ贈ルコトヲ知ルモ、其肖像畵ヲ揭ゲ、若クハ銅像ヲ建ツルコトヲ知ラズ、唯金力ノミニ依リテ、事ヲ決スルハ陋習ト謂ハザルベカラズ、市長ハ此陋習ヲ打破スル爲ニ、如何ナル對策ヲ有スルカ。又東京市ハ商人ト購買契約ヲ爲スニ當リ、本契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得トノ意味ノ成文ヲ今尙使用シツヽアルガ、是レ封建時代ノ專制的弊風ヲ蹈襲セルモノニシテ、時ニ或ハ市吏員ノ橫暴ヲ誘導シ、收賄ノ因ヲ爲ス莫キヲ保セズ、過日議員ニ配付セラレタル財政計畫案ニ關シテモ、市長ハ先ヅ之ヲ財政調査會ニ諮ラズ、市會トノ協調策ヲ講ゼズシテ突如トシテ之ヲ發表シ、而カモ必ズ之ヲ實行スルノ決心ナリト言明セルガ如キハ、壓迫ノ甚シキモノニシテ、自治體ノ本義ト相容レザルナリ。次ニ市會ハ近來洵ニ悲慘ナル狀態ニ陷レルガ故ニ、或ハ之ヲ解散シ、若クハ補闕選擧ヲ行フノ必要ナキカ。又電氣局ノ經濟ハ極度ノ苦境ニ在リ、省線ノ發展、自動車ノ激增、地下鐵ノ計畫等、將來電氣局ノ財政ヲ脅スモノ一

ニシテ足ラズ、海外諸國ニ於テモ、地上電車ハ非運ニ陷レルガ、東京市モ此點ニ鑑ル所アリテ、近來自動車網ヲ擴大シ、且ツ地下鐵道ノ調査ニ着手シタルガ、地下鐵道ニ對スル起債ハ、大藏省ニ於テ未ダ認可ヲ與ヘズ、而カモ五拾萬圓ノ調査費ハ已ニ蕩盡セラレタリト聞ク、市ノ交通機關ニ對スル市長ノ抱負如何。最後ニ東京市長ハ國際的ニ東京市ヲ代表スルノ必要アリト信ズ、先般我大使ガ米國ニ赴任シタル時、「サンフランシスコ」ノ市長ハ、盛ニ大使ヲ歡迎シテ、國際的儀禮ヲ交換セリ、本年ハ御大典ノ爲、各國ノ使節來朝シ、宮內省ノ優遇ヲ受ケツツアル時、東京市長モ亦彼等ニ對シ、應分ノ國際的義務ヲ果スハ當然ナリ、此點ニ關スル市長ノ意見ハ如何。

市來市長　質問ノ第一、即チ市政ハ政黨政派ヲ超越スベシトノ論ハ、頗ル同感ニシテ、余ハ私人トシテモ公人トシテモ、未ダ曾テ一黨一派ニ偏シタルコトナク、將來ニ於テモ亦此趣旨ヲ帶シテ、市政ノ運用ニ努力スベシ。第二、金錢慾ノ問題ニ關シ、質問者ハ種々ノ實例ヲ引用セラレタルガ、就中實費辨償ノ增額案ヲ其一トシテ指摘セラレタルハ、余ノ承服スル能ハザル所ナリ。余ハ現在ノ實費辨償ヲ不充分ナリト信ズルガ故ニ、當然ノ事ヲ提案シタルニ過ギズシテ、斷ジテ金錢慾ヲ充タサントスルノ企圖ニ出デタルニ非ズ、余ハ將來ト雖モ、金錢慾ニ對シテハ極メテ恬淡ナルコトヲ期スベシ。第三、市政ノ近來ノ運用ハ貴族的專制的傾向ヲ有ストノ意見ニ關シテハ、余ハ寧ロ反對ニ漸次平民的ト爲リツヽアリト考フ、殊ニ余ノ財政計畫案提出ノ方法ヲ專制的實例トシテ引用セラレタルモ、余ハ此計畫ニ關シテハ、互ニ調査研究ヲ積ミ、歸着スベキ所ニ歸着セシムルコトヲ期シ、其間毫モ拘束抑制ノ意思ナシ。第四、市會ノ統一ヲ如何セントスルカ、補闕選擧ヲ行フヤ否ヤトノ問ニ答ヘンニ、現在ノ補闕ハ極メテ少數ナルガ、之ヲ補闕スベキヤ否ヤ、又其時機如何ハ、極メテ複雜ナル市會ノ現狀ニ鑑ミ、愼重ニ考慮スベキ問題ニシテ、今日余ハ急速ニ補闕選擧ヲ行フノ必要ヲ認メズ、又市會ノ統一ニ就テハ、吾々ハ常ニ市政ノ廓清ニ努メザルベカラザルハ勿論ナルガ、現下忌ハシキ問題ヲモ惹起セルヲ以テ、一層充分ニ考究セザルベカラズト信ズ。電氣局ノ窮迫セル財政狀態ニ對シテハ、經費ノ緊縮ハ無論、其他相當ノ整理法ヲ講ゼザルベカラズト思惟スルヲ以テ、既ニ發表シタル普通經濟ノ整理案ニ關シテモ、尙ホ研究ヲ遂ゲ、適當ノ提案ヲ爲スベシ。最後ニ東京市ハ國際的地位ヲ高メザルベカラズ、余ハ徒ニ交際ノ末節ニ走ルコトヲ好マズ、宜ク其實力ニ依リテ、正正堂々國際的關係ニ進ムベシト思考ス、故ニ現在ニ於テハ從來ノ例ニ倣ヒ、外交官、領事官、商務官等トノ交際ハ、之ヲ適當ノ程度ニ止ムルコトトセリ。

第五拾參節　市會解散命令

十二月二十一日附ヲ以テ、內務大臣ハ左ノ命令ヲ發セリ。

內務省地祕第七七號

市制第百六十二條ニ依リ其ノ市會ノ解散ヲ命ス

昭和三年十二月二十一日

東京府東京市會

內務大臣　望月介圭

第五拾四節　市會議員異動

昭和三年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選擧區	氏名	年月日	摘要
下谷區	小瀧辰雄	昭和三年三月二十日	失格
同	田代義德	昭和三年三月二十九日	補缺
日本橋區	今津源右衛門	昭和三年八月十九日	死亡
麻布區	田中康三	昭和三年八月十九日	辭職
淺草區	島多郎	昭和三年九月一日	死亡
下谷區	金子東一	昭和三年九月二十七日	辭職
同	片山久藏	昭和三年十二月八日	辭職
淺草區	伊藤仁太郎	昭和三年十二月十四日	辭職

第參章　昭和四年

第壹節　市會議員總改選

昭和三年十二月二十一日內務大臣ヨリ市制第百六十二號ニ依リ、東京市會ハ解散ヲ命ゼラレタリ。（第貳章第五拾參節參照）依ツテ昭和四年三月十六日市會議員選擧ヲ行ヒタルガ、三月二十九日ノ會議ニ於テ、左ノ如ク當選シタル旨報告アリタリ。

選出區名	當選者氏名	選出區名	當選者氏名	選出區名	當選者氏名
麴町區	池田清秋	麴町區	岡田和一郎	麴町區	笠井重治
神田區	深澤豐太郎	神田區	中川重政	神田區	高橋秀臣
神田區	岸邊福雄	神田區	桑原信助	日本橋區	新居友三郎
日本橋區	柳田宗一郎	日本橋區	河村慶治郎	日本橋區	伊東美代松
日本橋區	松浦清三郎	京橋區	富田富治郎	京橋區	中南定太郎
京橋區	阿部溫知	京橋區	富岡袖吉	京橋區	橋本信次郎
芝區	大神田軍治	芝區	高橋義次	芝區	中塚榮次郎
芝區	川手忠義	芝區	柳澤保惠	芝區	森原嘉逸

芝區　和田操　麻布區　鹽月學　麻布區　和久利幾之助
麻布區　八太茂　麻布區　小久保時之助　赤坂區　詫摩武彦
赤坂區　羽田如雲　赤坂區　中西敏二　四谷區　本田義成
四谷區　橋本祐幸　四谷區　山田保　赤坂區　結城禮一郎
牛込區　堺利彦　牛込區　高木謙　四谷區　山田保
牛込區　溝口信　牛込區　大野傳吉　牛込區　島中雄三
小石川區　嶋名建　小石川區　松永東　小石川區　大崎清作
小石川區　長島武治　小石川區　山口久吉　本郷區　杉ノ原英太郎
本郷區　蓮江啓藏　本郷區　阿部利七　本郷區　村田忠三郎
本郷區　友成四郎　本郷區　高崎高次郎　下谷區　田代義徳
下谷區　福田勇　下谷區　倉持忠助　下谷區　小澤佐重喜
下谷區　小林牟三郎　下谷區　渡邊龜造　下谷區　森富太
淺草區　岡田四郎　淺草區　川村正夫　淺草區　山田種三郎
淺草區　寺部賴助　淺草區　茂木太市　淺草區　鈴木慶四郎
淺草區　小野養治　淺草區　佐藤庄吉　淺草區　島本龍太郎
本所區　馬島僩　本所區　新甫寛實　本所區　森彙道
本所區　糟谷磯平　本所區　小俣政一　本所區　北條彦四郎

本所區　增田知治雄　本所區　加藤正信　深川區　森健二
深川區　古島宮次郎　深川區　本多市郎　深川區　高橋庄之助
深川區　高橋俊太　深川區　國枝捨次郎　深川區　卯木國三郎

第貳節　正副議長選擧

三月二十九日、市會議員改選第一次ノ會議ヲ開キ、**岡田和一郎君**假議長席ニ着キ、先ヅ議長選擧ヲ行フベキ旨ヲ宣シ、投票ノ結果、投票總數八十二票中、有效投票八十票、無效投票二票ニテ、左ノ如ク當選シタリ。

當選　六十六票　伯爵　柳澤保惠

柳澤君議長席ニ着キ、引續キ副議長選擧ヲ行ヒタル結果、投票總數八十二票中、有效投票七十四票白票八票ニテ、左ノ如ク當選シタリ。

當選　六十票　溝口信

第參節　市會議員當選ノ效力ニ關スル異議申立

▽市會議員當選ノ效力ニ關スル異議申立　本年三月十六日執行サレタル市會議員選擧ニ對シ、下谷區桜本榮太郎、同加納幸一、同松本清次郎、本郷區矢島猪助ノ四名ヨリ、市會議員當選ノ效力ニ關スル異議ノ申立アリシヲ以テ、同月二十九日ノ會議ニ上程、**高橋秀臣君**ノ動議ニ依リ、議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

高橋義次　倉持忠助　精谷磯平　桑原信助　池田清秋
阿部溫知　橋本祐幸　川手忠義　福田勇

委員ハ、**高橋義次君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、四月十日ノ會議ニ於テ左ノ如ク決定シタル旨報告、委員會ノ報告通可決セリ。

一、下谷區茅町二丁目二十五番地榎本榮太郎及下谷區元黑門町八番地加納幸一ハ、三月十六日下谷區選擧區ニ於テ執行サレタル市會議員當選者渡龜造ハ、多數得票者トシテ當選人ト決定告示サレタルモ同人カ住所ト稱シテ屆出タル下谷區金杉下町十七番地ニハ同人ハ勿論其家族ノ一人モ居住セス眞實ノ住所ハ大正十五年以前ヨリ北豐島郡尾久町字下尾久千七十番地ニ移轉シ選擧當時モ現實ニ妻子ト共ニ同所ニ居住シ東京市公民ニ非ラサルニ依リ同人ノ當選ハ之ヲ無效トストノ決定ヲ求ムトノ異議申立

右渡龜造ノ住所カ東京市外ニ在リトノ事實ハ下谷區長ノ意見書ニ徵シ異議申立人ノ**主**張ヲ認ムルヲ得ス從テ東京市下谷區金杉下町十七番地ヲ同人ノ住所ト認ムルヲ至當トスヘク同人カ二年以來本市ニ住所ヲ有スル事明白ナルヲ以テ異議申立人ノ申立相立タス

二、下谷區入谷町二百七十一番地松本清次郎ハ、三月十六日下谷區選擧區ニ於テ執行サレタル市會議員當選者森富太ハ多數得票者トシテ當選者ト決定サレタルモ同人カ住所ナリト稱シテ屆出タル下谷區入谷町三百三十番地ニハ居住ノ事實ナク同人ハ三年前ヨリ千葉縣船橋町附近ノ遊園地ニ妻女ト共ニ生活ノ本據ヲ構ヘ居リ東京市住民ニアラサルニ依リ之カ當選ハ無效トストノ決定ヲ求ムトノ異議申立

右森富太ハ大正十三年十二月ヨリ下谷區北稻荷町三十八番地ニ居住シ昭和三年五月車坂町百六番地ヘ移轉シ昭和三年八月ヨリ入谷町三百三十番地ニ家族ト共ニ居住スルモノ、即チ二年以來本市ニ住所ヲ有スルコトハ同區長ノ意見書ニ徵シ明白ナルヲ以テ異議申立人ノ申立相立タス

三、本鄉區本鄉六丁目九番地矢島猪助ハ、三月十六日本鄉區選擧區ニ於テ執行サレタル市會議員當選者蓮江啓藏ハ當選者ト決定サレタルモ該選擧ニ於ケル法定選擧費用額ハ金千五百七拾圓ニシテ之ヲ超過シタルトキハ縱令當選圈内ニアリトスルモ其當選者ノ當選ハ無效タリ而シテ申立人カ精細ニ探査シタル所ニヨレハ蓮江啓藏カ其選擧ニ要シタル費用ハ實ニ右法定額ノ數十倍ニ達シ居レリ、故ニ蓮江啓藏ノ選擧費用額ヲ精細調査ノ上、之カ當選ハ無效トストノ決定ヲ求ムトノ異議申立

右事實ニ據リ之ヲ按スルニ本件ハ選擧費用ノ法定選擧費額超過ノ點ヲ以テ當選ノ效力ニ異議申立ヲ爲シタルモノナリ、然ルニ法定選擧費用ノ超過ヲ以テ當選ノ無效ヲ主張セントスル者ハ市制第三十九條ノ二ニ依ル府縣制第三十四條ノ二第一項ノ規定ノ準用ニ依リ選擧人ハ當選者ヲ被告トシテ控訴院ニ出訴スルヲ要スルモノトス依テ本件ハ市會ノ審議スル限リニ非サルヲ以テ之ヲ却下スルヲ至當トシ申立人ノ申立相立タス

▽訴願提起ノ件　四月十日ノ會議ニ於テ、前項下谷區茅町二丁目二十五番地榎本榮太郎外三名ニ係ル市會議員當選ノ效力ニ關スル異議申立ノ件ヲ議決シタル後、**大神田軍治君**ヨリ、本件ニ對シ、後日訴願等ノ提出アリタル場合ハ、唯今決定ノ趣意ニ基キ辯明書ノ作製ヲ總テ議長ニ一任シタシトノ緊急動議ヲ提出シ、滿場異議ナク之ヲ承認セリ。然ルニ四月二十三日ノ會議ニ於テ、右ノ中榎本榮太郎及加納幸一兩名ヨリ訴願ヲ提出シ來リタル爲、前市會ノ決議ニ基キ訴願ニ關スル一切ノ書類ノ送付手續ヲ了シタル旨、**柳澤議長**ヨリ報告アリタリ。

文甲三十五號

訴願裁決書送付ノ件

曩ニ下谷區茅町二丁目二十五番地榎本榮太郎同區元黒門町八番地加納幸一ヨリ提起ニ係ル市會議員當選ノ效力ニ關スル訴願ニ對シ東京府參事會ニ於テ別紙ノ通裁決相成貴會經由ノ上訴願人ニ交付方東京府内務部長ヨリ通牒有之候條送付致候也

追テ一件書類御回付相成度申添候

昭和四年七月九日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

東京市長　堀切善次郎

（別　紙）

已地第一八三八號

昭和四年七月六日

東京府内務部長

東京市長殿

訴願裁決書交付ノ件

榎本榮太郎竝ニ加納幸一提起ニ係ル訴願ニ對シ別紙ノ通裁決相成候條貴市會經由ノ上夫々訴願人ニ交付シ領收書徴送相成度

裁決書

東京市下谷區茅町二丁目二十五番地

薪炭雜貨商

訴願人　榎本榮太郎

本訴願ノ要旨ハ訴願人ハ東京市會議員選擧人名簿ニ登錄セラレタル選擧人ナル處昭和四年三月十六日施行セラレタル市會議員選擧ニ於テ當選人ト決定セラレタル渡邊造ハ市制第九條ノ被選擧人タル資格無キヲ以テ同人ノ當選取消ヲ求ムル爲市制第三十六條ニ依リ異議申立ヲ爲シタル處東京市會ハ昭和四年四月十日訴願人ノ申立相立タストノ決定ヲナシ同月十一日之カ決定書ノ交付ヲ受ケタルモ之ニ服スルコトヲ得サルニヨリ市制第三十六條ニ依リ訴願ニ及ヒタルモノナリト謂フニ在リ

其ノ理由トスル所ハ

一、昭和四年三月十六日施行セラレタル東京市會議員選擧ニ於テ下谷區金杉下町十七番地渡邊造ハ下谷區ヨリ立候補シ當選人ト決定セラレタルモ同人カ其ノ住所ハ一人モ住居セス眞實ノ住所ハ大正十五年以前ヨリ東京府下北豐島郡下尾久千七十番地ニ移轉シ選擧當時モ妻子ト共ニ現實ニ同處ニ居住シ居ルハ一般公知ノ事實ナリ仍テ同人ハ東京市住民ニ非サルニ因リ市制第九條ノ市公民タル資格ヲ具備セサルモノナリ

二、東京市會ハ專ラ下谷區長宮川宗德ノ意見書ヲ唯一ノ證據トシテ決定シタルモコノ意見書ハ左記ノ如ク常理ヲ無視シ事實ヲ捏造シタル不當ノモノニシテ信ヲ措クニ足ラス

(イ) 北豐島郡尾久町下尾久千七十番地ノ渡龜造ノ家屋ハ大正十五年十月ヨリ昭和二年十月迄山口民治ニ賃貸シ其ノ後昭和三年七月ヨリ村井善吉ニ賃貸シ引續キ賃貸中ニシテ渡龜造ノ住所ニ非ストノ意見ナルモコノ家屋ハ同所同番地ニ隣接セル別個ノ建物ニシテ渡龜造一家ノ居住セルモノハ他ニ在リ從ツテ尾久警察署大門派出所ノ戸口簿ニモ渡龜造一家ノ分ハ村井ノ分ト別ニ記載セラレタリ、殊ニ渡龜造二女八千代カ尾久町大門小學校ニ入學シ居ルハ事實ニシテ齡七、八歳ノ幼女カ父母ノ居住セサル尾久町ノ小學校ニ入學スル理ナカルヘシ

(ロ) 又右意見書ニハ金杉下町十七番地ハ渡龜造カ家督相續ニ因ル所有土地ニシテ現ニ家屋ヲ建築シ山城屋ナル白米商ヲ先代ヨリ引續キ營ミ居ルモノニシテ同町々會ノ相談役竝ニ土地區劃整理委員及現區會議長タリ依ツテ同所ハ本人ノ住所ナリト認ムト言フニ在ルモ土地家屋カ先代ヨリ相續シタリヤ否ヤハ全然住所ノ存否ト關係ナク又山城屋ナル白米商ハ金杉下町十八番地ニシテ元同人ノ使用人タル長谷川庄次郎カ自己ノ名義ヲ以テ營ミ居ルモノナリ又區劃整理委員ハ住所ヲ要件トシテ選出セラルヽモノニ非スシテ土地所有者モ亦選出セラルル資格アルハ當然ニシテコノ事實ハ住所ト何等關係アルモノニ非ス更ニ他ニ名譽職ニ就任セル事實ヲ以テ住所ヲ有スト論スルハ枝葉ヲ以テ根幹ヲ律セントスルモノニシテ何等尾久町ニ居住スル事實ヲ覆スニ足ラス

三、其ノ他坂本署三之輪派出所戸口調査簿ノ渡龜造ノ分ニ本人ハ通常居住セスト附記セラレ居ル事實及渡カ金杉下町九十六番地永井文藏方ヲ郵便電信ノ受信所ト定メタル事實ハ同人カ下谷區内ニ住所ヲ有セサル有力ナル證據ナリ

コノ故ニ渡龜造ハ下谷區内ニ住所ヲ有セス從ツテ東京市公民ニ非サルニ因リ市制第九條及第十八條ノ規定ニ因リ市會議員ノ被選舉權ヲ有セサルヲ以テ同人ノ當選ハ無效ナリトスル裁決ヲ求ムト謂フニ在リ之ニ對スル東京市會ノ辯明ノ要旨ハ先キニ本件ニ於テナサレタル異議申立ニ對スル本年四月十日ノ市會ノ決定書ニ詳記セルカ如ク尾久町下尾久千七十番地ノ家屋ハ渡ノ所有ナルモ他ニ賃貸シ現ニ引續キ賃貸中ナルヲ以テ同人ノ住所ニ非サルハ明ナルノミナラス下谷區金杉下町十七番地ハ同人カ家督相續ニ因ツテ取得セル土地ニシテ此處ニ家屋ヲ新築シ引續キ山城屋ナル白米商ヲ營ミ居リ又同町町會相談役土地區劃整理委員及現區會議長タリ之等ノ事實ハ明カニ同人カ下谷區ニ住所ヲ有スルコトヲ示スモノニシテ下谷區金杉下町十七番地ヲ同人ノ住所ナリト認定シソノ當選ヲ無效ニ非ストナシタル市會ノ決定ハ正當ナリト謂フニ在リ

依ツテ市制第三十六條第二項ニ依リ訴願ヲ受理シ審査ヲ遂クル處

一、訴願人ハ渡龜造カ北豐島郡尾久町下尾久千七十番地ノ自己所有ノ家屋ハ二軒アリテ他ニ賃貸セル分トハ別ニ自己及家族カ居住セル家屋アリト主張スルモコノ家屋ハ渡龜造ノ實妹半田コトカ居住セルモノニシテ從ツテ渡龜造ノ家族カ時折親戚ナルヲ以テ來泊セル事實アルモ之ヲ以テ同人カ此處ニ居住セリトナスコトヲ得ス又二女八千代ヲ大正十五年以來尾久町大門小學校ニ通學セシメタルハ本人ノ健康其ノ他家庭ノ都合上一時叔母ノ宅ニヨリ通學セシメタルナリ

二、又渡龜造カ下谷區金杉下町十七番地ニ於テ同人ノ前使用人長谷川庄次郎ヲシテ經營セシメ自己及家族ハ十七番地ニ解放社ナル標札ヲ掲ケ此處ニ居住セリコノ家屋ハ二階建ニシテ階下ハ政治的倶樂部トシテ專ラ其ノ用ニ供シ階

上ニ十疊六疊三疊ノ三間アリテ家族四人ノ寢食ノ場所ニ宛テ家財道具竝ニ佛檀等ヲ配置シ引續キ居住セル事實アルハ本參事會ノ調査ノ結果明カナリ又同人カ大正十四年以來下谷區會議員ニ當選シ現ニ區會議長タリ更ニ今回ノ市會議員選擧ニ於テ千五百三十五票ノ得票ヲ得テ當選シタル事實ハ下谷區民ノ大多數カ同人ノ住所カ下谷區内ニ在ルコトヲ認メタルコトヲ證スルニ足ルヘシ

三、又訴願人ハ坂本署三之輪派出所ノ戸口調査簿ニ渡龜造カ日常金杉町ニ居住セサル旨記載シアルハ同所カ住所ニアラサルコトヲ裏書スルモノナリト稱スルモ單ニコノ一事ヲ以テ斯ク論スルコトヲ得サルハ戸口調査簿ノ性質上明カナル處ナリ

次ニ金杉下町九十六番地永井文藏方ヲ郵便電信ノ受信所ト定メタル點ハ永井自身之ヲ否定スルノミナラス假リニコノコトアリトスルモ住所ノ存否ト何等關係ナキモノナリ

四、以上ノ事實ノ他渡龜造ノ社交關係ハ依然トシテ下谷區金杉町ニ於テ行ハレ各種ノ選擧人名簿モ下谷區ニ於テ登載セラレ此處ニ於テ權利ヲ行使シ來レルニ反シ尾久町ニ於テハ全然コノコトナキ等ノ點ヨリ推セハ同人ノ住所ハ尾久町ニ非スシテ依然トシテ下谷區ニアリト認ムルヲ相當トス

然ラハ市制第九條第十八條ノ規定ニ依リ同人ハ下谷區ニ於テ被選擧權ヲ有シ從テ其ノ當選ハ有效ナルコト明カナリ

以上ノ理由ニヨリ裁決スルコト次ノ如シ

訴願人ノ申立相立タス東京市會ノ決定ハ取消スヘキ限リニアラス

昭和四年七月四日

東京府參事會

東京府知事　平塚廣義

附記　加納幸一ニ對スル裁決書モ裁決及ヒ其理由ハ前文ト同一ニ付略ス

第四節　名譽職市參事會員選擧及定數條例改正

▽**市參事會員選擧**　三月三十日ノ會議ニ於テ、名譽職市參事會員ノ選擧ヲ行ヒタル結果、左ノ如ク當選セリ。

投票總數　八十二票　有效投票　八十二票

七票　島中雄三　七票　松永東
七票　大神田軍治　七票　詫摩武彥
七票　川手忠義　六票　高橋庄之助
六票　本田義成　六票　高橋秀臣
六票　大崎清作　六票　鈴木慶四郎
六票　高橋俊太　六票　池田清秋

▽**市參事會員定數條例中改正ノ件**　左案ハ九月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セラレタリ。

第六十一號

東京市名譽職參事會員定數條例中改正ノ件

昭和年間　第參章　昭和四年　第四節　名譽職市參事會員選擧及定數條例改正

東京市名譽職參事會員定數條例中「十二人」ヲ「十五人」ニ改メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　市制ノ改正ニ伴ヒ本市政ノ運用上名譽職參事會員ノ定數十二人ヲ十五人ニ增加スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

▽市參事會員增員選擧　九月二十八日ノ會議ニ於テ、市參事會員定數條例改正ニ件ヲ增員三人ノ選擧ヲ行ヒタル結果、左ノ如ク當選セリ。

出席總數　七十九票　有效投票　七十七票　無效投票　二　票

二十三票　高崎高次郎

十八票　土倉宗明

十九票　新居友三郎

第五節　電氣事業

▽電氣局ト東京電燈會社トノ料金ニ關スル期間協定ニ對スル質疑應答　四月十日ノ會議ニ於テ、左ノ質疑應答アリタリ。

糟谷磯平君　電氣局電燈部ト東京電燈會社トノ一般電燈供給ニ關スル料金協定期間ハ、尚二箇年ノ時日ヲ餘スガ如ク思惟シ居レドモ、事實果シテ如何。一般家庭ニ於テ使用スル電燈ハ概ネ二十燭光以下ニシテ料金亦頗ル不廉ナルガ、東京電燈ニ於テハ之ガ値下ノ意思アルニ拘ラズ、市電ニ在リテハ協定ノ存在スルコトニ依リテ敢テ値下ヲ斷行スル能ハザルモノヽ如シ、依テ理事者ハ該協定改正案ヲ提出シ、値下ノ實行ニ就キ考慮アランコトヲ望ム、而シテ萬一値下ニ關スル協定不可能ナリトセバ、寧ロ協定打切ノ擧ニ出デンコトヲ希望ス。

大河內一要君（電氣局長）　御質問ノ協定期間ハ昭和十二年三月三十一日ヲ以テ終了スルコトヽナリ居レリ、而シテ電燈料金ノ値下ニ就テハ吾々モ亦及バズナガラ之ガ實現ニ努力シ來リタルモ、未ダ御希望ニ副フ能ハザルヲ遺憾トス。

倉持忠助君　余モ亦前質問ニ關聯シテ質サントス、由來三電協定ハ、日本電燈、東京電燈、市電三者ノ協定ナルガ、既ニ日本電燈ガ、東京電燈ニ合併サレタル今日、尚依然トシテ協定ヲ繼續シツヽアルモ、理事者ハ該協定ヲ破棄セントスル意思ナキヤ。電燈料金値下問題ハ、今ヤ一般市民要望ノ聲ニシテ、益〻熾烈ノ度ヲ加ヘントシツヽアルニ拘ラズ、協定ノ存スル一事ニ依リテ實行ノ擧ニ出ヅル能ハザルモノヽ如シ。理事者ハ該協定ガ、商法ノ規定ニ依ルモノナリヤ、商法以外公共團體トシテ別箇ノ行動ニ出ヅルコトヲ得ルモノナリヤニ關シ、詳ニ研究シタル事實アリヤ如何、更ニ電氣關係ノ吏員諸君ガ、電氣ニ對スル原價計算ヲ爲シタル事實アリヤ、三協定者ガ、互ニ原價ヲ秘シ、如何ナル程度ノ原價ナリヤヲ度外視シテ、單ニ協定ノ條規ニ基キ、料金ヲ一定シツヽアルガ如キ事實アリトセバ、大ナル錯誤ナリト信ズルガ如何、依ツテ余ハ電氣局當事者ニ對シ、原價計算ノ內容ヲ聞カンコト欲ス、同時ニ東京市對鬼怒川電力會社トノ契約ヲ破棄スルノ意思アリヤ否ヤ。

大河內電氣局長　當局トシテハ協定アルガ爲、已ムヲ得ズ拱手傍觀スト云フガ如キ事實ナシ、唯自治體ノ體面上、嚴トシテ存スル契約ニ對シテハ、飽迄モ之ヲ尊重セザルヲ得ザルナリ、去レバトテ當局ニ於テハ、該協定ニ滿足スルモノニ非ラザルヲ以テ、他ニ適當ナル方法ヲ講ジ、市民ノ不利ト不便トヲ除カンコトニ苦心シツヽアリ、又鬼怒電トノ契約ハ、昭和八年三月末迄效力ヲ有スルモ、電力料金低下ニ就テハ、當方ヨリノ交涉ニ對シ、會社側ニ於テ目下考慮中ニ屬スルガ、今後尚一層努力スルトコロアルベシ。

太田原俊君（電氣局技術長）　鬼怒電ヨリ購入スル電力ノ原價ハ一「キロ」貳錢五厘、電燈會社ヨリ購入ノ分ハ貳錢

貳厘八毛ナルモ、右ハ單ニ需給上ヨリ見タル電氣料ニシテ、電燈及其他動力ノ料金ニハ、夫々ノ經費ト、種々ナル「ファクター」ヲ含ムガ故ニ、果シテ幾許ノ原價トナルヤハ、此席上ニ於テ返答スル能ハザルヲ遺憾トス。

倉持君ハ更ニ、太田原君ハ原價計算ノ發表ヲ躊躇シツヽアレドモ、大體電氣ナルモノハ一「キロ」幾許ニテ出來ルモノナリヤ、發電會社ハ現ニ二三割ノ配當ヲ爲シ、相當ノ利益ヲ收メツヽアリ、而モ五百「キロ」乃至六百「キロ」程度スラ使用セザル需要者ニ對シ、一「キロ」貳錢貳厘ニテ契約セル場合少カラズ、然ルニ東京市ハ莫大ナル電力ヲ使用シナガラ一「キロ」貳錢貳厘八毛ニテ契約セリ、新聞ノ報道スル所ニ依レバ、其結果ハ年額七拾萬圓ノ差アリト云フ、既ニ契約面ニ於テ、一「キロ」ノ價格ノ判明セル以上、一「キロ」ノ原價計算ヲ知ラザル理由ナカルベキナリ、依ツテ余ハ飽迄モ太田原技術長ヨリ原價計算ヲ聞カント欲スト述べ。**太田原技術長**ハ、原價ガ果シテ幾許ナリヤトノ件ハ、本市ノ經濟ニ屬セザルモノナルヲ以テ知ルニ由ナク、强ヒテ言ハントスルモ、的確ナル材料ヲ有セズト答辯シタリ。

▽電氣公債條例中改正ノ件　左案ハ四月十日ノ會議ニ上程、異議ナク之ヲ議決セリ。

第三號

東京市第三回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第三回電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第八條ノ四　前條ノ短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ第八條及第八條ノ二ノ規定ヲ準用シ更ニ短期債ヲ發行スルコトヲ得

說明　第八條ノ三ニ依リ發行シタル短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ更ニ短期債ヲ發行シ得ルノ途ヲ拓クヲ必要ト認メ本案ヲ提出ス。

△電燈電力料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議　左案ハ四月十日ノ會議ニ上程、異議ナク之ヲ可決セリ。

電燈電力料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議

右提出候也

昭和四年四月十日

提出者

小俣政一	加藤正信	福田勇	松永東
大野傳吉	高橋秀臣	河村慶次郎	長島武治
森富太	安部利七	池田清秋	柳田宗一郎
八太茂	大神田軍治	茂木太市	古島宮次郎
森原嘉逸	蓮江啓藏	森兼道	杉ノ原英太郎
伊東美代松	中塚榮次郎	高橋義次	中南定太郎
馬島僩	和久利幾之助	堺利彥	島中雄三
和田操	阿部溫知	羽田如雲	富田富次郎
高橋庄之助	卯木國三郎	精谷磯平	川村正夫
高橋俊太	富岡袖吉	小野養治	鈴木慶四郎
高崎高次郎	中川重政	島本龍太郎	佐藤庄吾

溝口信友　成田四郎　橋本祐幸　小澤佐重喜

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

電燈電力料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議

東京電燈株式會社ハ五十馬力以上ノ電力需要者ニ競爭的ニ値下ヲ斷行セリ而シテ本市電氣供給事業ハ相當ノ純益アリ然モ過般契約セル東京電力竝東京電燈兩會社ハ契約期間中ノ故ヲ以テ料金引下ノ需ニ應セサル由ナルモ既ニ兩會社厘八毛ニ契約セリ鬼怒川水力電氣株式會社ハ契約期間中ノ故ヲ以テ料金引下ノ需ニ應セサル由ナルモ既ニ兩會社カ引下ニ應シタル以上鬼怒川水力電氣株式會社モ當然承認スヘキ筈ナルヲ以テ理事者ハ相當ノ手續ヲ經テ適當ノ解決ヲナシ市民生活ニ至大ノ影響アル電燈電力料金値下ヲ實行スルト共ニ彼ノ不合理ナル計量器使用料廢止ニ關シ最善ノ努力ヲ拂ハンコトヲ望ム

右決議ス

▽**電氣事業ノ整理改善ニ關スル質疑應答**　五月二十三日ノ會議ニ於テ、**森富太君**ハ、堀切市長ハ、就任後電車賃ノ値上ヲ爲サズト言明シタル旨、新聞紙上ニ散見スルモ、右ハ果シテ事實ナリヤ、又電車乘降口ハ、大阪市ノ夫レト異リ、本市ニ在リテハ乘降口共ニ同一ナルガ爲乘客ノ出入上混雜ヲ來スノ缺點アリ、當局者ハ、之ガ改善ニ關シ如何ナル考案ヲ有セリヤ。更ニ操車ノ實況ヲ見ルニ或線ハ滿員トナリ、或線ハ空車ニ等シキ狀態ヲ呈スルナド著シキ相違ヲ生ジ、市民ノ不便尠カラズ、剩ヘ乘客ニ對スル從業員ノ態度不親切ヲ極ムルノ結果、乘客ハ危險ヲ感ジ、不知不識ノ間ニ「バス」ニ移乘スルモノ尠シトセズ、斯ノ如キハ收入上多大ノ損失ヲ生ズルノ虞アリト信ズ、殊ニ世界各大都市ノ實況ニ徵スレバ、路面電車ハ追々衰運ニ嚮ヒ、乘合自動車ノ全盛期ニ入ラントス、當局者ハ此點ニ關シ如何ナル對策ヲ講ゼントスルカ。最後ニ大阪市ニ於テハ收入ノ六割ヲ經營費ニ充當シツヽアルニ拘ラズ、本市ニ於テハ七割ヲ支出シ居レリ、而モ口ニ緊縮ヲ唱ヘナガラ、實行ノ事實ノ徵スベキモノナク、漫然之ヲ放任シテ顧ミザルガ如キハ何事ゾヤ、彼ノ芝浦工場ノ如キハ人員ヲ半減スルモ可ナルベク、購入電力料ノ如キモ、米國「ナイヤガラ」發電所ニ於テハ、一「キロワット」貳厘五毛ナルニ、本市トノ契約ニ依ル鬼怒電ノ料金ハ貳錢五厘ノ高價ナリ、惟フニ本市電氣事業中ニハ尙充分緊縮ノ餘地アルベク、ソノ整理建直シニ依リテ缺損ヲ免ルヽノ方策又自ラ之レアルベキヲ信ジテ疑ハズ、當局ノ見解果シテ如何ト質シ、**堀切市長**ハ、電氣局經濟ニ就テハ、全般ニ亙リテ目下考慮中ニ屬スルガ、電車賃ニ就テハ差當リ値上ヲ計畫スル意思ナシト答辯シ。更ニ**大河內電氣局長**ハ、大阪ノ電車ハ內幅廣ク本市ノ夫レハ甚ダ狹シ、之レ乘降口設備ヲ異ニスルノ要アル所以ナリ、然レドモ乘客ノ不便ヲ除クノ必要アルハ同感ナルヲ以テ、之ガ改善整備ニ就テハ愼重考慮スル所アルベク、操車ト從業員ノ態度ニ就テモ亦今後充分ナル注意ヲ拂フベシ。次ニ經費ノ節約ニ就テハ、常ニ之ヲ念頭ニ置ケルガ、殊ニ大震火災ノ打擊ト收入減トニ依リ、益ゝ其必要ヲ痛感シ、最近事務員ニ於テ約二千五百人、從業員ニ於テ約二千人ヲ減ジタリ、之ガ爲乘客輸送上市民ニ迷惑ヲ及ボスコトナキヤヲ懸念シ居レリ、併シ當局トシテハ之ニ滿足スルモノニアラザルヲ以テ、今後尙重ネテ緊縮ヲ圖リ經費節減ノ方法ヲ講ズベシト答辯セリ。

▽**路面電車布設ニ關スル建議**　左案ハ六月二十八日ノ會議ニ上程、異議ナク之ヲ可決セリ。

路面電車布設ニ關スル建議

右提出候也

昭和四年六月二十八日

提出者　小俣政一　加藤正信

贊成者　大神田軍治　外四十四名

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

路面電車布設ニ關スル建議

一　府下寺島町本所區向島請地町ノ郡市界ヨリ南進シテ源森橋綠町五丁目德右衞門町ヲ經テ市電洲崎線ニ至ル路線ハ俗稱三ツ目通リト稱シ本所、深川ヲ横斷セル重要ナル道路ニシテ交通極メテ頻繁江東ニ於ケル文化ノ發達產業ノ振興上交通機關ノ設備ハ焦眉ノ急ヲ要スヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ彼ノ大震災前長尾電氣局長ハ當時既ニ軌道計畫ヲ樹テラレシモ震災ノ爲メ既定計畫頓挫シ今日ニ至レリ本市ハ未成線工事費財源トシテ起債許可申請中ノ所過般之レヲ許可セラレタルヲ以テ至急右路線ノ軌道工事ニ着手セラレンコトヲ望ム

蓋シ電氣局財政狀況ニ鑑ミ右路線中綠町五丁目ヨリ向島郡市界ニ至ル短距離ノ工事ヲ起シ多年ノ懸案ヲ解決セラレンコトヲ望ム

一　市電猿江線終點ヨリ市電洲崎線終點ヲ連絡スル路線ハ交通上重要ナル地點ナルノミナラス此路線ハ收入關係上極メア有利ナル路線ナルコトハ疑フノ餘地ナク從テ軌道計畫實現ヲ促進セラレムコトヲ望ム

右建議ス

▽**第三回電氣事業公債條例改正ノ件**　左案ハ七月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク之ヲ可決セリ。

第七十四號

東京市第三回電氣事業公債條例改正ノ件

東京市第三回電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第八條ノ五、前條ノ短期債償還ノ爲發行スヘキ本公債ノ募集ニ當リ經濟界ノ狀況其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ償還期限ヲ第五條第一項ノ規定ニ依リ定ムルコト困難ナル場合ハ償還期限十五年以內ノ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項公債ノ各年度償還豫定額ハ第五條第一項ノ規定ニ準據シタルモノトシ最終年度ノ未償還額ハ借替償還ノ方法ニ依ルコトヲ得

借替償還ノ爲發行スル公債ノ償還期限ハ昭和三十一年度迄トス

說明　第八條ノ四ニ依リ發行シタル短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ經濟界ノ狀況其ノ他ノ關係ニ於テ所定ノ長期債募集困難ナル場合ヲ慮リ有利ニ起債シ得ルノ途ヲ拓クヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

第三回電氣事業公債償還豫定年次表

（第八條ノ四ノ短期債借替分）

年次	年度	償還額 元金	償還額 利子	償還額 計	年度末公債現在高
一	昭和四	円 —	円 四五〇、〇〇〇	円 四五〇、〇〇〇	円 一五、〇〇〇、〇〇〇
二	五	—	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇
三	六	二五四、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一五四、〇〇〇	一四、七四六、〇〇〇
四	七	二六九、〇〇〇	八八四、七六〇	一、一五三、七六〇	一四、四七七、〇〇〇
五	八	二八五、〇〇〇	八六八、六二〇	一、一五三、六二〇	一四、一九二、〇〇〇
六	九	三〇二、〇〇〇	八五一、五二〇	一、一五三、五二〇	一三、八九〇、〇〇〇

七	一〇	三二〇、〇〇〇	八三三、四〇〇	一、一五三、四〇〇	一三、五七〇、〇〇〇
八	一一	三三九、〇〇〇	八一四、二〇〇	一、一五三、二〇〇	一三、二三一、〇〇〇
九	一二	三六〇、〇〇〇	七九三、八六〇	一、一五三、八六〇	一二、八七一、〇〇〇
一〇	一三	三八一、〇〇〇	七七二、二六〇	一、一五三、二六〇	一二、四九〇、〇〇〇
一一	一四	四〇四、〇〇〇	七四九、四〇〇	一、一五三、四〇〇	一二、〇八六、〇〇〇
一二	一五	四二八、〇〇〇	七二五、一六〇	一、一五三、一六〇	一一、六五八、〇〇〇
一三	一六	四五四、〇〇〇	六九九、四八〇	一、一五三、四八〇	一一、二〇四、〇〇〇
一四	一七	四八一、〇〇〇	六七二、二四〇	一、一五三、二四〇	一〇、七二三、〇〇〇
一五	一八	五一〇、〇〇〇 一〇、二一三、〇〇〇	六四三、三八〇	一、一五三、三八〇 一〇、二一三、〇〇〇	一〇、二一三、〇〇〇
一六	一九	五四一、〇〇〇	六一二、七八〇	一、一五三、七八〇	九、六七二、〇〇〇
一七	二〇	五七三、〇〇〇	五八〇、三二〇	一、一五三、三二〇	九、〇九九、〇〇〇
一八	二一	六〇八、〇〇〇	五四五、九四〇	一、一五三、九四〇	八、四九一、〇〇〇
一九	二二	六四四、〇〇〇	五〇九、四六〇	一、一五三、四六〇	七、八四七、〇〇〇
二〇	二三	六八三、〇〇〇	四七〇、八二〇	一、一五三、八二〇	七、一六四、〇〇〇
二一	二四	七二四、〇〇〇	四二九、八四〇	一、一五三、八四〇	六、四四〇、〇〇〇
二二	二五	七六七、〇〇〇	三八六、四〇〇	一、一五三、四〇〇	五、六七三、〇〇〇
二三	二六	八一三、〇〇〇	三四〇、三八〇	一、一五三、三八〇	四、八六〇、〇〇〇
二四	二七	八六二、〇〇〇	二九一、六〇〇	一、一五三、六〇〇	三、九九八、〇〇〇
二五	二八	九一四、〇〇〇	二三九、八八〇	一、一五三、八八〇	三、〇八四、〇〇〇

二六	二九	九六九、〇〇〇	一八五、〇四〇	一、一五四、〇四〇	二、一一五、〇〇〇
二七	三〇	一、〇二七、〇〇〇	一二六、九〇〇	一、一五三、九〇〇	一、〇八八、〇〇〇
二八	三一	一、〇八八、〇〇〇	六五、二八〇	一、一五三、二八〇	〇
計		二五、二一三、〇〇〇	一六、三四二、九二〇	四一、五五五、九二〇	〇

備考

一　利子ハ年率六分トシ昭和四年度分ハ半年分ヲ計上セリ

二　昭和十八年度末ニ於ケル未償還額ハ同年度末ニ於テ借替ヲ爲スモノトス

▽市電從業員整理ニ關スル緊急質問　九月二十日ノ會議ニ於テ、**堺利彦君**ヨリ、第一、電氣局ハ今回六十五名ノ從業員ヲ馘首シタルガ、今後尙引續キ馘首セントスル意思ナリヤ如何。第二、從業員中ニハ退職希望者モ相當數ニ上ルナラン、然ルニ當局者ハソノ自發的退職者ヲ求メズシテ馘首シタルハ如何ナル理由ニ據ルカ。第三、當局者ハ今後如何ナル程度迄減員セントスル考ナリヤ、又退職者死亡者ノ數ハ從來如何ナル數字ヲ示シツヽアリヤ。第四、先般實施サレタル哩制改正ノ如キハ經營者タル當局ノ獨斷ニ據ラズ、英國勞働組合等ニ行ハレツヽアル共同委員ト云フガ如キ制度ヲ設ケ、從業員ト協議交渉ヲ遂ゲタル後、實施スル意思ナキカ。第五、市電從業員ニ對シテ共同委員ヲ設クルト共ニ、道路衞生等ノ各種從業員ニ對シテモ之ヲ設置スル考ナキカ。第六、今回ノ馘首沙汰ハ勞働團體ヲ壓迫スル手段ニ非ラズヤト認ムベキ理由アリ、事實果シテ然ルヤ否ヤト質シ、**筧正太郎君**（電氣局長）ハ、今回ノ馘首ハ、他ノ從業員ノ覺醒ヲ促シ、以テ綱紀肅正ノ實ヲ擧ゲンガ爲、成績不良ナル者ニ限リ之ヲ罷免シタルモノナルヲ以テ、今後再ビ繰返スノ意思ナキモ、成績不良ナル者アル場合ニ於テハ、已ムヲ得ズ斷行ノ擧ニ出ヅル事アルベシ、當局トシテハ財政上人員ヲ整理スル事ヲ好マザリシ爲、退職希望者ヲ募ラズ、又下級從業員ハ成ルベク罷免セザル方針ナリ、共同委

員問題ハ趣意トシテハ同感ナルモ、吾國ニ於ケル勞働組合ノ現狀ハ、時期尚早ナリト思惟ス、最後ニ組合彈壓ニ非ズヤトノ問ナルモ、當局ニハ斷ジテ斯ル意思ヲ有セズ、全ク市民ニ對スル「サーヴイス」ト能率增進トヲ圖ラントスルノ意ニ外ナラズト答辯セリ。

第六節　佛貨公債訴訟問題

四月十日ノ會議ニ於テ、**島名建君**ヨリ、東京市債佛貨訴訟問題ハ、昨年二月八日佛國「セーヌ」民事裁判所ニ於テ東京市ガ敗訴シ、其後控訴シタル結果、東京市ノ勝訴トナリ、今ヤ「フランス」ノ破棄院ニ於テ繫爭中ナリト聞クガ、該訴訟ノ進行ニ關スル詳細ナル經過ヲ承リタシ、次ニ本件ハ第一審ニ於テ東京市ノ敗訴ニ歸シタルハ、佛國裁判所ガ、東京市債權利者タル佛國民ノ「フラン」暴落ニ因ル經濟的打擊ヲ救濟センガ爲、非理論的理由ヲ以テ高等政策的判決ヲ下シタルモノナリトノ評アリ、今飜ツテ千九百十二年、本市ガ佛國ニ於テ該公債ヲ募集シタル當時ノ募集契約書ヲ見ルニ、九百拾七萬五千「ポンド」、千九百十二年五分利東京市債ト對照シ、ソノ內譯トシテ五百拾七萬五千「ポンド」ノ公債及壹億八拾八萬「フラン」ノ「フラン」公債ト記載シ、其壹億八拾八萬「フラン」ハ四百萬「ポンド」ニ相當ストノ不可解ナル文字アリ、此文字ガ偶〻佛國側ノ乘ズル所トナリテ、遂ニ前述ノ如キ高等政策的判決トナリタルモノト思料スルガ、東京市トシテハ、「ポンド」ノ手取ヲ希望シ、佛國人モ亦「ポンド」ノ實質的價格ニ依リ償還ヲ受クルモノナリト安心シテ該公債ヲ買取リタル筈ナリ、然ルニ佛國ニ於ケル此「フラン」市債ハ、尙九千萬「フラン」ノ未拂額ヲ殘シ居レリト云フガ、若シ一審判決ニ從ヒ、假リニ之ヲ「ポンド」ヲ以テ評價スレバ、我國ノ貨幣ニ見積リヲ參千參百參拾萬圓ノ鉅額ニ達ス、之レニ反シ東京市側ノ主張スルガ如ク「フラン」ヲ以テ返濟ストセバ、我國ノ貨幣ニシテ五百貳拾萬圓ヲ以テ足レリトスト聞ク、果シテ然ラバ其差額ハ實ニ貳千八百拾萬圓ニ達シ、東京市トシテハ等閑視スベカラザル大訴訟ト謂フ可キナリ。斯クノ如キ大訴訟ニ對スル東京市ノ態度ヲ見ルニ、僅ニ之ヲ佛國駐劄大使館ニ依賴シ、其好意的援助ニ依リテ訴訟ヲ繼續スルニ止マルト云フニ非ラズヤ、凡ソ訴訟ナルモノハ當事者ノ意氣乃至熱誠ガ、裁判上ニ反映スルノ例尠カラズ、玆ニ於テ余ハ、本問題ヲ有利ニ解決スル手段トシテ、繫爭地ニ特設機關ヲ設置スルノ要アリト信ズルガ如何、最後ニ本件ノ市債總額ハ四億四千五百拾四萬六千圓ナリト聞及ベルガ、現ニ未拂額トシテ佛國ニ殘レル九千萬「フラン」ハ右總額中ニ、幾許ノ金額トシテ計上サレツヽアリヤ、更ニ「フラン」ニ依ラズ「ポンド」ヲ以テ計算サレツヽアルモノナリヤ否ヤ明答ヲ乞フト質シ。**大河內電氣局長**ハ、該訴訟ハ大正十五年以來ノ懸案ナルガ、件數ハ總テ六件ニ上リ、內一件ハ原告ニ於テ取下ゲ、二件ハ目下第一審ニテ審理中ニ屬シ、他ノ二件ハ一括混合審理中ニ屬セリ、而シテ一審ニ於テハ敗訴シタルモ、第二審ニ於テハ幸ヒニ勝訴トナリ、殘リノ一件ハ一、二審トモ遺憾ナガラ敗訴トナリ、目下上告中ニ屬ス。更ニ敗訴トナリタル原因ニ就テハ、當局トシテモ、佛國々內ニ於ケル經濟的打擊ヲ救濟スル爲ノ高等政策ニ依ル等ノ說ヲ耳ニセザルニハ非ラザルモ、一面佛國有識者間ニ於テ、頗ル公正ナル議論モアルヤニ傳聞セリ、又訴訟ソノモノニ就テハ、當時市吏員ヲ佛國ニ派遣シ辯護人ノ選定、大藏、外務兩省ノ聯絡ニ付周密ナル注意ヲ拂ヒ、辯護士トシテハ、「パリー」ニ於ケル有名ナル「ルツセ」氏ヲ東京市ノ勝訴ニ關シ確信ヲ以テ之ヲ引受ケタルニ依リ、本市ハ專ラ同氏ノ意見ニ從ツテ行動シ、一方大藏省ノ事務官及大使館理事官ヨリモ熱心ナル援助ヲ仰ギツヽアリ。サレバ今後訴訟ノ進行如何ニ依リ適當ナル措置ヲ講ジ、萬遺算ナキヲ期スベキナリ、次ニ訴訟敗訴ノ結果ハ市債額及償還計畫ニ根本的變更ヲ生ズルノ虞アルベシトノ御說ナルモ、市債償還ニ關シテハ、從來償還年次表所定ノ金額ヲ減債基金中

ニ繰入レッヽアリ、其後「フラン」ノ下落ニ依リ、實際支拂フベキ金額トノ差額ガ千百貳拾五萬圓ニ達シタルヲ以テ、之ヲ減債基金保有金トシテ一時蓄積シ置キタルガ、ソノ後ニ至リ大震火災ニ遭遇シタル爲、一部ヲ復舊費ニ投ジタリ。越エテ大正十四年減債基金條例ヲ改正シ、減債基金ニハ總テ實際支拂ヒタル額ヲ繰入ルヽコトヽ爲シタル次第ナリ、更ニ「フラン」公債ヲ邦貨ニ換算スレバ、元金ニ對スル未拂額ハ參千百六拾七萬圓ナルガ、今日ノ爲替相場ヲ標準トシテ計算スルトキハ、勝訴トナリタル場合ハ七百參拾參萬圓强ノ邦貨ニテ事足リ、敗訴トナリタル場合ハ貳千四百參拾四萬圓ヲ支拂ハザル可ラザル結果トナル。最後ニ敗訴ノ場合ハ、市債額ニ於テ、莫大ナル損失ヲ被ルベシトノ見解ニ就テハ、當局トシテハ全力ヲ盡シ、飽迄勝訴ヲ期シテ爭フハ勿論、訴訟ノ進行程度ニ依リ周到ナル注意ヲ拂ヒ、萬遺算ナキヲ期セントスト答辯シタリ。

越エテ五月二十三日ノ會議ニ於テ、**中塚榮次郎君**ハ、明治四十五年二月東京市ガ新ニ電氣事業ヲ經營セントスルニ當リ、其資金ヲ外國市場ニ求メザルヲ得ザルニ至リタルモ、當時經濟市場ノ趨勢ニ依リ、英、米二國ニ於テハ其目的ヲ達成スル能ハズ、假リニ其目的ヲ達成シ得タリトスルモ、東京市ニ有利ナル條件ノ下ニ於テハ、全ク不可能ノ狀態ニ在リタル爲、佛國「パリー」市場ニ於テ之ヲ發行シ、佛國貨幣壹億八拾八萬「フラン」邦貨參千八百九拾參萬五千圓ヲ借入レタリ、佛國ハ、英、米二國ト異リ、盛ニ外國ニ投資スル世界ノ債權國ニシテ、ソノ貨幣ノ爲替相場ハ、嘗テ著シキ變動ヲ見ルコトナカリキ。然ルニ世界大戰ノ勃發スルト共ニ、佛國經濟界ニ激變ヲ來シ、佛國貨幣ハ國際間ノ信用ヲ失墜シ、慘憺タル暴落ヲ呈スルニ至レリ、當時米國人ヨリ借金シテ、高利ニ苦ミツヽアリシ佛國人ハ、米國人ノ貪慾ヲ罵リ、街頭ニ米國人ヲ邀擊スル程激昂シツヽアリシ時、東京市ノ佛貨公債事件モ亦其餘波ヲ被リ、遂ニ其渦中ニ投ゼラレタル事實アリ。大正十二年十二月ト覺ユ、同僚中南定太郎君ガ此壇上ヨリ、電氣事業ノ不振ニ對シ、

其對策ヲ質問シタル際、時ノ電氣局長ハ、佛國ノ貨幣ガ下リ、更ニ「ボンド」モ亦下落スルニ至リタルガ、之ヲ買入レテ償却シ、或ハ抽籤償却スルコトニ依リテ減收ヲ生ズルコトアルモ、市債費ニハ貳百萬圓ノ餘裕アルヲ以テ事業ノ遂行ニハ支障ヲ生ゼスト答辯シタルガ、此事偶ゝ佛國側ノ知ルトコロトナリ、昭和三年一月二十五日ノ「セーヌ」民事裁判所ニ於テ、原告側辯護士ハ、日本及列强ハ大戰ニ依ッテ佛國貨幣ガ信用ヲ失墜シタルヲ利用シ、盛ニ投機ヲ試ミテ、佛國民ノ貯蓄ヲ奪ハントスト絶叫シ、居合セタル小賣本家ヲ喝采セシメ、東京市ニ對シテ不利ナル空氣ヲ全法廷ニ漂ハセタリト聞ク。今ヤ該訴訟六件ノ中、二件ハ一括混合審理ニ附セラレ、幸ヒ第二審ニ於テ勝訴トナリタルモ、余ハ更ニ進ンデ最終ノ勝利ヲ期待シテ止マザルモノナリ。只余ノ憂フルトコロハ佛國ノ法廷ニ於テハ、英米二國ノ如ク、習慣法發達セズ、從ッテ判決例モ强キ力ヲ有セザルコト、「ボンド」公債ガ强調セラレッヽアルコト、不當利得ノ聲可ナリニ喧シキコト等ニシテ、右ハ何レモ該訴訟ノ行路ニ橫ハレル暗礁ナリトス。而シテ東京市側ノ辯護士ハ、大震火災後東京市ガ財政ノ難局ニ直面セル事實ヲ力說シテ、東京市ノ利益ノ爲ニ奮闘努力シツヽアルハ多トスルトコロナルモ、悠久ナル未來ヲ有スル東京市民ノ襟懷ノ片鱗ヲモ表現シ得ザルヲ遺憾トス。即チ吾ガ東京市民ハ、財政上如何ニ窮迫セリト雖モ、支拂フベキモノハ必ズ之ヲ支拂フノ義務ト責任トヲ知悉セリ、吾々ガ常ニ英國ノ强大ヲ恐レズ、米國ノ富ヲ羨マザル所以ノモノハ、日本民族ノ血管ニ流レッヽアル强キ正義ノ觀念ニ依存スルガ爲ナリ、故ニ該訴訟ノ勝利ノ判決ヲ得ンガ爲ニハ、世界ノ前ニ日本ノ正義ヲ表明シテ、公明ナル判斷ヲ得ルノ途ヲ講ゼザル可ラズ、云フ迄モナク外交ハ國民ノ良心ヲ反映シ、國際間ノ經濟現象ニ基キ其政治的意義ヲ提ヘテ對策ヲ樹立スルヲ要ス。故ニ濫リニ國際間ノ感情ヲ刺戟シ、徒ラニ敵愾心ヲ挑發スルコトヲ避ケ、眞ニ國交上ノ實利實益ヲ圖ランガ爲、「パリー」控訴院ニ於テ勝訴トナリタル機會ヲ利用シ、此重大ナル國際的紛爭ヲ解決スルノ必要アリト信ズルガ、正義ノ爲

ニ勇敢ナル東京市長ノ所見果シテ如何ト質セバ、**堀切市長**ハ、佛貨公債ハ本市電氣經濟上ノ重大問題タリ、本問題ニ關シテハ、當局トシテ不當利得ヲ得ントスルガ如キ、或ハ佛國々民ノ敵愾心ヲ挑發セントスルガ如キ考ハ毛頭之レ無ク、正義ノ觀念ニ背クガ如キ措置ニ出デントスルノ考モ亦之レナシ、現在ノ繫爭ニ對スル本市ノ態度ハ、飽迄正義ノ觀念ニ合致スルモノナリト信ズルハ勿論、將來モ亦此方針ヲ以テ進マントスト答辯セリ。

第七節　一般市政ニ關スル問答

▽吏員ノ退職並休職ニ關スル質疑應答　四月十日ノ會議ニ於テ、**古島宮次郎君**ハ、吏員ノ退職及休職ニ對スル理事者ノ措置ニ關シ一言理事者ニ質サント欲ス、過般電氣局ニ於テ吏員ヲ陶汰スルニ當リ、其辭職セシムベキ人選ハ船田助役ト山下又三郎君トガ之ヲ決定シ、當然其實權ヲ握レル筈ノ局長ハ、陶汰ノ辭令ガ發セラルヽ其日ノ朝ニ至リテ始メテ之ヲ知レリト云フニ非ズヤ。斯ノ如キハ電氣局ノ不統一ヲ暴露セルモノト云フベク、綱紀上斷ジテ默過スベカラザルコトニ屬ス、而モ今回淘汰セル人員中ニハ、今日馘首シテ、明日再ビ之ヲ採用セル事實アルモ、斯ル事ハ公人ノ執ルベキ途ニアラズト考フルガ如何。更ニ今回整理セル人員二百二十一名中ニハ、嘗テ宇都宮ノ市長タリシ人物アリシト云フガ、吏員採用ノ根本方針果シテ如何、吏員ノ多數ハ下級ヨリ高級ニ累進スルノ途アリテコソ事務ニモ精勵スルコトヽナリ、又能率ノ增進モ庶幾シ得ベシト考フルガ、理事者ノ見解果シテ如何ト質シ。之ニ對シ**船田市長代理**答ヘテ曰ク、今回吏員中ニ多數ノ犧牲者ヲ出シタルハ、個人トシテハ眞ニ同情ニ堪ヘザルトコロナルモ、今ヤ東京市ノ現狀ハ、徹底的ニ行政財政ノ整理ヲ斷行セザル可ラザル立場ニ在リ。殊ニ復興復舊費ノ元利償還期切迫シ、就中國庫ヨリ支出サルベキ利子補給ハ昭和三年度ニ局限セラレ、四年度以降ハ之ヲ受クル能ハザル現況ニ在リ、右ニ關シテハ關係府縣知事市長等ニ於テ、政府ニ對シ繼續補給ノ件ヲ歎願中ナルガ、市來市長ノ樹立セル財政十年計畫中ニハ、尙利子ノ補給ヲ受ケ得ルモノトシテ豫算ヲ編製セリ。然ルニ余ガ市長代理ニ就任スルヤ、昭和四年度ノ豫算ヲ如何ニスベキヤニ就キ、愼重審議シタル結果、積極的方面即チ新規事業ノ增加等ニ關スル問題ハ、新市長ニ讓ルトシテモ、消極的方面ニ於テハ充分ニ節約ヲ加フルノ必要ヲ認メ、此方針ヲ以テ昭和四年度ノ豫算ヲ編製セリ。從ツテ財政緊縮上、多數ノ吏員ヲ整理スル結果トナリタル次第ナルガ、右ハ一面更始一新ノ意氣ヲ以テ昭和四年度ヲ迎フルト共ニ、他面利子補給等ノ關係ヨリシテ、內務、大藏兩省方面ノ意嚮ヲモ參酌シタルニ因ル、是レ私情ニ於テハ誠ニ忍ビ難キコトナルモ、本市財政ノ現狀ニ照ラシ、眞ニ止ムヲ得ザルニ出デタルナリ。最後ニ吏員箇々ノ問題ニ就キ、種々ノ質問アリタルモ、旣ニ市來市長ノ去リタル今日、人事問題ニ付前市長ノ知悉セザルハ當然ニシテ、電氣局員ノ整理ニ關シ局長ヲ無視シテ敢行シタリトノ說ノ如キ、亦事實有リ得ベカラザルコトヲ明言シテ憚ラズト。

△市政ノ運用ニ關スル質疑應答　四月十日ノ會議ニ於テ、**高橋義次君**問ウテ曰ク、解散後ノ市會玆ニ新ニ成立シ、吾人ノ使命タリ生命タル淨化刷新ノ目的ヲ達成スベキ時期ニ際會シテ、ソノ終リヲ完ウセンガ爲ニ、先ヅ其始メヲ正ウスルノ必要アルヲ痛感スト前提シテ、第一、市來前市長ハ更始一新ノ一言ヲ殘シテ潔ク勇退セリ、然ルニ一體不可分ノ連帶關係ニ在リ、當然市長ト運命ヲ共ニスベキ助役ガ、何故ニ居殘ルノ要アリシカ、假リニ居殘ラザル可ラザル理由アリトスルモ、從來ノ慣例上、將又其職分ノ如何ヨリ判斷シテ、幷ハ當然第一助役ナラザル可ラザルニ拘ラズ、第三助役タル船田君ガ居殘ルニ至リタルハ何故ゾヤ、本來吾々ハ、自治體ノ本義ガ極メテ完全ニ發揮サレツヽアル場合ニ於テノミ、職務管掌ノ設置ヲ避クベキ理由コソアレ、現在ノ如ク市會ガ解散ヲ命ゼラルヽガ如キ難局ニ際リテ

ハ、寧ロ市政ノ内容實質ヲ解剖檢討センガ爲、職務管掌ヲ設置スルコトガ、却ツテ法ノ精神ニ副ヒ、且制度存立ノ意義ヲ發揮セシムル絶好ノ手段ナリト信ズ。然ルニ三助役中、第三位ノ船田助役ガ、獨リ留任ヲ企テタルハ、其間何等カノ事情伏在スルモノアルベク、多數ノ市民ハ、今ヤ大ナル疑惑ヲ以テ這般ノ逆行人事ヲ凝視シツヽアリ、船田助役ハ其疑惑ヲ一掃センガ爲、獨リ居殘ルニ至リタル事情竝ニ經過ニ關シ、具體的說明アランコトヲ望ム。第二、市會議員總選擧期日ノ遷延ニ就キ質サントス、選擧名簿ハ市會解散後ノ舊臘二十七日現在ニテ、本年二月二十六日ヲ以テ確定セリ、故ニ總選擧ハ、其翌二十七日以後何時ニテモ執行可能ノ狀態ニ置カレタルノミナラズ、時恰モ昭和四年度豫算審議ノ重要案件ヲ差控ヘ、總選擧ハ正ニ一日一刻ヲ爭フベキ緊切ノ時期ニ際會シナガラ、空シク二月ヲ過シ、三月十六日ニ至リテ始メテ之ヲ執行スルニ至リタルハ、其理由ノ那邊ニ存スルヤヲ疑ハザルヲ得ズ。果セル哉、昭和四年度ノ本市豫算案ハ、東京市ノ事情ヲ知ラザル府參事會ノ代行ニ依リテ審議セラルヽノ不名譽、不面目ノ結果ヲ招徠セリ、即チ市政淨化ノ使命ヲ帶ビテ進出セル吾々新議員ガ、拱手傍觀ノ止ムナキニ至リタルハ、全ク總選擧期日ヲ遲延セシメタル理事者ノ責任ニ歸スベキナリ。依ツテ遲延ノ事情ト其責任トヲ明ニセンコトヲ望ム、第三、人事行政ニ就テハ、船田助役ノ市會、參事會、新聞紙上等ニ於ケル意見トシテ、財政整理上已ムヲ得ズ人員淘汰ヲ斷行セリトノ抽象的說明ヲ聞キタルガ、其趣旨ニ對シテハ大體贊意ヲ表スルニ吝ナラザルモ、整理淘汰ノ方法ニ至リテハ、支離滅裂、定見ノ以テ窺フベキナク、標準ノ以テ據ルベキナク、抑ゝ何ヲ爲サントシツヽアリヤヲ疑ハザルヲ得ザルナリ。即チ今回ノ人事異動ハ二月上旬ニ一回、三月四日、四月一日各一回之ヲ發表シタルガ、僅々二箇月間ニ三回ノ整理ヲ行ヒ、其間同一人ヲ三箇所ニ轉々セシムル等ノ拙劣ナル實例二三ニシテ止マラズ、斯クノ如キハ多數ノ吏員ニ動搖ト衝撃トヲ與ヘ、延イテハ一般事務ニ澁滯ヲ來スノ結果ヲ生ジ、其影響スル所尠カラズ、船田助役ノ吏員任免黜陟ニ關スル標準果シテ如何、財政整理ノ數字的根據又果シテ如何ト。**船田助役**ハ、第一市來市長辭職ノ事情ト本市ノ現狀トニ考ヘ、余ノ留任ヲ適當ナリト信ジタルニ依ル、第二、市會議員總選擧期日ニ就テハ余モ亦速ニ新市會ノ成立ヲ希望シ、東京府及內務省ニ對シテ夫々交涉スルトコロアリタルモ、何分普通選擧最初ノコトヽテ、各區選出議員定員ヲ決定スルノ要アリ、依テ之ヲ府參事會ニ提案シ、種々說明ヲ試ミタルモ、進捗意ノ如クナラズ、自然審議ノ遲延ヲ來シ、三月十六日ヲ以テ執行セザルヲ得ザルニ至リタルハ、余モ亦等シク遺憾トスルトコロナリ、第三、短時日ノ間、數回ニ涉リテ人事異動ヲ斷行シタルハ拙劣ナリトノ質問ナルモ、事務ノ繁閑ヲ計リテ決行スル必要上、回ヲ重ネテ之ヲ行ヒタルハ止ムヲ得ザル次第ニシテ、之ガ爲日常ノ事務ニ支障ヲ來シタルガ如キ事實毫モナシ、此點御安心ヲ請フト答辯セリ。

▽市行政ニ關スル質疑應答　四月三十日ノ會議ニ於テ、**寺部賴助君**ハ市行政ニ關シ質問シテ曰ク、吾々ハ市政淨化ノ重任ヲ負ウテ選出サレタル關係上、市政淨化ノ根幹タル市行政ノ刷新ニ付特ニ堀切市長ノ答辯ヲ求メントス、第一、東京市ノ行政組織ハ、市長ノ下ニ三助役、八局長アリ、更ニ其下ニ百ニ近キ課ト出張所トヲ有シ、課中ニ分類サレタル掛ヲ計算スレバ數百ノ多キニ及ビ、總テノ仕事ハ、先ヅ主任ニ於テ調査シ、掛長、課長ヲ經テ局長、助役、市長ニ至ルガ如ク、縱ノ關係ニ於テ複雜ヲ極メ、橫ノ關係ニ於テ多岐ニ涉リ、一事ヲ處理スルニモ三十乃至四十ノ捺印ヲ要シ、啻ニ事務ノ圓滑ト統一トヲ缺クノミナラズ、餘弊ハ延イテ群雄割據ノ觀ヲ呈シ、豫算分捕ノ弊ヲ助長シ、其結果繁文褥禮ニ墮シテ事務ノ澁滯ヲ來シ、時間ヲ空費シ、市費ヲ濫費スルノ弊ヲ伴ヒ、市民ノ迷惑鮮少ニアラズ、是レ人ノ罪ニアラズシテ制度ノ罪ニ歸スベキモノナリト思料スルガ故ニ、其根本ニ一大刷新ヲ加ヘ、以テ一般事務ノ單純化ヲ圖リ、吏員ノ能率增進ヲ期スルノ要アリト信ズ、市長ノ對策果シテ如何。第二、云フ迄モナク制度ヲ活用スル者ハ人也、

如何ニ組織ヲ改革スルモ、人其宜キヲ得ザレバ、市政淨化ノ實ヲ擧グルコト不可能ナリ、然ルニ從來市ノ人事行政ハ、情實ニ捉ハルヽ事多ク、紊亂其極ニ達シ、綱紀ハ頽廢シ、人心ハ弛緩シ、遂ニ未曾有ノ不詳事ヲ惹起スルニ至レリ。故ニ此儘之ヲ放任スレバ、市政ノ淨化ハ、百年河清ヲ待ツニ等シ、余ハ以上ノ觀點ヨリ、東京市特有ノ事情ニ通ゼシメ、强キ熱情ヲ以テ、市民ノ爲ニ奉公セントスル精神ヲ涵養シ、所謂東京市吏員氣質ヲ陶冶スル爲、吏員講習所ヲ設置シ、如何ニ人格、識見、力量アル者モ、一度ハ必ズ該講習所ニ入ラシメタル後、吏員トシテ採用スルノ方法ニ出ヅルノ要アリト信ズルガ、市長ハ果シテ市吏員講習所ヲ開設スルノ意思アリヤ否ヤ。第三、本市ニハ現ニ二萬二千餘ノ吏員アリ、其中ニハ多年本市ニ勤續シ、眞ニ事務ニ精通セル練達堪能ナル秀才亦尠カラズ、故ニ高級吏員ヲ拔擢スル場合ハ、是等吏員中ヨリスルヲ得策トスベキニ拘ラズ、高級吏員トシ云ヘバ、必ズ情實關係ニ依リ、外部ヨリ之ヲ採用スルガ爲、經驗アリ功勞アル一般吏員ハ、市ノ事務ニ暗ク且何等ノ經驗ナキ者ノ下ニ忍從シテ、常ニ滿々タル不平ヲ抱クガ故ニ、吏員ノ向上心ヲ阻ミ、能率ヲ減殺スルコト少小ニアラズ、斯クノ如キハ市政運用上默過スル能ハザル重大事ナルヲ以テ、將來人材拔擢ノ際ハ、努メテ內部吏員ニ之ヲ求ムルノ要アリト信ズ、市長ノ所見如何。第四由來本市ノ事務乃至事業ナルモノハ、頗ル廣汎ニ涉ルノミナラズ、相當永キ年月ヲ要スルニアラザレバ完成セザルモノ尠カラズ、故ニ吏員ガ永年勤續スルト否トハ、事業上ニ重大ナル影響ヲ及ボスノ虞アリ、然ルニ市長助役ノ更迭スル毎ニ、必ズ官吏ノ恩給者等ヲ高級ニテ採用シ、永年勤續ノ吏員ニハ一時手當ヲ與ヘテ馘首スルヲ通例トス、故ニ市吏員任免規程ヲ改正シテ、一般吏員ニ安定性ヲ附與スルノ必要アリト認ム。更ニ市吏員ヲ海外ニ派遣スル場合ハ、其旅費トシテ八千圓乃至壹萬圓程度ヲ支給シ、其歸朝スルヤ、問モナク之ヲ馘首シテ顧ミザルノ例尠シトセズ、一旦市ノ費用ヲ支出シテ海外視察ヲ爲サシメタル以上、必ズ之ガ報告書ヲ提出セシムルノ要アルニ拘ハラズ、概ネ之ヲ放任シテ何時ノ間ニカ馘首スルガ如キハ、何ノ爲ノ海外視察ナリヤヲ知ルニ苦ムノミナラズ、其結果ハ市費ノ濫費トナルコト明白ナリ。是等ニ對スル市長ノ見解如何。最後ニ區役所ニ就キ一言セン、現在市ノ組織ヲ見ルニ、水道、下水、塵芥、汚物等ノ末ニ至ル迄、悉ク市ノ手ニ集中シツヽアルヲ以テ、區民ハ最寄リノ區役所ニ於テ用ヲ便ズル能ハズ、業務ヲ放擲シテ態々市役所ヲ訪ハザル可ラザル不便アリ、而モ之ガ爲數日ヲ費スノ例所在甚ダ少カラズ、理事者ハ市民ノ便益ノ爲、是等一切ノ事務ヲ區役所ニ移管スルノ意思ナキカ。又市區吏員間ノ俸給ニハ著シキ差等アルガ如シ、即チ日常頗ル多忙ナル區吏員ニ薄ク、比較的閑散ナル市吏員ニ厚キガ如キハ、倒行逆施ニアラザルナキカ、余ハ此意味ニ於テ區吏員ト市吏員トヲ同一待遇ニ改メンコトヲ要望シ、併セテ區長及區役所課長ノ如ク、直接區民ニ接シ、區ノ事務ニ精通セザル可ラザル地位ニ坐スル者ニ對シテハ、輕々シク其地位ヲ動カス事ナキ樣切望スルモノナルガ、市長ノ所見如何ト。**堀切市長**答ヘテ曰ク、市ノ行政組織ハ、余モ亦之ガ簡捷ヲ望ム一人ナレドモ、行政自體ガ複雜ヲ極ムルモノナルガ故ニ、其組織モ亦勢ヒ複雜トナルハ敷ノ免レザル所ナリ、然レドモ之ニ關シテハ、努メテ單純化スベク考慮ヲ拂フトコロアルベシ。次ニ市吏員講習所開設ノ件ハ、至極結構ナル御考案ナルモ、豫算ノ關係上更ニ研究スルノ要アリ、市吏員ノ拔擢ニ就テハ常ニ適材適所**主義**ヲ以テ臨ミ、採用ノ方法モ市吏員ヲ先ニスルヲ原則トスル考ナリ。又海外視察者ニ對シテハ、歸朝後退職セシムルコトナク、視察ノ結果ヲ效果的ナラシムル爲、口頭若クハ書面ニ依ル報告書ヲ徵スルコト、爲サントス。最後ニ市ノ事務ヲ區ニ委任スル方法ニ就テハ、充分研究ノ必要アルヲ以テ、今後更ニ注意ヲ拂フトコロアルベク、區ノ人事ニ就テハ、成ルベク無意味ノ異動ヲ避ケ、區政ノ圓滑ナル進捗ヲ圖ルニ努ムベシト。

▽市長ノ施政方針ニ關スル質疑應答

四月三十日ノ會議ニ於テ、**小俣政一君**ハ、堀切市長ハ就任ノ初頭ニ於テ、一

場ノ挨拶ヲ試ミタルモ、吾々ノ期待セル市長トシテノ經綸抱負ニ言及セザリシハ遺憾ナリ、仍テ余ハ玆ニ改メテ市長ノ抱負ヲ聽カント欲ス、第一ハ財政問題ナルガ、今ヤ本市ノ財政ハ窮乏ノ極ニ達シ、一箇年ノ歳出ハ、經常、臨時特別會計ヲ合算シテ參億餘圓ニ上リ、歳入ニ於テハ、貳千萬圓未滿ノ市稅ヲ始メ、國庫補助金、國庫下渡金竝財産賣拂代、使用料等ノ外市債ヲ發行シテ、辛ウジテ收支ノ辻褄ヲ合セツヽアルモ、大正十二年ノ大震火災ノ爲ニ荒廢セル帝都ノ復興事業ニ要シタル政府借入金、其他公募ニ依ル市債中、約六百萬圓ハ、來ル十月ヲ以テ支拂ハザル可ラザルニ拘ラズ、之ヲ豫算ニ計上スル能ハザル窮狀ニ在リ。更ニ本年度ヨリ引續キ毎年壹千壹百萬圓乃至壹千四百萬圓ニ達スル鉅額ノ元利償還ヲ爲スノ要アルモ、右ノ財源ハ何ニ依ツテ之ヲ求メントスルカ。市來前市長ハ財政難打開ノ一策トシテ、新稅竝ニ增稅計畫ヲ樹立シタルモ、今日ノ經濟狀況竝市民生活ノ實際ニ鑑ミ、新增稅ハ市民生活ノ脅威タリ、堀切市長ハ此難局打開ノ策トシテ、市來前市長ノ新增稅計畫ヲ踏襲セントスル意思ナリヤ、假リニ踏襲セズトセバ、其財源ヲ何レニ求メントスルカ。第二、堀切市長就任前、市長代理タリシ船田助役ガ、其極メテ短キ期間內ニ於テ、前後數回ニ渉リテ廣範圍ノ人事異動ヲ行ヒタルハ奇怪ナリ、而モ其異動ニ當リテハ、警視廳ト往復シテ多分ニ同廳關係者ヲ採用シ、更ニ船田助役ノ鄕里栃木閥ヲモ採用シテ、優良ナル吏員ヲ免黜シ、亂暴狼藉ヲ極メタリ、堀切市長ハ其後始末ニ就キ如何ナル考ヲ有スルヤ。第三、本市ニハ現ニ局課長制ナルモノアリ、余ハ局課長ノ權限ヲ擴充セバ、實質上市長ノ女房役タル助役ハ、一名乃至二名ニテ足レリト信ズル者ナルガ、市長ノ見解如何、又市長ノ更迭スル毎ニ吏員ノ大異動ヲ行フコトハ、殆ド常例ナルガ如クナレドモ、其結果ハ、永年勤續シテ事務ニ練達セル有能ナル吏員ノ總テガ、不安ノ念ニ驅ラレ、著シク事務ノ澁滯ヲ來スニ至ル、右ニ對スル市長ノ所見如何。坊間傳フルトコロニ據レバ、復興局長官ヨリ本市ノ市長トナリタル堀切氏ハ、同局ノ事業一段落トナリタルヲ機會ニ、同局官吏ヲ

本市ニ採用ストノ說アリ、之ガ爲ニ一般市吏員間ニ不安ノ念ヲ生ジツヽアルガ、事實果シテ然ルヤ否ヤ。第四、先般ノ市會ニ於テ電燈電力料金ノ値下、計量器使用料廢止及瓦斯料金ノ値下、竝同計量器使用料廢止ニ關スル建議ノ通過ヲ見タリ、而モ本問題ハ、從來一再ナラズ本會ヲ通過シタル案件ナルモ、當時ノ理事者ハ、何レモ之ガ實現ヲ見ルニ至ラズシテ退職セリ、堀切市長ハ本件ヲ如何ニ取扱ハントスルカ。第五、交通機關ノ統制問題ハ本市多年ノ懸案ナルガ、路面交通緩和ノ手段タル高速度、地下鐵計畫ノ促進ニ對スル方針如何、又交通機關ノ電源ハ東電ヨリ一「キロ」貳錢五厘ヲ以テ購入シツヽアリ、而モ鬼怒電ニ對シテハ、屢〻東電ト同額ニ値下ノ交涉ヲ爲セリト雖モ、契約期間中ナルノ故ヲ以テ之ニ應ゼズ、市長ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ解決セントスルカ。第六、本市ノ地下埋設物ハ複雜不統一ヲ極ムルガ爲、瓦斯、水道工事等ニ依リ、濫リニ鋪裝道路ヲ掘リ返シ、經濟上市民ノ被ル損害少カラズ、復興事業ノ權威タル堀切市長ハ、之ガ整理統一ニ關シ如何ナル成案ヲ有セリヤト質問シ、堀切市長ハ、財政關係ニ屬スル六百萬圓乃至千貳百萬圓ノ償還財源ニ關シテハ、目下調査研究中ナルヲ以テ、不日成案ヲ得テ諮ルトコロアルベク、船田市長代理ノ人事異動ニ就テハ、既ニ實行後ノ今日、如何トモスベカラザルヲ遺憾トス。局課長制度ノ活用問題ニ就キ、助役ヲ減員スベシトノ御說ナルモ、大都市ニ於テハ矢張三名程度ノ助役ヲ必要トスト考フ。又吏員ノ異動及吏員ノ地位ノ保障ニ關シテハ、充分考慮スルトコロアルベク、復興局官吏ヲ東京市ニ採用スルコトハ未ダ曾テ考慮セズ。次ニ電燈電力料金及瓦斯ノ値下ニ就テハ市會ノ決議ヲ尊重シテ之ガ實現ニ努力スベク、交通機關ノ統一ハ、方針トシテハ結構ナレドモ、實行ノ方法及其時期ニ就テハ、事頗ル複雜ナルヲ以テ、簡單ニ答辯スル能ハザルハ遺憾ナリ。最後ニ地下鐵道ニ關シテハ、目下本省ニ起債認可申請中ナルヲ以テ、速ニ之レヲ許可スル樣促進ノ方法ヲ講ジ。地下埋設物ノ整理ニ就テハ、屢〻掘リ返スコトナク、萬一之ヲ爲サントスル場合ニ

ハ、短時日間ニ之ヲ完了シ、費用ノ節減ニ努ムベシト答辯セリ。

▽綱紀肅正ニ關スル質疑應答　五月二十五日ノ會議ニ於テ、**森富太君**問ウテ曰ク、船田前助役ノ奇怪ナル人事ニ就キ質問センニ、某新聞ノ報ズルトコロニ據レバ、船田助役ハ未ダ開院ノ運ビニ至ラザル大塚病院事務長トシテ、堀部某ナル者ヲ本市ノ主事ニ任命セリ、然ルニ堀部某ナル者ハ、淺草菊屋橋署長在職中、政黨色濃厚ナルノ故ヲ以テ一度馘首セラレ、其後某參與官ノ手ヲ通ジテ復職、淺草日本堤署長トナリ、先般執行サレタル市會議員選擧ニ際シ、某候補者ノ事務所ニ出入シテ露骨ナル應援ヲ試ミタル定評アル人物ナリ、堀切新市長ハ此儘該人物ヲ採用シ置カントスルカ。又市吏員中這般ノ市會議員選擧ニ應援セル者アリ、市長ハ是ヲ如何ニ考フルヤ。次ニ電氣局ノ北林庶務課長ハ突如馘首セラレ、其後任トシテ船田前助役ノ同期生瀨川某ナル者ヲ採用セリ、而モ同局內ニ於テハ瀨川ニ反對スルノ氣勢極メテ濃厚ナルガ如シ、市長ハ之ヲ如何ニ觀察シツヽアリヤ。更ニ五月十七日ノ日日新聞紙上、市長ノ機密費ニ關シテ左ノ如キ記事アリ、『本田氏「壹萬圓ハ市會議員其他ノ饗應費ナリ、市長ガ壹萬圓ヲ如何ニ使用スルモ不可ナシトスルモ、之ヲ自己ノ懷ニ收ムルガ如キコトハ爲サヾルベク、要スルニ吾人ノ饗應費ニ充當セラルヽナラン」記者「饗應費トシテハ別ニ交際費壹萬參千五百圓ノ在ル有リ」本田氏「壹萬參千圓ハ使途ノ分明ナラザルモノ、即チ料亭待合等ニ於ケル諒解運動、或ハ現金ノ贈與ノ如キ所謂高等政策ナルモノニ費消セラル」記者「果シテ然ラバ、市會ハ最初ヨリ饗宴其他類似ノ費用ヲ協賛スルモノニシテ、是實ニ驚カザルヲ得ズ」本田氏「毫モ驚クノ要ナシ、是レ所謂諒解運動ナリ、世間ハ理窟ノミニ偏スベキニ非ズ、市政運用上ノ難問題ヲ圓滿ニ解決スル爲、之ガ諒解運動ヲ要スル場合ナキニ非ザルベシ、但シ堀切市長ハ斯ル諒解運動ヲ爲サズト言ヘルガ故ニ壹萬圓ハ不必要ナラン」ト』余ハ市參事會員ニ非ザルガ故ニ、市長ト本田氏トノ對話ノ眞相ヲ知ルニ由ナク、從ツテ

本田氏ヲ難詰セントスル者ニハアラザルモ、斯ル事柄ガ市民ヲシテ市會議員ヲ誤解セシムルノ誘因タルコト疑フノ餘地ナシ。次ニ堀切市長ハ、嘗テ市長職務管掌タリシ當時、本市ノ財政ヲ調査シテ增稅ノ餘裕アリト言明シタルコトアリ、一方三土藏相モ當時電車賃値上ノ要アリト言明シタル事實アルガ、堀切市長ハ、今尙增稅又ハ電車賃値上ニ對シテ同樣ノ考ヲ有スルヤ否ヤ。又本市ノ路面電車ハ、大阪ノ夫レノ如ク乘降口ヲ區別セザルガ爲、乘降共ニ混雜ヲ極メ不便尠カラズ、構造改良ニ關スル所見如何、操車法ニ就テハ下谷、三ノ輪、人形町間等ニ於テ著シク不備ノ點ヲ發見ス、即チ或電車ハ頗ル混雜シ、或電車ハ空車ニ等シキモノ少カラズ、是レ操車法ノ杜撰ヲ暴露スルモノト謂フ可ク、又乘客ニ對スル車掌ノ態度ハ、著シク非營業的ニシテ、乘客ノ取扱ヒ不親切ヲ極ムルガ爲ニ、乘客ハ電車ヲ恐レテ靑「バス」ヲ利用スルモノ近來特ニ增加ノ傾向アリ、其結果ハ共ニ營業成績上、收入減ノ數字ヲ現スコト明白ナリ。今ヤ歐米先進國ニ在リテハ、路面電車ヲ廢シ、專ラ「バス」ヲ以テ交通機關ニ充テツヽアルガ如シ、本市將來ノ交通機關ニ對スル市長ノ所見如何。最後ニ電氣局ノ財政狀態ヲ見ルニ、尙節約ヲ要スベキ多クノ冗費アルヲ認ム、即チ大阪市ニ於テハ、收入ノ六割ヲ電氣事業經營費ニ充當シツヽアルニ拘ラズ、本市電氣局ニ於テハ、其七割ヲ要シ、此間一割ノ差ヲ發見ス、彼ノ芝浦工場ノ如キ、現在ノ使用人員ヲ半減スルモ、敢テ支障ナカルベク、又購入電力料ノ如キモ、米國「ナイヤガラ」發電所ノ電力ハ一「キロワット」貳厘五毛ナリト云フニ反シ、本市ガ鬼怒電ヨリ購入シツヽアル電力ハ、十倍ノ貳錢五厘ニ達ス、是等二三ノ實例ニ徵スルモ、電氣事業費ノ節約ハ、喫緊ノ急務ニシテ、現ニ破產ニ瀕シツヽアル電氣局救濟ノ途ハ、根本的財政立直シ以外ニ求ムベキ方法ナシト信ズルガ如何ト。**堀切市長**ハ、大塚病院主事ニ關スル件及吏員ノ選擧應援ノ件ハ具體的調査ノ上考慮スベク、電車問題ハ今愼重調査中ナルモ、目下乘車賃値上ノ意思ナシト答ヘ。**大河內電氣局長**ハ、電車乘降口ヲ中心トスル構造ニ就テハ、大阪市ノ夫レト比較研究シテ、種々

考案ヲ練リツヽアルモ、未ダ成案ヲ得ルニ至ラズ、操車ノ點ニ就テハ、東京市内ノ乘客ノ流レガ、朝及晝ト、夕刻トニ於テ著シキ差アルヲ以テ、往復トモ完全ナラシムルコト容易ナラズ、仍テ現在ニ於テハ引返ヲ繁クシ、乘客ノ片寄ラザル樣注意シツヽアリ。更ニ從業員ノ乘客待遇ニ就テハ、一日百二十萬前後ノ乘客輸送ニ從事シ居ル關係上、時トシテ不心得ナル從業員ナキニシモアラザルヲ以テ、今後トモ精々注意ヲ怠ラザルベク、電氣事業經營費ニ於テハ、大阪市ノ夫レニ比シ、多額ヲ要シツヽアルハ事實ナルモ、右ハ大震火災ノ打擊ト乘車收入ノ減退トニ依リ、經營上幾多不利ナル條件アルガ爲ニシテ、或程度マデ已ムヲ得ズト考フ、然レドモ整理及節約ニ就テハ常ニ充分ナル注意ヲ拂ヒ、人件費ニ於テハ、大正十四年以來、事務員二千五百人、從業員二千人ヲ減ジ、之ガ爲乘客輸送上市民ニ迷惑ヲ及ボシツヽアルハ遺憾ナリ、併シ今後ニ於テモ緊縮方針ニ就テハ充分考究スルトコロアルベシト答辯セリ。

▽市長ノ執務方針ニ關スル質疑應答　五月二十三日ノ會議席上、**森兼道君**ハ、「市長ハ職務遂行上公明ナルヲ要ス、此點ニ關シ所見ヲ問フ」ト前提シテ曰ク、今回ノ市會ハ、東京市政ヲ淨化シ、併セテ百般ノ事務ノ公明ヲ期スルコトヲ目的トシ、一市長、一市會議員ノ利益ヨリモ、二百萬市民ノ福祉增進ノ爲ニ努力セザル可ラザル一大使命ヲ有ス、從テ本市會ニ於テハ、大臣級ヲ市長トスル先例ヲ破リ、堀切善次郎君ヲ市長ニ選擧シテ、市政淨化ノ實ヲ擧ゲ、以テ職務遂行上遺算ナキヲ期待シタリ。然ルニ新聞紙其他ノ傳フル所ニ據レバ、市參事會ニ於ケル市長ノ言動ニ關シ、遺憾ノ點少カラズ、即チ堀切市長ハ、就任ノ頭初ニ於テ、市政從來ノ弊風ヲ一掃シ、根本的ニ百年ノ計ヲ樹ツルノ要アリト力說シタルノミナラズ、待合政治ノ如キ議員懷柔策ハ排斥セザルベカラズト言明セリ、然ルニ就任後三週間ヲ出デズシテ、早クモ待合ニ出入シ、議員懷柔ニ沒頭セリトノ理由ノ下ニ、市參事會ニ於テ、本田義成君ヨリ證據ヲ擧ゲテ難詰セラレタル事實アリ、而モ市長ハ、其席上哀願的態度ヲ以テ諒解ヲ請フト述ベ、且其證據ノ提出ヲ恐レ、暗ニ

待合入リノ事實ヲ是認セリト傳ヘラル、是レ吾々ノ頗ル意外トスル所、少クトモ市民ヲシテ市長ニ欺カレタリトノ疑念ヲ抱カシムルニ至レリ、玆ニ於テ余ハ市長ニ問ハント欲ス、即チ以上ノ事實ニシテ眞ナリトセバ、原因動機ノ如何ヲ問ハズ、人物ノ何人タルヲ論ゼズ、明々白地ニ其實狀眞相ヲ說明スルコトハ、之レ即チ二百萬市民ニ忠ナル所以ナリト信ズルガ如何、次ニ以上ノ事實ガ、何等ノ痕跡ナキモノナリトセバ、吾々ヲ選擧セル二百萬市民ノ名譽ノ爲ニ、市長ヲ選擧セル市會議員ノ名譽ノ爲ニ、市政ニ暗影ヲ投ジ、二百萬市民ヲ惑ハシメタル議員ニ對シ、何等ノ制裁ヲ加ヘズシテ單ニ放任默過スルコトハ、今日ノ事態ニ於テ、許スベカラザルコトナリト信ズ。道途傳フル所ニ據レバ、本田君ハ堀切市長ノ助役トシテ船田前助役ヲ推薦シタルニ、市長ガ之ヲ容レザリシ爲、其報復トシテ斯ル行動ニ出デタリト云ヒ、或ハ機密費壹萬圓ノ分配ト、待合政治ヲ要求セリトモ云ヘルガ、余ハ之ヲ信ゼス、併シナガラ本田君ハ證據ヲ有ストノコトナルヲ以テ、二百萬市民ノ前ニ之ヲ提示シテ、一般ノ誤解ヲ一掃スルノ義務アルベク、市長モ亦特ニ本田君ノ助役推薦、金錢要求等ニ就キ、事實ナリヤ否ヤヲ闡明センコトヲ望ムト質スヤ。**堀切市長**ハ、斯ル事實ナシト答辯シ。**本田義成君**ハ、森富太君ノ質問ハ大體新聞紙ニ據レルヲ以テ、余ハ新聞紙ノ報道ニハ事實モアリ、事實相違ノ點ナキニシモアラザルコトヲ斷言スルニ止メン、更ニ森兼道君ノ質問ニ對シテハ、答辯ノ要ナシト認ムルモ、重大問題トシテ取扱ヒツヽアルニ依リ、一應其經過ヲ說明セン、併シ之ガ經過ヲ說明セントセバ、勢ヒ市參事會ノ內容ヲ語ラザル可ラズ、其結果ハ市參事會ノ性質上、ソノ議長ノ承認ヲ經ルヲ要ス、議長差支ナキヤト問フヤ。**柳澤議長**ハ、市參事會ノ議長ハ余ニアラズト答フ。玆ニ於テ**本田君**ハ、去ル十五日ノ市參事會ハ公開ナリシヲ以テ、發表スルモ差支ナシト信ズルガ、昨日ノ市參事會ハ市長ノ名譽ノ爲ニ秘密會トナシタルニ依リ、其內容ヲ發表スルノ自由ヲ有セズ、然レドモ諸君ガ之ヲ發表セヨト云ハバ、余ハ敢テ辭スルトコロニ非ラズト云フヤ。**山**

田保君ハ議事進行ニ關シテ一言スベシトテ、本田君ノ發言中議長ノ許可ヲ得テ起チ、諸君ガ本田君ヨリ聞カント欲スル所ハ、余モ亦之ヲ聞カント欲スル所ナルモ、法制上ニ疑義アルヲ如何セン、即チ市制ノ明文中『市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス』トアリテ、悉ク不公開審理主義ヲ執レリ、然ルニ本會議ハ傍聽ヲ許スヲ以テ、公開審理主義ナリトス、此場合市參事會ノ內容全部ヲ發表スルコトノ可否ニ關シ、余ハ多大ノ疑義ヲ有ス、議長ノ見解如何ト質シ。**柳澤議長**ハ、市參事會ノ議長タル堀切市長ヨリ答辯アリタシト答フルヤ、市參事會ニ於ケル內容發表ノ可否ニ關シ議場喧噪ヲ極ム。玆ニ於テ**柳澤議長**ハ、市參事會議長ヨリ答辯ナキヲ以テ、本田君ノ辯明ヲ續ケラレタシト宣スルヤ、議場再ビ騷然タリ、仍テ議長暫時休憩ヲ宣シ、引續キ再開ノ席上ニ於テ、**高橋義次君**ハ、所謂議事ノ進行ニ關シ既ニ發言權ヲ取得シタル議員ノ發言中ハ、如何ニ緊急ヲ要スル事案ニ關シテモ、斷ジテ他ノ議員ノ發言ヲ許サヾルヲ原則トス、然ルニ議長ガ本田君ノ發言中、山田君ニ發言ヲ許可シタルハ、將來惡例トナルノ虞アリト述ベ。**柳澤議長**ハ、右ハ全ク余ノ過ナリキトテ陳謝シタレバ、**本田君**ハ、直ニ市參事會ノ內容ニ就キ左ノ如ク發表セリ。

堀切市長ハ、就任當時新聞記者其他ニ對シ、余ハ市會ヲ淨化スル考ナリ、余ハ日本料理店ヲ嫌ヒ、藝妓ヲ嫌フト發表セリ、仍テ余ハ市參事會ニ於テ、第一、堀切市長ガ斯ル事柄ヲ發表シタルハ、市會議員中ノ何人カ待合政治ヲ强要セル事實アリシガ爲ナリヤ如何ト質シ、第二、市長ハ新聞記者招待會ノ席上ニ於ケル挨拶中、自ラ市會議員ヲ訪問スルガ如キコトヲ爲サズ、又市會議員ヲ一流料理店ニ招待シテ、藝妓ヲ侍ラシムルガ如キコトヲ廢止セントスト述ベタル由ナルガ、其後市會ノ情勢變化ヲ見ルニ及ンデ、最初ノ聲明ヲ裏切リ、漸次軟化セルヤノ傾向アリ、市長ノ心境如何、第三、市長最初ノ聲明ハ、歷代ノ市長ニ見ル能ハザル模範的行動トシテ稱讃ニ値スル所ナレドモ、聲明ニ變化ヲ生ズルガ如キハ面白カラズ、故ニ最初聲明ヲ誤リシモノナラバ、此際聲明ノ變改ヲ爲ス必要ナキカ、第四、最初ノ聲明通リニテ進マントスルナラバ、機密費ノ必要ナカルベシ、從來歷代ノ市長ハ機密費貳萬六千五百圓中、參千圓ハ市會議長ノ機密費トシテ支出シ、壹萬圓ハ渡シ切リトシテ市長ノ自由ニ委シ、殘リ壹萬參千五百圓ハ受取請求ニ依リ支拂ヒヲ爲シツヽアルモ、事實上常ニ不足ヲ感ズルガ爲、別ニ五萬圓程度ノ費用ヲ支出シ居レリ、故ニ堀切市長ハ最初ノ聲明通リ宴會廢止主義ヲ以テ進マントスルナラバ、前記渡シ切ノ壹萬圓ハ不要ナルベク、其聲明ヲ裏切リ、宴會主義ニテ進マントセバ、不足ヲ感ズベシ、市長ハ果シテ其何レニ依ラントスルカト質シタルニ、堀切市長ハ、余ハ最初ヨリ市政淨化ヲ口ニシタルモ、未ダ市會淨化ヲ口ニシタルコトナシ、又料理店ノ事ニ關シ、市會議員中ノ何人カヾ宴會ヲ强制シタル事實アリヤトノ質問ナルモ、右ハ余ニ一任センコトヲ望ム、交際費、機密費ノ件ハ、素ヨリ市長トシテ必要ナル限度ニ止メ、其限度ヲ越ユベカラサルハ勿論ナリ、之ヲ要スルニ就任匆々ニシテ市政ニ暗ク、追々各般ノ情勢ニ通ズベキヲ以テ、其他ハ後日ニ讓ラレタシト答辯セリ、玆ニ於テ余ハ再ビ市長ニ質問セリ、市長ハ市會其他ノ挨拶ニ於テ、市政ニ關スル事ハ、是レヨリ研究發表スベシト言明シナガラ、婦人團體等ニ臨ンデハ、堂々トシテ市政ノ方針ヲ論ジツヽアリ、右ハ單ニ人氣ヲ博センガ爲ノ宣傳ナランモ、時ト所トニ依リ言ヲ二三ニスルガ如キハ、無定見ノ甚シキモノト謂フ可ク、二百萬市民ノ利害休戚ヲ一身ニ擔フ市長トシテ、市民ノ信賴ヲ裏切ルノ虞ナキカト質シタルニ、市長ハ萬事未熟ノ致ス所ナルヲ以テ、何分ノ宥恕ヲ請フ、併シ忠告ニ對シテハ、今後充分注意スベシト答ヘタリ。仍テ余ハ更ニ市長ハ市會議員ニ對シテ諒解運動ヲ爲サントスルカ否カト質シタルニ、开ハ御想像ニ任スト答辯セリ。玆ニ於テ余ハ聊カ立腹セリ、即チ市長ハ質問者ニ對シテ、「貴下ノ考ニ任ス」トハ奇怪ナリ、市長ノ態度ニシテ斯クノ如シトセバ、余ハ爾今市長ノ諒解運動ヲ一々曝露スベシト言明シ、同時ニ市長ガ或者ニハ諒解ヲ求メ、或者ニハ冷眼默過

ノ態度ヲ執ラントスルハ、市政ヲ毒スルモ亦甚シト詰問セルヤ、市長ハ「是レヨリ日程ニ入リマス」ト宣シ、議事ニ入ラントシタルニ依リ、議員ノ質問ニ答辯セズシテ議事ニ入ラントスルハ不都合ナラズヤト詰リタルニ、白上助役ガ傍ヨリ市政運用上諒解ナクシテ云々ト云ハントスルヤ、堀切市長ハ「余自ラ答辯スベシ、市政運用上、各方面ノ諒解ヲ得ベキハ當然ナルヲ以テ、今後トモ其考ニテ進マントス」ト答ヘタルヲ以テ、余ハ斯クテハ市長最初ノ聲明ト異ルモノアリ、眞意果シテ如何ト質シタルニ、市長ハ最初ヨリ其考ヘナリト答辯セリ、是レ市參事會ニ於ケル質疑應答ノ大要ナリトス、（新聞記事ノ責任ハ如何ト呼ブ者アリ）然ルニ其後本件ニ關スル記事ガ新聞紙上ニ揭載セラレタリ、余ハ其記事ノ全部ヲ否認スルモノニ非ラザルモ、或部分ニ就テハ事實相違ノ點アルヲ認ム、爾來屢〻新聞記者ヨリ是非其內容ノ詳細ヲ承リタシトノ要求ニ接シタルモ、余ハ次回ノ市參事會ニ於テ質問ヲ續行スベシト告ゲテ新聞記者ト袂ヲ分チ、昨日ノ市參事會ニ於テ秘密會ヲ要求シ、問題ハ圓滿ニ解決セリ。

▽行財政整理ニ關スル質疑應答　九月二十日ノ會議席上、**森兼道君**ハ、市會及市理事者ハ、共ニ人心ヲ一新シテ、更生東京市ノ建設ニ努力セザルベカラズト信ズ、然ルニ堀切市長ノ財政調査會ニ於ケル挨拶中ノ一節ニ據レバ、昭和五年度豫算中ヨリ百貳拾六萬圓ヲ天引スト云フ、而モ右ノ天引ハ市吏員六百人ヲ馘首シ、更ニ復興事務局員千數百人ヲ退職セシムル爲、經濟上止ムヲ得ザル手段ナリト云フニ在ルモ、市長ハ何故輕々ニ斯ル人事問題ヲ發言スルカ、東京市ノ財政狀態ガ窮迫セル筈ナリ、而モ之ヲ救濟センガ爲ニハ、如何ナル方法ニ依ラザルベカラザルカハ、疾ニ承知ノ事ナルベシ、余ヲ以テ之ヲ見レバ、現ニ破產ニ頻シツヽアル東京市財政ヲ救濟セントセバ、先ヅ高級者タル市長竝ニ三助役ノ俸給ヲ減ズルノ要アリト認ム、由來東京市吏員ノ俸給ハ、全國自治體中、稀ニ見ル高率ニシテ、官吏ノ俸給ニ比較スレバ、約三四倍ニ相當ス、市長ハ先ヅ吏員ニ範ヲ示ス必要上、自ラ俸給ヲ減ジ、更ニ年俸千貳百圓以上ハ一割、貳千五百圓以上ハ二割、四千圓以上ハ三割、五千圓以上ハ四割、八千圓以上ハ五割ヲ減ジ、以テ財源捻出ノ資ニ充テ、月俸百圓乃至百五拾圓以下ニ屬スル下級吏員ヲ優遇シ、馘首整理ノ方法ヲ避クルノ要アルニ非ズヤ、新任筧電氣局長ニ對シ、最高級ノ年俸壹萬五千圓ヲ支給スルガ如キハ、本市財政上ノ見地ヨリ、甚シキ不穩當ノ措置ナリト認ムルガ如何ト質スヤ。**堀切市長ハ**、本市ノ財政ガ非常ノ難局ニ直面セルハ、旣ニ御承知ノ如クナルヲ以テ、經費節約ニ就テハ、極力之ヲ實行ニ移スベク、目下財政調査會ノ審議ニ附シツヽアルガ、其提案中ニハ節減ノ限度等ニ就キ詳細ニ之ヲ記載セリ、併シ節減ノ方法ヲ如何ニスベキカニ關シテハ、目下愼重考慮中ナルモ、成ルベク御質問ノ趣旨ヲ尊重スベシト答辯セリ。

▽市政當面ノ問題ニ關スル質疑應答　九月二十日ノ會議ニ於テ**渡龍造君**ハ、第一、市長ハ安井誠一郎氏ヲ社會局長ニ、賀川豐彥氏ヲ社會局囑託ニ任ジ、大ニ社會事業ノ建直シヲ斷行スル旨新聞紙上ニ發表シ居レルガ、從來市ノ社會事業ニ對シ、市長ハ何等カノ不滿ヲ有セリヤ否ヤ。又賀川氏ハ所謂「赤イ思想」ノ持主ナリト評スル者アリ、併シナガラ余ハ必ズシモ世評ヲ眞ナリトハ認メズ、然レドモ賀川氏ヲ起用シタルハ、市長ノ大英斷ナリト新聞紙上ニ傳ヘラレツヽアル所ヨリ見レバ、市長トシテハ賀川氏ニ對シ、何物カヲ期待シ居ルモノヽ如シ、果シテ然ラバ、市長ハ賀川氏ヨリ社會事業施設中ノ何ヲ期待シ居レリヤ。第二、方面委員囑託ニ關シテハ、從來屢〻論議セラレタル所ナルガ、市長ハ如何ナル根本方針ヲ以テ之カ選任ノ標準ト爲シツヽアリヤ、聞ク所ニ據レバ、今回囑託セラレタル多數ノ方面委員中ニハ、不適當ナル者少カラズト云フ、果シテ然ラバ、資格ヲ缺如スルガ如キ方面委員ハ、如何ニ之ヲ措置セントスルカ。又現在市會議員ト方面委員トハ、餘リニモ聯絡ヲ缺クモノアリト認ム、市長ハ現狀ノ儘ニテ差支ナシト認ムルヤ否ヤ、或ハ又現在以上ニ其關係ヲ緊密ニシ、市會議員ヲシテ方面事業ヲ助長セシムルノ要アリト認ムルヤ否ヤ。

第三、近者不景氣ハ益〻深刻トナリ、失業者ノ數亦增加ノ一途ヲ辿リツヽアリ、罪ナキ無產小市民ノ生活苦ハ、今ヤ極度ニ達セリ、一方復興事業中區劃整理ノ如キ、國家及ビ自治體ガ、莫大ナル經費ヲ投ジテ成就シタル結果ハ、一般地主ヲシテ勞セズシテ巨利ヲ得セシメ、從來ノ地代ハ一倍若クハ二倍シ、爲ニ借地人、借家人ノ生活苦ハ益〻增大スルニ至リ、不景氣ノ壓迫ト共ニ、無產市民、勞働者、小賣業者ノ疲憊極點ニ達ス、東京市ハ此際全力ヲ擧ゲテ之ガ救濟ニ努力セザルベカラズ、而モ財力乏シキ東京市ガ自ラ之ヲ救濟セントスルハ、一面甚ダ容易ノ業ニアラザルベキモ、時ハ正ニ非常特別ノ場合タリ、帝都復興ノ爲ニ財力ヲ吝マザリシ東京市ハ、社會事業ニ對シテモ亦積極的施設ヲ實行スルノ責任アリト信ズルモノナリ。由來東京市ノ社會事業ハ、他ノ何レノ事業ヨリモ遲レ居レルハ事實ナリ、然レドモ現下ノ非常時ニ當リテハ、苟安ヲ容サヾル狀態ニ在ルヲ以テ、東京市トシテハ、法規ヲ超越シ、萬一財力ノ許サヾル場合ニ於テハ、夫レ以外ノ方法ヲ以テ多數ノ無產市民、自由勞働者ノ生活ヲ保障セザルベカラズ、當局ハ右ニ關シテ果シテ如何ナル成算ヲ有セリヤ、冀クハ調査中、考究中等ノ月並的答辯ヲ避ケ、實質的ニ計畫ノ內容ニ就キ誠意アル答辯アランコトヲ。第四、之ニ關聯スル問題トシテ、去五月二十三日本會ニ於テ滿場一致ヲ以テ決議シタル產業資金壹千萬圓增額ノ件ハ、今年末ニ至リテ實行サルヽトセバ、甚ク遲延ノ感アリ、少クトモ今秋ノ仕入時期ヲ控ヘテ、急速ニ調達スルノ要アルモ、本問題ハ現在如何ナル程度迄進捗セリヤ。第五、本市收入役ハ、永キニ渉リテ缺員トナレルガ、市長ハ七月十二日、一旦收入役ヲ推薦シタルニ拘ラズ、如何ナル事情ノ存スルニヤ、忽チ之ヲ撤回セリ、其結果、人選上策動、陰謀等ノ流言蜚語行ハレ、市政淨化ノ上ニ一大暗影ヲ投ズルニ至レリ、而モ收入役ハ本市ノ出納ヲ擔任スル重職ナルヲ以テ、速ニ之ヲ推薦シ、市政ノ明朗ヲ期スベキニ非ズヤト質シタルニ。**堀切市長**ハ、本市社會事業ノ施設ガ尙十分ナラザルモノアルハ、余モ亦之ヲ痛感スルヲ以テ、今後幾多ノ改善刷新ヲ圖リ、市民ノ希望ニ副ハンコトヲ期スベシ、賀川豐彥君ニ社會局ノ事務ヲ囑託シタルハ、同君ガ多年細民ニ直接的交涉ヲ有シ、實際上豐富ナル體驗ヲ有スルヲ以テ、本市社會事業ニ對シ、一層適切ニシテ、一層徹底セル施設ヲ爲サンガ爲、其意見ヲ徵シ、參考ニ資セントスルニ外ナラズ、次ニ方面委員ノ囑託ニ關スル當局ノ方針ハ、社會事業ニ理解ヲ有シ、奉仕的精神ヲ以テ、公平ニ職務ヲ遂行スル人物ヲ選任スルニ在ルモ、萬一不適任ナル人物アリトスレバ、嚴正公平ニ職務ニ當ル樣適當ニ指導スルノ方法ヲ講ズベシ。次ニ失業者等ニシテ生活苦ヲ訴ヘツヽアル人々ニ關スル對策ハ、中央政府ノ方針ト相俟ツテ、極力職業紹介ノ勞ヲ執リ、他面ニ於テハ、一定ノ職業ナク、漫然中央ニ集リ來ル地方人ノ上京防止ニ努メ、市內居住ノ失業者ニ對シテハ、極力之ガ救濟事業ヲ充實整備シテ達算ナキヲ期シ、更ニ市會ニ設置サレタル社會事業委員會ノ意見ニ從ヒ、機宜ノ措置ヲ講ズル所アルベシ。又產業資金問題ハ、折角調査ヲ急ギツヽアルモ、本日ノ市會ニ提案スル能ハザリシハ遺憾ナリ、然レドモ右ハ急ヲ要スル案件ナルニ依リ、次期ノ市會ニハ案ヲ具シテ提出スベキ準備中ニ屬ス、最後ニ收入役推薦ノ件ガ遲滯シツヽアルハ遺憾ナレドモ、成ルベク速ニ之ガ推薦ノ手續ヲ執ラントスト答辯セリ。

第八節　瓦斯問題

▽瓦斯報償契約ニ於ケル納金ノ內容ニ關スル質疑應答

四月十日ノ會議ニ於テ、**穗谷磯平君**ハ、東京瓦斯株式會社ハ明治十八年十月、資本金參百五拾萬圓ニテ成立シタルモノナルガ、其後三年乃至五年毎ニ增資ニ增資ヲ重ネ、明治四十四年ニハ千八百萬圓ニ達シ、更ニ競爭會社タル資本金壹千萬圓ノ千代田瓦斯ヲ合併シテ四千五百萬圓ニ增資シ、尋デ同四十五年ニハ五千五百萬圓トナリ、現在ハ壹億圓ナリト記憶ス、而モ瓦斯會社ガ增資ヲ決行スル每ニ、本

市ハ損害ヲ被リツヽアル次第ナルガ、其程度果シテ如何、即チ本市トノ報償契約ニ據レバ、會社ノ利益ノ六分ヲ本市ニ納入セシムルコトヽナリ居ルモ、余ノ調査シタル所ニテハ、會社ノ利益ニ比シ、其納入金ハ頗ル寡少ナルガ如シ。一方會社ハ本月ノ總會ニ於テ貳億圓ニ增資セントシツヽアルガ、假リニ貳億圓ニ增資シタリトセバ、直チニ九百萬圓ノ配當準備金ヲ要スル結果トナル、然ルニ此配當準備金ナルモノハ、普通ノ銀行會社ノ夫レト異ルヲ以テ、利益ヲ伴ハズ、又拂込金ハ之ヲ銀行ニ預入スルナランモ、銀行利子ハ四朱以上ニ出デザルベキヲ以テ、差引五朱ノ配當準備即チ五百萬圓ハ株主ニ配當サルヽ結果トナラン、故ニ會社ニ斯ノ如キ配當ヲ爲スニ足ル充實セル豫備金アリトセバ、本市ハ條例ヲ改正シテ、更ニ多額ノ納入金ヲ取リ、行詰レル本市財政ヲ潤スノ必要アリト信ズ、余ハ瓦斯料金値下ノ前提トシテ此點ノ詳細ナル答辯ヲ聞カント欲スト質スヤ。**船田助役**ハ、瓦斯報償契約第八條ニハ「會社ハ毎決算期ニ於ケル總益金ヨリ總損金ヲ差引キタル殘額ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ市ニ納付スルモノトス、但シ總損金中ニハ各種ノ積立金及賞與金、其他之ニ類スル支出ヲ包含セス」トアリ、而シテ之ヲ實行スル方法トシテ「市ハ會社ニ對シ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ帳簿、財產諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得」トノ條文アリ、仍テ市理事者ハ、常ニ忠實ニ之ガ契約ノ實行ニ付考慮シツヽアルモ、右ハ單ニ理事者ノ誠意ヲ以テノミ實行シ得ルモノニアラザルヲ以テ、今月迄多少遺憾ノ點アリシハ事實ナレドモ、將來ノ問題トシテハ充分此點ニ注意ヲ拂ヒ、時ニ會社ニ對シテ警告ヲ發シ、所謂留保所得其他ノ利益ヲ隱匿スルコトナキ樣、努力スベシト答辯シタリ。

然ルニ此時、**深澤豐太郎君**ハ、只今理事者ノ答辯ヲ聞キ、特ニ理事者ノ注意ヲ喚起シタキ一事アリ、只今理事者ハ報償契約第八條ヲ引證シテ、瓦斯會社監督ノ方針ヲ指示スル所アリシモ、瓦斯會社ハ昭和七年七月末日ノ株主總會ニ於テ、從來定款第三十七條ニ「本會社ハ每期總收入金ノ中ヨリ營業上一切ノ費用及損失ヲ引去リタル殘額ヨリ市ノ納付金ヲ控除シタルモノヲ純益金トシテ之ヲ準備積立金、使用人退職手當基金、役員賞與金、交際費、株主配當竝別途積立金ニ充當ス」トアリシヲ「役員賞與金及交際費竝ニ使用人退職手當金ヲ營業上ノ一切ノ費用及損失金ニ加ヘ以テ總收入金ヨリ差引キ其殘額ヲ利益金トシテ市納付金、準備積立金補充竝ニ別途積立金ニ分配スルコト」ト變更セリ、然ルニ只今理事者ノ答辯ヲ聞クニ、市納付金ガ其後如何ニ變更サレタルカヲ知ラザルモノヽ如シ、即チ瓦斯會社ハ從來總益金ヨリ總損金ヲ差引キタル殘額ノ百分ノ六ヲ東京市ノ公納金トシテ納入スベキ筈ナルヲ、先程理事者ノ引證シタル第八條ヲ無視シ、總損金ヲ差引キタル殘額ヨリ尙役員賞與金、交際費、退職手當金等ヲ差引キ、其殘額ノ百分ノ六ヲ公納スト改メタリ、右ハ明カニ瓦斯會社ノ所謂脫稅的手段タルニ拘ラズ、之ガ監督ニ任ズベキ理事者及當時ノ市會議員ガ等閑ニ附シタルハ遺憾ナリ。余ハ瓦斯會社ガ、東京市ニ對シテ何等諒解ヲ求ムル所ナク、恣ニ定款ヲ改正シ、昨年度ノ決算ニ於テ當然公納スベキ金額ヲ脫稅セルコトヲ認ムルモノナルガ、理事者ハ此事實ヲ調査シ、今年度ニ於テ追加徵收スルノ意思アリヤ否ヤ、又之ニ牴觸スル條項ヲ改メシムルノ意思アリヤ否ヤヲ聽カント欲スト述ベタレバ、**船田助役**ハ、定款ノ改正ハ、報償契約ニ違反セザル限リ、會社ノ自由ナルモ、其改正ニ依リ、市ノ公納金ニハ何等ノ影響ナキ筈ナリ、然レドモ會社ガ如何ナル理由ニ依リ、斯ル定款改正ヲ爲シタリヤニ就テハ、本市ヨリ會社ニ對シ、目下質問中ナルヲ以テ、回答アリ次第明答スベシト答辯セリ。右深澤、糟谷兩君ノ質問ニ對スル書面ニ依ル答辯書ハ、五月二十三日ノ會議ニ左ノ如ク報告サレタリ。

議員深澤豐太郎君ノ質問ニ對スル報告事項

（東京瓦斯株式會社ニ對シ本市ヨリ照會シタル同社定款變更ノ理由ニ關スル回答書）

一、定款第三十七條改正ノ理由

昭和年間　第參章　昭和四年　第八節　瓦斯問題

從來ノ規定ニ據レハ使用人退職手當基金、役員賞與金ハ毎半期株主總會ニ附議シ其ノ都度一定ノ金額ニ付決議ヲ要シタリ然レトモ使用人退職手當基金ニハ最低率ヲ役員賞與金ニハ最高率ニ定ムルコトノ妥當ナルヲ認メ右定款ヲ改正シテ其決定ヲ求メ既ニ其最低率最高率決定シタル以上ハ之ヲ營業費ノ支出ト爲シ一々株主總會ノ決議ヲ經ルノ煩ヲ避ケ報償契約第九條ノ範圍ニ於テ自由裁量ヲ爲スノ簡捷ヲ期シタル次第ニ候尚使用人退職手當基金及役員賞與金ハ毎期總收入金ノ內ヨリ營業上一切ノ費用及損失ヲ引去リタル殘額ヨリ先以テ市納付金ヲ控除シタル金額ヲ標準トスルカ故ニ報償契約第八條ノ納付金ニ影響ヲ及ホスコト無之候

二、市納付金ニ關スル將來ノ手續

前項ノ定款第三十七條ノ改正ニ依リ市納付金ニ關スル手續ニハ何等變更ヲ來タス所無之事ハ當會社ノ株主總會ニ於テ總計算ノ承認議決ヲ經タル後遲滯ナク其報告書ニ別紙寫ノ如キ計算書ヲ添付シ貴市ニ御報告致シタル實例ニ徵シ明瞭可致ト存候

（別紙）

昭和四年一月三十一日

東京瓦斯株式會社

取締役社長　岩崎清七

東京市長市來乙彥殿

明治四十四年十一月二十五日附契約書第八條ニ依ル昭和三年度下半期分納付金左記ノ通リニ相成候間此段御通知申上候也

記

一、本期總益金　壹千五百四拾七萬三千四百六拾八圓七拾八錢也

一、本期總損金　壹千百貳拾六萬六千貳百八拾五圓四拾四錢也

右總損金中ニハ總係費トシテ役員賞與金貳拾萬圓及使用人退職手當基金拾參萬圓合計金參拾參萬圓ヲ含ム故ニ（報告書記載利益金）ト異ナル

差引本期利益金　四百五拾參萬七千百八拾參圓參拾四錢也

御市納付金　貳拾七萬貳千貳百參拾壹圓也

以上

（參照）

第三號議案　定款改正ノ件

定款第三十七條中「使用人退職手當基金」及「役員賞與金及交際費」ノ十八字ヲ削除ス

（參照）

第三十七條　本會社ハ毎期總收入金ノ內ヨリ營業上一切ノ費用及損失ヲ引去リタル殘額ヨリ市納付金ヲ控除シタルモノヲ純益金トシ之ヲ準備積立金、使用人退職手當基金、役員賞與金及交際費、株主配當金竝別途積立金ニ分配ス

第四號議案　每期總收入金ノ內ヨリ營業上一切ノ費用及損失ヲ引去リタル殘額ヨリ市納付金ヲ控除シタル金額ノ百分ノ三以上ヲ使用人退職手當基金、百分ノ五以內ヲ役員賞與金トシテ其期營業費ヲ以テ支出スルモノトス

議員精谷礒平君ノ質問ニ對スル答辯書

一、買入瓦斯代ニ關スル事項

昭和三年下期ニ於テ神奈川「コークス」會社ヨリノ買入瓦斯ハ四億五千八十四萬五千八百立方呎ニシテ此ノ代金四十五萬六千五百九十三圓九十錢、壹千立方呎當一圓〇一錢二厘ニ當ル、右瓦斯ハ十二年上期ヨリ引續買

入ヲ爲セルモノニシテ其ノ價格ハ一圓五錢乃至九十九錢五厘ニシテ調査ノ結果會社計算ヲ相當トシ容認シ來リタリ

二、瓦斯ノ未賣分ニ關スル事項

本期ニ於ケル瓦斯製造量四十七億八千百二十四萬七百立方呎買入瓦斯量四億五千八十四萬五千八百立方呎合計五十二億三千二百八萬六千五百立方呎ニ對シ同期間販賣量四十四億六千九百七十四萬千百五十立方呎ニシテ其ノ差七億六千二百三十四萬五千三百五十立方呎(割合ニシテ約一割四分五厘)ヲ減少シタルハ主トシテ瓦斯ノ收縮漏洩ニ基クモノナリ

三、副生物產出量ノ減少ニ關スル事項

副生物產出量ノ減少ハ瓦斯製造方式ノ相違ニ基クモノニシテ即チ現在會社ハ全然「コークス」ノ副生ヲ伴ハサル完全瓦斯化竝水性瓦斯方式ニ依ル瓦斯製造量約二割ヲ占メ此ノ外從來ノ石炭瓦斯製造ニ於テモ產氣割合增加セルヲ以テ瓦斯製造量ニ比シ副生物產出率ノ減少ヲ來セルモノト認ム而シテ石炭使用量壹噸當副生物ノ產出量ニ付大正八年上下平均ト昭和三年下期トヲ比較スレハ次ノ如シ

	大正八年	昭和三年下期
「コークス」產出量	〇、七〇四噸	〇、六九二噸
「タール」產出量	二斗七升二合	二斗八升八合

四、復興事業ニ付受取リタル移轉補償金ニ關スル事項

復興局及本市ヨリ受ケタル瓦斯鐵管其ノ他ノ補償金ハ特ニ勘定科目ヲ設ケス之ヲ假受金トシテ收入シ置キ他方之カ工事ニ要シタル支出ハ總テ假拂金トシ個々ノ工事完了ヲ俟ツテ之カ收支ノ相殺計算ヲ爲シ其ノ殘額(利益)ヲ雜收入ニ繰入ルヽ例ナリ、而シテ昭和三年下期ニ於テ雜收入ニ繰入レタル右利益金ハ他ノ一般工事益金ヲ合算シ六十萬九千七百三十七圓二十錢八厘ニシテ未精算ノ爲利益勘定ニ繰入ルヽニ至ラス假受金中ニ包含シアルモノ百四萬千九百七十圓八十九錢八厘ナリ

五、「メートル」使用料ニ關スル事項

「メートル」使用料ハ別ニ勘定科目ヲ設定セス瓦斯收入中ニ包含セル「メートル」使用料ハ五十五萬五千六百二十九圓六十錢ナリ

▽瓦斯料金値下ニ關スル質疑應答　四月十日ノ會議ニ於テ、**山田保君**ハ、本市會ハ大正十五年九月二十五日ノ會議ニ於テ、滿場一致ヲ以テ瓦斯料金ヲ引下グベシトノ建議ヲ通過シタリ、爾來二年有半ヲ經過シタルモ、未ダ之ガ實現ヲ見ルニ至ラズ、理事者ハ該決議ニ對應スル調査ヲ遂ゲタル事實アリヤ、若シ之レアリトセバ、ソノ成績及結果如何、而シテ相當ノ成績ヲ擧ゲタル事實アラバ、市民ノ前ニ公表スルノ要アルベク、公表スル能ハザル事情アラバ、其理由ヲ承リタシ、又今日迄何等料金値下ニ付其手續ヲ執ラザリシナラバ、其事由及今後如何ナル時期ニ於テ其手續ヲ執ラントスルカ、萬一理事者ガ、該決議ニ關シ、何等ノ手續ヲモ執ラズトセバ、市會ヲ輕視シ、市民ノ輿論ヲ無視スル結果トナル、此場合理事者ハ如何ナル責任ヲ負ハントスルカト質シタルニ對シ。**船田助役**ハ、大正十五年ニ滿場一致ヲ以テ本會ヲ通過セル瓦斯料金値下ニ關スル建議案ニ就テハ、其後機會アル毎ニ口頭又ハ書面ヲ以テ、會社ニ交涉ヲ進メツヽアルガ、會社ヨリハ昭和二年一月八日、唯今ノ營業狀態ニ於テハ、直ニ値下ニ應ズル能ハズトノ回答ニ接シタリ、然レドモ本市ハ其後更ニ會社ノ營業狀態ヲ調査シ、市來前市長時代ニ於テモ、具體案ノ作製ニ從事スル所ア

リシモ、何等纏リタル成案ヲ得ザル間ニ、市長ノ辭職ニ會シ、爾來今日ニ至レリ、併シナガラ理事者ハ其後モ引續キ、會社ノ內容ニ關シテ研究ノ歩ヲ進メ、市會建議ノ實現ニ努メツヽアルモ、其結果ニ就テハ未ダ公表ノ時期ニ達セザルヲ遺憾トスト答辯シタリ。

▽瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議　左案ハ四月十日ノ會議ニ於テ、滿場一致可決サレタリ。

瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議

右提出候也

昭和四年四月十日

提出者

小俣政一	加藤正信	福田勇	松永東		
大野傳吉	高橋秀臣	河村慶治郎	長島武治		
森富太	阿部利七	池田清秋	柳田宗一郎		
八太茂	大神田軍治	茂木太市	中西敏二		
古島宮次郎	森原嘉逸	中南定太郎	高橋義次		
中塚榮次郎	伊東美代松	杉ノ原英太郎	蓮江啓藏		
森兼道	馬島僩	島中雄三	堺利彥		
阿部溫知	阿久利幾之助	和田操	高橋庄之助		
卯木國三郎	富田富治郎	川村正夫	羽田如雲		
糟谷磯平	高橋俊太	富岡袖吉	松浦清三郎		
小野養治	鈴木慶四郎	高崎高次郎	中川重政		
島本龍太郎	佐藤庄吾	溝口信	橋本祐幸		
小澤佐重喜	友成四郎				

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル建議

東京瓦斯株式會社ハ本市トノ報償契約第六條第二項ニ基キ料金ノ引上承認ヲ需メ本市會ハ大正八年九月三十日五個ノ要項ニ依リ承認ヲ與ヘタリ而シテ現下ノ狀況ニ於テ曩ニ値上ヲ要求セル原因消失セルヲ以テ報償契約第六條第一項ノ均分主義ニ則リ更ニ亦料金引上承認ノ要項第五項ニ基キ料金ノ引下ヲナサシムルハ市民生活ノ急迫ヲ緩和スル見地ニ立チ緊切ノ問題ナリト信ズ尙營業ノ本質上ヨリ見テ不合理ナル計量器使用料ヲ廢止セシムルヲ妥當ナリト思料ス然ルニ大正十年八月及大正十五年九月二十五日ノ市會ニ於テ料金引下ニ關スル建議案通過セルニ拘ラズ實現ニ至ラザルヲ甚ダ遺憾トス理事者ハ速ニ調査ヲ遂ゲ相當ノ手續ヲ取リ其實現ニ至ルマデ最善ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ望ム

右建議ス

▽瓦斯料金値下交涉ニ關スル質疑應答　四月二十三日ノ會議ニ於テ、**森兼道君**ハ、先般吾々ノ決議セル瓦斯料金値下及計量器使用料廢止ノ件ニ關シ、船田助役ハ東京瓦斯會社ニ對シテ交涉ヲ開始セリト傳聞セリ、然ルニ世間傳フル所ニ據レバ、船田助役ハ、瓦斯料金ノ値下ゲヲ承諾セシムル交涉ヲ爲スト共ニ、一面ニ於テ壹億圓ノ增資ニ對シ暗々

裡ニ承諾ヲ與ヘタリトノ風說アリ、果シテ然ルヤ、今日市長選擧ノ直前ニ於テ、將ニ市長代理ノ職ヲ去ラントスル船田助役ヨリ、其眞相ヲ聞カントスルハ、今後市會ニ於テ瓦斯會社ニ對スル實行委員ヲ選定シ、決議ノ實行運動ヲ爲ス必要上等閑ニ附スル能ハザル問題ナリトス、冀クハ東京市ヲ去ル以前ニ於テ、玆ニ詳細ナル交涉經過ノ報告アランコトヲ望ムト述ブルヤ。**船田助役**ハ、本月十八日余ハ福井文書課長ト共ニ、東京瓦斯會社ヲ訪ヒ、鈴木常務外二名ニ面接シ、四月十日ノ本會議ニ於テ、滿場一致ヲ以テ決議シタル瓦斯料金ノ値下及計量器使用料廢止ガ屢〻問題トナリ、既ニ今日ニ至ルマデ數回ニ亙リテ之ガ決議ヲ見ルニ至リタル經過ヲ述ベ、其理由トシテ第一、石炭ノ時價ハ、大正八年瓦斯料金値上當時ニ比シ三割乃至三割五分程度ノ下落ヲ示シツヽアルヲ以テ、瓦斯料金ハ當然値下ヲ爲スヲ至當トス。第二、副生物ノ處分ニ就キ考慮ノ餘地ナキカ、副生物ハ今ヤ著シク其利用價値ヲ增大セルヲ以テ、料金ノ値下ニ依リテ失フ所ハ、副生物ノ收入ヲ以テ補フノ途アルベシ。第三、支出方面ニ於テ更ニ節約スルノ方法ナキカ、例令バ重役賞與ヲ減ジ、人件費及備品、消耗品費其他ノ節約ヲ圖リ、以テ料金値下ノ缺ヲ補フノ方法ナキニ非ザルベシ。第四、東京市ニ於ケル瓦斯ノ供給量ハ、他ノ都市ニ比シ頗ル多量ナリ、即チ多量ノ生產ニ依リテ其單價ヲ低減スルコトハ、一般生產工場ト異ル所ナキ筈ナリ、此點ニ就テモ充分値下ノ餘地アリト認ム。第五、瓦斯會社ハ大正十二年下半期ニ於テ、二分減ノ七分配當ヲ爲シタルモ、右ハ唯一回ニ止マリ、次期ニ於テハ直チニ從前ノ九分配當ニ復歸セリ、是レ明カニ大震災ノ打擊ノ少カリシヲ立證スルモノト認ム。故ニ是等ノ事情モ料金値下ノ消極的理由ナルベシ等ノ事實ヲ列擧シテ値下ノ交涉ヲ爲シ、更ニ瓦斯計量器ハ、宛モ東京市民ヨリ米ヲ計ル桝ノ代金ヲ徵收スルニ等キモノナルニ依リ、當然會社ノ負擔スベキモノニシテ需要者タル市民ノ負擔スベキモノニアラズ等ノ理由ヲ縷陳シテ、親シク瓦斯會社ノ考慮ヲ要求セリ。然ルニ鈴木常務ハ幸ヒ明十九日重役會開會ノ筈ナルヲ以テ、其席上御來意ノ趣旨ヲ報告シテ協議ヲ遂ゲ、何分ノ返答ヲ爲スベシト約シタリ、其後鈴木常務ハ再度本市ヲ訪問サレタルモ、生憎余ト行違ヒ、遂ニ面會ノ機ヲ逸シタルヲ以テ、更ニ鈴木常務ニ電話シ、回答ノ內容ヲ質シタルニ、重役會ニ於テハ、市ノ申出デニ對シテハ各自愼重ニ考究セシモ、本問題ハ會社存立上極メテ重大ナル關係アルニ依リ、充分調査研究ヲ遂ゲ、來ル二十六日ノ總會ニ諮リ、其結果ヲ東京市ニ回答スルコトニ決定セリトノコトナリキ。即チ會社トノ交涉ノ經過ハ大要以上ノ如クナルモ、料金値下ニ關シ增資ヲ承認スルガ如キ口吻ヲ漏ラシタリ云々ノ點ニ就テハ、何等話題ニ上ラザリシコトヲ明言スト答辯セリ。此時**森君**再ビ問ウテ曰ク、助役ノ要求シタル値下ノ理由中、脫漏セル事項アリ、大正八年契約當時ノ瓦斯熱量ハ五千五百「カロリー」ニ減ジ居レリト云フ、果シテ然ラバ、事實上明カニ二千「カロリー」ヲ減ジツヽアルヲ以テ、其價格ニ相當スル參拾錢ノ料金ヲ値下ゲスベキ理由アリト信ズ、助役ハ其點ニ就キ交涉ヲ爲サヾリシヤ如何。又昨年十二月十九日ノ市參事會ニ於テ、一議員ヨリ瓦斯ノ熱量ガ斯クノ如ク變化シツヽアルハ、需要者タル市民ノ默視スル能ハザル所ナルヲ以テ、市內數箇所ニ瓦斯試驗所ヲ設置シテハ如何トノ質問アリシ際、船田助役ハ之ガ實現ニ努力スベシト答辯セリトノ傳聞セルガ、昭和四年度豫算中、其費用ヲ計上セザル理由如何ト。**船田助役**ハ、「カロリー」ニ關シテハ、目下尙調査中ニシテ、去十八日余ガ瓦斯會社ヲ訪問シタル當時ニ在リテハ、未ダ確信ヲ有セザリシ爲、本問題ニ就テハ何等言及スル所ナカリシモ、全然之ヲ度外シタルニハ非ズ、何レ調査ノ完了ト共ニ書面ヲ以テ交涉スベシ、又瓦斯試驗所ノ設置問題ハ、當時文書課ガ余ノ**主管**ニ屬セザリシガ爲、全ク余ノ記憶ニ存セザルヲ以テ、何レ調査ノ上返答スベシト答辯シタリ。

▽瓦斯報償契約ニ關スル質疑應答

四月三十日ノ會議ニ於テ、**糟谷磯平君**ハ、昭和三年度下半期貸借對照表中製造

費ニ關スル件及興業費竝銀行預金ノ償却ニ關スル件、昭和三年度ニ於ケル復興局竝復興事業局ヨリ東京瓦斯會社ニ補償シタル總額何程ナリヤニ關シ問ウテ曰ク、瓦斯會社ノ昭和三年下半期決算ニ就キ調査スル所ニ據レバ、七八百萬圓ノ剩餘金ガ「バランス」面ニ現レ居ラズ、即チ收入方面ニ於テハ瓦斯收入ノ千九拾七萬七千百貳拾七圓四錢、瓦斯以外副生物收入參百拾六萬參千參拾參圓貳拾參錢、雜收入百貳拾九萬八千七百七拾貳圓九拾貳錢壹厘、製造費利益參萬四千五百參拾五圓五拾八錢九厘、合計千五百四拾七萬參千四百六拾八圓ニシテ、支出ニ於テハ、製造費六百五拾萬七千四百參拾七圓七拾壹錢壹厘、供給費八拾貳萬壹千四百九拾五圓拾四錢六厘、修繕費九拾壹萬六千六百貳拾七圓五拾六錢壹厘、總係費百拾六萬五千參百五拾八圓九拾壹錢壹厘、社債利子九萬九千參百五拾六圓五拾參錢、瓦斯買入代金四拾五萬六千五百九拾參圓參拾七錢、興業費償却八拾八萬八千參百拾九圓五拾參錢五厘、渡邊銀行其他ノ缺損償却貳拾參萬參千九百六拾五圓七拾七錢六厘、合計千貳拾六萬六千貳百八拾五圓四拾四錢ナルガ、此外ニ差引キタル利益四百貳拾萬七千百八拾參圓參拾四錢、右ニ對スル市ノ納入金貳拾七萬貳千貳百參拾壹圓アリ、其他ノ費途ニ就テハ暫ク之ヲ省略スルモ、興業費償却ノ八拾八萬餘圓ト、渡邊銀行ノ缺損償却貳拾參萬參千餘圓トハ損益計算ヨリ脫落シ、更ニ復興局及東京市ヨリ瓦斯鐵管ノ移讓其他ニ對シテ補償セル金額ハ全然之ヲ計上セズ、又「メートル」ノ金額モ見當ラズ。次ニ製造費ニ就テ見ルニ、右ハ全部石炭代ナルガ如キモ、本期ニ於テハ實ニ二十三萬五千九百五十二噸ノ石炭ヲ購入シ居レルガ、其單價ハ一噸當リ貳拾七圓五拾七錢、一萬斤當リ百六拾五圓餘ノ高價トナリ居レリ、以上ノ事實ハ悉ク市理事者ガ其實際ヲ知リテ承認シタルモノナリヤ否ヤ。更ニ神奈川コークス會社ハ「コークス」ノ販賣ガ目的ナルニ拘ラズ、瓦斯會社ハ同會社ヨリ前期ニ於テ四億五千八十四萬五千八百立方呎ノ瓦斯ヲ購入セリ、而シテ其購入價格ハ千立方呎壹圓壹錢五厘ノ割合ニシテ、此總代金四拾五萬六千五百九拾參圓九拾錢ニ上レリ。次ニ瓦斯會社ノ興業費ハ八千百六拾五萬五千貳百拾九圓貳拾七錢ト表示シアルモ、余ノ調査シタル所ニ據レバ壹億圓以上ニ達ス、而モ之ガ半期ニ於ケル償却ハ八拾八萬八千餘圓ニ上レルニ拘ラズ、會社ハ之ヲ損益計算ヨリ脫漏セリ、以上ノ數字ガ東京市ニ及ス影響ニ關シ、理事者ハ之ヲ如何ニ考フルヤ。尙瓦斯會社ノ三年度下半期決算報告ニ徵スルニ、會社ハ四十七億八千百二十四萬七百呎ノ瓦斯ヲ製造スル外、別ニ神奈川コークス會社ヨリ四億五千八十四萬五千八百立方呎ノ瓦斯ヲ購入セルヲ以テ、其合計ハ五十二億三千二百八萬六千五百立方呎トナル、而シテ其內會社ガ賣却セル數量ハ四十四億六千九百九十四萬千百五十立方呎ナルガ故ニ、差引七億六千二百三十四萬五千三百五十立方呎ノ瓦斯ガ未拂ヒトナル勘定ナルニ拘ラズ、考課狀ニハ該數字ヲ脫落セリ、今之ヲ千立方呎貳圓貳拾五錢ノ賣價ニ換算スレバ、一年ノ金額ハ百七拾壹萬五千貳百七拾七圓ニ達ス、更ニ「コークス」ノ製造ニ就キ大正八年ニ比較スレバ、同年ニハ四十七億千五百五十三萬五千立方呎ノ瓦斯ヲ製造シ、二十二萬七千八十二噸ノ「コークス」ヲ造リ、七萬八千六十二石ノ「タール」ヲ製造セリ、然ルニ昭和三年下半期ノ報告ヲ見ルニ、瓦斯ニ於テ四十七億八千百二十四萬七百立方呎ヲ製造シ、大正八年度ニ比シ、六千五百七十萬五千七百立方呎ノ增加ヲ表ハシ、反對ニ「コークス」ニ於テ六萬三千六百三十一噸、「タール」ニ於テ一萬七十二石ノ不足ヲ生ジツヽアリ。而モ右ノ中「コークス」ニ對スル瓦斯會社ノ評價ニ從ツテ計算スレバ、「コークス」一噸當リ拾七圓ト見ルモ百八萬貳千餘圓ニ達スル次第ナルガ、右金額ノ行衞ハ不明ナリ、更ニ石炭ノ製造費ニ六百五拾萬七千四百參拾七圓七拾壹錢壹厘ヲ支拂ヘルガ、今之ガ工費ヲ時價貳拾圓ト豫算スルモ半期ニ四百七拾壹萬九千四拾圓トナリ、其差額ハ半期間ニ百七拾八萬八千圓ナルガ故ニ、一年間ニハ三百五拾七萬六千圓トナル、次ニ神奈川コークスヨリ購入スル貳拾參萬六千圓餘、興業費償却ノ半期八拾八萬圓一箇年百七拾七萬六千六百圓、之レニ渡邊銀行ノ一年間ノ損益計算四拾六萬七千九百餘圓、更ニ瓦斯會社ガ未供給手持七億

訳ノ價格百七拾壹萬五千貳百七拾七圓餘、「コークス」ノ不足百八萬圓、之等ノ數字ヲ合計シタル八百八拾五萬貳千七百五拾七圓ト云フ大金ノ行衞ガ判明セズ、理事者ハ何故ニ今日迄之ヲ調査セザリシカ、以上列擧セル事項ニ就テハ、能フ限リ詳細ニ答辯アリタシト質スヤ。**大里常弘君**（主計課長）ハ、詳細ナル數字ヲ列擧セル具體的質問ナルモ、只今生憎材料ノ持合セナキヲ以テ、判明セル事實ニ就テ答辯シ、夫レ以外ニ亙ル分ハ、一々數字ヲ擧ゲ書面ニ依リテ答辯スベシ、第一石炭ノ一噸當リ貳拾七圓ハ高價ニ失セズヤトノ質問ナルガ、右ハ余モ亦之ヲ認ム、併シナガラ此製造費六百五拾萬七千圓中ニハ給料、雜給、材料費、運搬費、副生物製造費等ノ貳百四拾四萬參千圓ヲ包含ス、從ツテ之等ヲ差引キタル殘額四百六萬四千圓ガ石炭ノ代價トナル勘定ナリ、故ニ石炭ノ消費量二十三萬五千噸ニ割當ツレバ、一噸當リ拾七圓貳拾貳錢トナルヲ以テ、不當ニ高價ナリト云フ能ハズ、次ニ興業費償却ニ充當スル缺損ニ就テハ、市ト會社トノ間ニ交換セル覺書第七項ニ、『契約第八條ノ總損金中ニハ從前ノ通リ原價償却金ヲ包含スルコトヲ得』トアルヲ以テ、興業費ノ償却ハ、即チ原價償却ト認ムルヲ至當トスベキガ故ニ、會社ノ計算方法ハ敢テ不當ニ非ズト信ズルモ、尚充分研究スベシ、更ニ渡邊銀行ノ預金ハ回收不能ナルガ、之ヲ以テ直チニ損金ト爲スハ不當ナリトノ質問ナルモ、右ハ專ラ議論ノ存スル所ニシテ、稅務官廳ニ於テモ同樣ニ之ヲ以テ損金ト計算セリ、從ツテ市ニ於テモ同樣ノ見解ヲ下セルガ、萬一將來ニ於テ之ガ回收ヲ見タル場合、東京市ハ右ニ對シテ公納金ヲ課スルヲ至當ナリト考フト答辯セリ。然ルニ**糟谷君**ハ、只今ノ答辯ハ餘リニ簡單ニシテ明瞭ヲ缺クコト甚シ、然レドモ詳細ハ後日ノ書面ニ依ル答辯ニ待ツトシテ、瓦斯會社ニ支拂ヒタル百七拾壹萬圓及「メートル」ノ代金ヲ倶ニ計上セザルハ何故ナリヤ、此點篤ト調査アランコトヲ望ム。要スルニ瓦斯會社ノ計算ハ頗ル杜撰ヲ極メ、信ヲ措クニ足ラズ、斯ル會社ガ今回更ニ增資ヲ計畫シツヽアルハ危險千萬ト云フベク、殊ニ增資ノ結果ハ、一部大株主ニ多大ノ利益ヲ供與スルコトヽナルガ、斯クシテ行詰リタル場合、東京市ニ買收セシメントノ魂膽ナランモ、考課狀ニ無責任ナル數字ヲ羅列シ、市ノ納入金ヲ瞞着セントスルガ如キ會社ニ對シテハ、東京市トシテハ斷然增資ヲ否決シ、一擧ニ之ヲ買收スルヲ得策トスベシ、何レニセヨ、信ヲ措クニ足ラザル瓦斯會社ノ計算ニ對シテハ、將來ノ爲嚴重調査ノ上答辯アランコトヲ望ムト述ベテ質問ヲ打切リタルガ、右ニ對スル書面ニ依ル答辯書ハ六月二十八日ノ會議ニ報告サレタリ、即チ左ノ如シ。

議員糟谷磯平君ノ質問ニ對スル答辯書

一、製造費中人件費ニ關スル事項　五七一、三〇七、六四〇厘

製造費中ニ包含セル人件費左ノ如シ

給料　五一、九七二、一二〇

製造所ニ屬スル使用人給料

雜給　一四四、五六四、三二〇

同上人夫賃其他臨時雇傭費

手當　七六七、八四四、〇八〇

前二項ニ對スル賞與竝手當金

合計　一六五、七九七、六四〇厘

而シテ前記人件費以外ノ經費ニシテ本科目ニ計入セルモノ、內譯左ノ如シ（石炭代ハ前回答辯通四、〇六四、一二二圓九八錢）

材料コークス　五二一

昭和年間　第參章　昭和四年　第八節　瓦斯問題

材料重油	三九、七七〇、五〇一
炙坩燃料其他材料	一、二〇〇、〇九一、五八八
運搬費	九三、三七五、〇四〇
副生物抽出費	一一一、五三九、五八五
製造所用消耗品費	四〇、六九九、四二二
同上通信費	二、〇二五、七二〇
同上雜費	二二、一七一、一五五
合計	一、六七五、四七〇、六五一

二、興業費償却ニ關スル事項

昭和三年下半期ニ於ケル興業費償却ノ計算基礎左ノ如シ

	減價償却	缺損償却	合計
	円	円	円
建物	六八、八六九、八四八	二、九三九、〇〇〇	七一、八〇八、八四八
機械	一八九、八一九、三三〇	七九、四九五、三五五	二六九、三一四、六八五
什器	三一、五七五、八四二	二六九、二二〇	三一、八四五、〇六二
導管	—	一八五、〇二三、九七四	一八五、〇二三、九七四
街燈	—	二九二、〇八二	二九二、〇八二
貸付器具（計量器）	—	三一五、八八五、五三一	三一五、八八五、五三一
雜件	一二、五五四、一二三	一、五九五、二三〇	一四、一四九、三五三
合計	三〇二、八一九、一四三	五八五、五〇〇、三九二	八八八、三一九、五三五

前記缺損償却ハ當期中ニ於テ建物機械等ニシテ使用ニ堪ヘザルモノ、取毀チヲ爲シタルモノ又ハ不良導管、計量器ノ撤去ニ依リ各資產ノ記帳價格ト殘骸價格トノ差額ヲ償却シタルモノナリ減價償却ハ資產中前述理由ニ依リ近ク改造若ハ取毀チヲ爲スベキモノニ對シ其ノ缺損ヲ補フ目的ヲ以テ各資產毎ニ現實減價ノ範圍內ニ於テ其ノ價格ヲ切下タルモノナリ

三、渡邊銀行預金ノ償却ニ關スル事項

東京渡邊銀行預金ハ破產債權ニシテ之ガ金額ノ回收ハ殆ンド豫測シ難キ現狀ニ在リテ若シ之ニ對シ破產終結ヲ俟テ整理スルトセバ一時ニ其ノ全額ノ償却ヲ爲サヾル可カラザル結果トナルヲ以テ之ガ爲受クル損失ヲ緩和スル方法トシテ昭和三年ヨリ五ケ年間ニ之ヲ償却スル豫定ヲ以テ本事業ノ年度ニ於テ貳拾萬圓ヲ償却シタルモノナリ固ヨリ斯ル方法ノ可否ハ理論上考究ノ餘地アルモ會計整理上常ニ用ヒラルヽ例ニシテ一般貸倒金ノ整理ト異ル處ナキニ依リ之ヲ契約第八條ニ所謂總損金トシテ認容スルノ外ナク又假令該償却ヲ損失トシテ支出セズ既往ノ積立金ヲ以テ償却スル方法ニ依ル場合ニ於テモ既往ノ積立金ハ總テ公納金ヲ納付シタルモノノ殘額ナルヲ以テ之ガ支出ト雖モ契約上總損金ト認メラルヽ支出ニ充當シタル場合ハ其ノ期ノ總損金ニ加算スルヲ相當トスルヲ以テ報償金算定上ニ於テハ同樣ノ結果トナル可シ而シテ將來ニ於テ償却殘額以上ノ回收アリタルトキハ其ノ差額ハ當然更ニ利益ニ組入レラルヽモノナリ

▽**瓦斯事業ノ根本方針ニ對スル質疑應答**　五月二十三日ノ會議ニ於テ、**森原嘉逸君**ハ、瓦斯會社ハ單純ナル營利會社ニ非ズシテ市民ノ必需品ヲ供給スル公益事業ナルガ故ニ、ソノ本質ヨリ云ヘバ、公營トスルカ、然ラズンバ半公半民ノ事業ト爲スヲ至當トス、然ルニ現在ノ瓦斯會社ハ、明治十八年東京府ノ瓦斯局ヲ廢シテ民間ニ拂下ゲ、玆ニ完

全ナル營利會社トシテ創立ヲ見ルニ至リタルモノナルガ、當時會社ニ移讓スルニ當リ、無條件ヲ以テシタル事ガ抑〻誤リノ發端ナリシナリ、併シナガラ明治四十四年、同會社ガ資本金千七百萬圓ヲ公稱スルニ至リタル時、東京市ト瓦斯報償契約ヲ締結シ、一面市民ノ利益ヲ圖ルト共ニ、會社ニ對シテモ亦一定ノ配當ヲ爲サシメ、社業ノ安泰ヲ確保シ、兩者ノ間ニ紛爭等ノ事ナキ樣誓約シテ、玆ニ始メテ公益的事業トナルニ至リシナリ。從ツテ該報償契約ハ市民ニ對シテハ公正ナル標準ヲ示シタルモノト謂フ可シ。然ルニ爾來今日ニ至ルマデ、親シク會社ノ爲ス所ヲ見ルニ、大正八年ニ於テハ、不正ナル手段ニ依リテ約三割ニ相當スル五拾錢ノ値上ヲ强行シ、尋デ道路法ノ發布サルヽヤ、好機逸スベカラズト爲シ、報償契約ハ無效ナリトシテ之ヲ法廷ニ提訴シタリ、是レ明ニ會社ガ公益的精神ヲ無視シ、自己ノ營利ノ爲ニ不便ナル報償契約ノ桎梏ヨリ免レントスル非法ノ手段ナリトス。然ルニ該訴訟ハ遂ニ大審院ノ破棄スル所トナリタルガ、破棄ノ理由ガ會社ニ極メテ不利ナリシ爲、再度ノ控訴審ニ於テ勝算ナシト認ムルヤ、大正十四年ニ至リ、今度ハ東京市ノ承諾ヲ得ズシテ千貳百萬圓ノ社債募集ヲ決行シタリ、加之、大正十五年ニ至リテハ、當時四千五百萬圓ノ資本ヲ、一躍壹億圓ニ增資スルノ件ヲ東京市ニ提案シ來レリ、而シテ其增資ノ理由ナルモノヲ見ルニ、市內ニ於テ瓦斯供給ノ不充分ナル本所及深川方面ニ對シ、之ガ充實ヲ期センガ爲ニ、是非トモ增資ノ必要アリト云フニ在リ。玆ニ於テ市會ハ全ク無條件ニ之ヲ承認シタルモ、爾來會社ノ爲ス所ヲ見ルニ、本所深川ハ細民ノ多キ結果、瓦斯ノ需要少キヲ以テ、專ラ住宅地トシテ發展シツヽアル市外ノ郡部ニ對シテ力ヲ注ギ、本所深川共ニ實際ニ於テハ今尙完全ナル供給ヲ爲サヾル現狀ニ在リ。斯クノ如ク自己ノ利益ノ爲ニハ、有ユルモノヲ犧牲トナシ、市ノ公約ノ如キハ無視シテ之ヲ顧ミズ、甚シキニ至リテハ、一昨年二月ノ如キ、報償契約改訂案ヲ提出シ來リテ、配當制限ヲ撤廢シ、取リ得ル限リ重役賞與金ヲ取ラントスル行動ニ出デタルガ、右ハ幸ヒニシテ本會ノ否決スル所トナリ、彼等ノ慾望ヲ

阻止スルニ至リタルモ、引續ク增資計畫ニ於テハ、所謂「プレミアム」ヲ取得シ、他面報償契約ニ依リ利得セントシテ失敗シタル考課狀ノ所謂特別積立金、即チ過剩金ヲ私センコトヲ企圖セルニ非ズヤ、由來過剩金ナルモノハ、大正八年ノ覺書ニ據レバ、東京市民ノ金ト云フモ過言ニ非ザルナリ、即チ年額九分以上ノ配當ヲ爲シタル過剩金ハ、ソノ全部ヲ需要者タル市民ニ割戻スベキ約束ト見做サヾルベカラズシテ、斷ジテ會社及重役ノ私スベキモノニ非ザルナリ。以上ノ如ク會社ハ事毎ニ市ノ承認ヲ要スルモノヲモ獨斷專行シ、契約ニ基イテ決議セル東京市會ノ要求ニモ應ゼズ、甚シキニ至リテハ全然市會ヲ無視シテ社債ノ募集ヲ斷行セルガ如キ、遺憾ノ點擧ゲテ數フ可ラズ、理事者ハ報償契約ヲ勵行セシムル爲ニ、如何ナル考ヲ有セリヤ。次ニ明治四十四年壹千七百萬圓ノ資本ヲ以テ經營シツヽアリシ會社ガ、順次ニ資本ヲ增加シ、大正十五年春ニ於テハ四千五百萬圓ノ資本ヲ壹億圓ニ增資シ、今又此壹億圓ヲ三倍ノ參億圓ニ增資セントス、無謀モ亦極レリト謂フ可シ。一昨年瓦斯報償契約改訂問題當時、會社ノ請願書中ニハ、會社ハ冒險的ニ五千五百萬圓ノ增資ヲ決行シタリ、然ルニ幸ニシテ株主ハ之ニ應募シタルモ、報償契約ニ明記セル「スライデイング、スケール」ニ則ル配當標準及大正八年ノ覺書ニ記載セル配當制限アルガ爲、株主ノ失望少カラズ、故ニ是非トモ之ヲ改訂サレタシトアリ、然ルニ今回壹億ヲ貳億ニ增資セントスル會社ハ、更ニヨリ以上ノ冒險ヲ感ズルナキカ、余ハ重役諸君ノ心理狀態ヲ疑ハザルヲ得ズ、市長及理事者ハ今回ノ增資ヲ以テ無謀ニシテ冒險的ナリトハ思惟セザルヤ。次ニ會社ノ經營方法ニ關シ勘カラザル不審ノ點アリ、即チ「メートル」ノ買入方法等モ其一ナルガ、殊ニ石炭ノ如キ時價ハ下落シツヽアルニ拘ラズ、依然トシテ高價ナル石炭ヲ買入レ、「コークス」ノ販賣ニ就テハ俗ニ所謂「トンネル會社」ヲ創立シテ表面ヲ糊塗セリ、今仔細ニ是等ノ內容ヲ檢討スルナラバ、彼ノ積立金即チ市民ガ會社ヨリ割戻ヲ受クベキ考課狀面ノ數百萬圓以外、更ニ幾多ノ利益アル事想像ニ難カラザルナリ。又會社ハ前陳ノ如ク本所深川

ニ供給ストノ口實ノ下ニ增資シナガラ、實際ニ於テハ該方面ハ其儘放置シ、郡部住宅地ノ全般ニ亘リテ無料引込ミノ擴張策ヲ講ジ居レリ、殊ニ最モ甚シキハ、嘗テ參百數十圓ノ瓦斯引込料ヲ徵收シタル家屋ノ隣家ニ對シ、全ク無料ニテ引込工事ヲ行フ等ノ暴擧ヲ敢テシツヽアリ、右ハ郡部方面ニ競爭會社ノ創立サルヽコトヲ恐ルヽノ結果ナルコト明白ナルガ、他面ニ於テハ更ニ郡部各町村ニ對シテモ、東京市ト同樣報償契約ヲ締結センコトヲ慫慂シ、各町村ヨリ反對サレタル事實アリ、斯クノ如ク會社ハ當然東京市民ニ拂戻スベキ過剩金ヲ郡部方面ニ振向ケ、以テ獨占事業ノ橫暴ヲ極メツヽアリ、理事者ハ會社ノ斯ル放縱散漫ナル事實ヲ調査シタルコトアリヤ如何。最後ニ會社ノ行動ニ對シ、市民トシテ看過スベカラザル一事ヲ質スノ要アリ、市長ハ瓦斯會社ノ增資問題ニ關シ、意見ヲ徵セラレタル由ナルガ、ソノ內容果シテ如何、道途傳フル所ニ據レバ、東京市會ガ瓦斯ノ增資ヲ承認セザル場合、會社ハ商工大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ決行スベシト云フニ非ズヤ。最モ右ニ就テハ商工當局ノ談トシテ、新聞紙上ニハ事實ニアラズト否定シタル記事ノ揭載セルヲ見タルモ、玆ニ解シ難キ一事ハ、兜町ニ於ケル株式市場ニ在リテ、既ニ增資新株ノ權利賣買ヲ行ヒタル事實ナリトス、右ハ商工當局ノ聞知スル所トナリ、遂ニ之ガ禁止ヲ命ゼラレタル由ナルモ、現ニ定期株式市場ニ於テ、七月受渡ノ瓦斯株ニ五圓ノ開キアリ、這ハ世間ニ所謂配當落ト稱スルモノナルコト疑フノ餘地ナシ、確ナル方面ヨリ聞ク所ニ據レバ、始メ株式取引所ガ、取引株ヲ揭示スルニ際リテハ、配當落ト新株落トヲ、丸ト三角ノ記號ニ依リ表示スト云フガ、橫暴ナル瓦斯會社ハ、未ダ東京市ノ承認ヲ經ズ、商工省ノ認可ナキニモ拘ラズ、既ニ之ガ成立ヲ見タルガ如ク裝ヒ、配當落ノ外ニ新株落即チ新株ヲ占有スル權利ガ六月ヲ以テ決濟サルベシトノ豫想ノ下ニ取引サレタル事實アルハ、亂暴トモ無法トモ評スルノ辭ナシ、是等ノ諸點ヲ綜合シテ考フル時、商工大臣ニ徵セラレタル市長ノ意見ヲ聞クコトハ、最モ重要ナル意義ヲ有スト謂フ可シ。**堀切市長**ハ、

報償契約ニ就テハ飽迄モ之ヲ勵行スル建前ヲ以テ進ミツヽアリ、萬一之ニ違反スルガ如キコトアラバ、適當ナル措置ヲ執ルコト勿論ナリトス。次ニ增資問題ニ就テハ、成ルベク早ク調査ヲ完了シ、速ニ市會ニ提案シテ審議ヲ請フ樣努力スベク、更ニ郡部ニ對スル無料引込ノ件ニ就テハ、唯今材料ヲ有セザルヲ以テ、何レ調査ヲ遂ゲタル上答辯スベシ、最後ニ商工大臣ニ對シテハ未ダ意見モ開陳セズ、又意向ヲ聞キタル事實モナク、理事者トシテハ未ダ其時機ニ非ラズト考ヘ居レリト答辯セリ。

▽東京瓦斯株式會社資本增加ニ關スル件　本案ハ六月十九日ノ會議ニ上程サレタリ。

第五十一號

東京瓦斯株式會社資本增加ニ關スル件

昭和四年五月十日附東京瓦斯株式會社申請ニ係ル同社資本金壹億圓增加ノ件ハ之ヲ承認セサルモノトス

說明　東京瓦斯株式會社ヨリ報償契約第十二條ニ依リ資本金壹億圓增加ノ承認ヲ申請シ來リタルモ現在ニ於ケル金融ノ狀況竝同社營業ノ狀態ヨリシテ此際資本ノ增加ハ適當ナラスト認ムルヲ以テ本案ヲ提出ス。

右ニ就キ**堀切市長**ハ、東京瓦斯會社ヨリ五月十日附ヲ以テ、報償契約第十二條ニ依リ、現在ノ資本金壹億圓ヲ、更ニ壹億圓增資シテ貳億圓ト爲スノ件ヲ承認サレタシト申請シ來レルヲ以テ、篤トソノ內容ヲ調査シタルニ、增資額壹億圓中五千七百參拾五萬餘圓ハ、既ニ決定セル擴張計畫事業ノ資金ニ充當シ、殘リノ四千貳百六拾四萬餘圓ハ、昭和八年度以降ニ要スル見込額ニシテ、今日ニ於テハ計畫未定ニ屬スル部分ナリトス、而シテ右計畫決定ノ事業ニ充當スベキ五千七百參拾五萬餘圓ノ內參千五百貳拾九萬餘圓ハ、昭和五年乃至昭和七年ニ要スル新規計畫ノ資金ニシテ、殘額貳千貳百五萬餘圓ハ、曩ノ擴張計畫ヲ實施スルニ當リテ生ジタル不足額ナリ、此不足額ニ對スル會社ノ申出趣旨ニ據

レバ、右ハ昭和四年中ニ必要トスル資金ニシテ、大正十五年ノ增資申請ノ際、ソノ當初ニ於テ既ニ千百八拾萬餘圓ノ不足ヲ見込ミ、當時會社ハ該不足額ハ社債又ハ借入金ヲ以テ充當シ、徐々ニ適當ノ處置ヲ執ルベシト說明シ居レリ。故ニ會社ハ其言明ニ從ヒ、右不足金額ハ社債又ハ借入金ヲ以テ充當スベキモノニシテ、今日ノ金融狀態ヨリ考フルモ、一層ソノ然ル所以ヲ發見スル次第ナリ、又昭和五年以降ニ於テ必要ナル資金、即チ參千五百貳拾九萬餘圓ニ關スル部分モ、會社ハ株式ノ拂込ニ依ラズ、現下金融界ノ狀態ニ鑑ミ、低利ナル社債ニ求メントスル意思アルヲ以テ、會社自身モ絕對ニ增資ヲ必要トスル迄ニハ考ヘ居ラズト認ムベキナリ。更ニ會社ハ其營業狀態ヨリ見テ、增資ニ依リ九歩ノ配當ヲ維持スルコトハ、經營上苦シキ立場ニ在リト述ベツヽアル點ヨリシテ、益々社債又ハ借入金ニ據ルヲ妥當ト考フルモノナリ。次ニ未定計畫ニ屬スル見込額四千貳百萬餘圓ノ如キハ、全ク增資ニ依ルノ必要ナシト認メザルヲ得ズ、是等ノ事情ヲ綜合スルニ、會社ノ申請ニ係ル資本ノ增加ハ、九朱ノ利益配當ヲ必要トスル結果、勢ヒ會社ノ負擔ヲ增加スルコトヽナルガ故ニ、社債又ハ借入金ニ依ル方法ト比較スルモ、現ニ東京市ガ要求シツヽアル瓦斯料金値下ノ可能性ヲ減殺スル點ヨリ考フルモ、又市ノ公納金ニ影響スル點ヨリ考慮スルモ、會社ハ宜シク社債若クハ借入金ニ依リテ事業ヲ遂行スルヲ適當トスベク、從ツテ會社申請ニ係ル資本增加ノ件ハ、承認スベカラザルモノト認メ、本案ヲ提出セリト述ブルヤ。**土倉宗明君**ヨリ、討論ヲ用ヰズ、即決可決ノ動議提出アリ、議長議場ニ之ヲ諮リ、異議ナカリシヲ以テ、滿場一致之ヲ可決セリ。

▽**瓦斯問題ニ關スル調査委員設置ノ建議案**　左案ハ、六月十九日ノ會議ニ上程サレタリ。

瓦斯問題ニ關スル調査委員設置ノ建議

右提出候也

昭和四年六月十九日

提出者　全議員連署

瓦斯問題ニ關スル調査委員設置ノ決議

曩ニ本市會ハ滿場一致ヲ以テ瓦斯料金ノ値下ト計量器使用料ノ撤廢ヲ議決シタリ此ノ決議ニ基キ市當局ノナセル交涉ニ對シ東京瓦斯株式會社ハ其ノ事業ノ性質公共的ニシテ而カモ獨占營業ノ好立場ニ在ルニ拘ハラス徒ラニ强辯ヲ弄シ總テ之ヲ拒否シ專ラ自己ノ利益ヲ擁護スルニ急ナルハ斷シテ誠意アルモノト謂フヘカラス仍テ本會ハ此際全市民ノ利益擁護ノ見地ヨリ本問題ニ關スル根本的解決ノ方法ヲ講センカ爲メ本會ニ之カ調査委員二十一名(議長指名)ヲ設置スルモノトス

右決議ス

右ニ就キ**土倉宗明君**ヨリ、本案モ說明ヲ用ヰズ即決可決スベシトノ動議ヲ提出アリ、滿場異議ナク之ヲ可決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

北條彦四郎　高橋義次　島中雄三　大野傳吉　高橋庄之助
精谷磯平　古島宮次郎　和田操　大神田軍治　高橋秀臣
森原嘉逸　岡田四郎　森富太　山田保　寺部賴助
本多市郎　河村慶治郎　深澤豐太郎　國枝捨次郎　笠井重治
八太茂

斯クテ委員ハ**高橋秀臣君**ヲ委員長ニ推シ、爾來愼重ニ調査ヲ重ネ、同五年十一月二十日ニハ日比谷公會堂ニ於テ瓦斯

料金値下ニ關スル市民大會ヲ開キ、越エテ昭和七年七月二十八日ノ會議ニ於テ、**高橋委員長**ヨリ左ノ如キ中間報告アリタリ。

昭和三年十二月二十一日、吾ガ東京市會ハ不幸ニシテ解散ヲ命ゼラレタリ、然ルニ昭和四年春市會ハ新ニ成立シ、市民生活ノ安定ヲ圖ル意味ニ於テ、臺所ノ負擔ヲ輕減シ、市民ノ公益ヲ擁護スル意味ニ於テ、市政ヲ淨化シ、以テ東京市會ト東京市民トヲ煩ハス事甚シカリシ東京瓦斯會社ニ對スル瓦斯問題ノ根本的解決ヲ期シ、徹底的ニ其禍根ヲ絶ツノ要アリトシテ、瓦斯問題ニ關スル調査委員二十一名ノ選定ヲ見ルニ至レリ。而シテ不肖圖ラズモ其委員長ニ選バレタルガ、爾來委員會ヲ開クコト三十有五回、委員ハ何レモ瓦斯問題ハ東京市會ヲ中心トシテ、常ニ社會ノ注目ト疑惑ヲ惹キ、曾ニ市民ノ經濟生活ニ及ボス影響ノ大ナルノミナラズ、精神上ニ及ボス結果ノ重大ナルモノアルニ鑑ミ、極メテ公明正大ニ之ヲ取扱ヒ、飽迄モ公利公益ヲ信念トシテ調査スルノ要アリト爲シ、委員會ノ原則タル議員外ノ傍聽禁止ノ例ヲ破リ、開會毎ニ新聞記者諸君ニ傍聽ヲ公開シタリ。而シテ委員會ハ先ヅ三大決議ヲ行ツテ實行運動ニ着手シタルガ、其第一ハ瓦斯會社ノ壹億圓增資ニ反對ス、第二ハ瓦斯料金五拾錢以上ヲ値下セシム、第三ハ瓦斯計量器使用料ヲ撤廢セシムト云フニ在リ、而シテ以上ノ三大問題ハ、一見シテ事極メテ容易ナルガ如クナレドモ、事實ハ然ラズ、即チ吾々市會議員ハ、正義ノ行動ト清廉潔白ノ精神トヲ以テ本問題ニ臨ムニ拘ラズ、會社側ニ於テハ、策略ト宣傳トヲ唯一ノ武器トシ、幾多ノ關門ニ據リテ防禦スルガ故ニ、之レヲ拔クコト容易ノ業ニアラズ、剩ヘ瓦斯問題ハ、商工大臣ノ裁定竝發令ニ俟ツベキモノ尠カラザルヲ以テ、或ハ大臣ヲ說キ、或ハ係官タル其下僚ヲ說キ、以テ之ガ諒解ヲ得ザル可ラズ、然ルニ我國ノ大臣ノ任期ハ極メテ短ク、本調査委員設置以來今日ニ至ル間ニ於テ、內閣ノ更迭ヲ見ルコト五回ノ多キニ及ベリ、之ガ爲ニ折角前大

臣ノ諒解運動ニ奏效スルモ、新大臣ニ對シテハ、再ビ之ヲ繰リ返シテ諒解ヲ求ムルノ煩アリ、而モ新大臣ハ就任日尙淺キヲ以テ、藉スニ多少ノ時日ヲ以テサレタシト云フヲ常トシ、其進捗頗ル遲々タリ、更ニ漸クニシテ大臣ノ諒解ヲ得タリトスルモ、商工省ニハ別ニ瓦斯事業調査委員會ナルモノアリテ、該委員ノ承認ヲモ經ザルベカラズシテ、其手續ノ煩瑣ナル筆舌ノ盡ストコロニアラズ、一方明治四十四年十二月十一日尾崎市長時代ニ於テ、東京市ト瓦斯會社トノ間ニ締結サレタル報償契約ハ、三十箇年ノ有効期間ヲ存シ、現ニ其期間內ニ在リ、因テ決議ノ目的遂行上、幾多ノ難關ニ逢着シ、未ダ充分ノ成果ヲ擧グルニ至ラザルモ、第一ノ增資問題ハ、第一次ニ於テ先ヅ委員之ヲ否決シ、第二次ニ於テ市會亦之ヲ否決シタリ、然ルニ會社ハ瓦斯事業法ニ依リ、東京市トノ協調整ハザルヲ理由トシテ、商工大臣ニ裁定ヲ仰グノ擧ニ出デタルガ、商工省ニ於テハ、幸ニ東京市會ノ意見ヲ容レ、昭和四年十月二十五日瓦斯會社ノ壹億圓增資ハ之レヲ認メズトノ裁定ヲ下シ、遂ニ東京市會ノ勝利ニ歸シタリ。玆ニ於テ委員會ハ第二ノ決議タル瓦斯料金値下問題ニ對シテ行動ヲ開始セリ、即チ現在ノ瓦斯料金ハ歐洲大戰當時、石炭ノ暴騰ヲ理由トシテ、會社ヨリ東京市ニ對シ、料金値上ヲ申請シ來リタルニ依リ、審議ノ末、事情止ヲ得ザルモノト認メ、一千立方「フイート」壹圓七拾五錢ナリシモノヲ、更ニ五拾錢値上ノ件ヲ承認シタルガ、當時東京市ハ、特ニ石炭暴騰ノ事實ヲ認ムルガ故ニ、料金ノ値上ヲ承認スルモ、他日炭價下落ノ場合、會社ハ理由ナクシテ料金ノ値下ヲ拒ムコトヲ得ズトノ條件ヲ附シタリ、然ルニ今日炭價ハ著シク低落シ、會社ノ所謂値上ノ理由消滅セルニ因リ、市會ノ決議ヲ經テ五拾錢ノ値下ヲ要求シタリ、此場合、會社ハ何等之ヲ拒ムベキ理由ナキニ拘ラズ、言ヲ左右ニ託シテ應ゼズ、依テ委員會ハ一面會社ノ不法ヲ詰ルト共ニ、主務大臣ヲ訪問シテ料金値下ノ發令ヲ迫リ、更ニ市民大會ヲ開催シテ輿論ニ訴ヘ、之ガ目的貫徹ノ爲ニ努力シタリ、其結果値下ノ餘地ナシト

主張シツヽアリシ會社ハ、昭和六年七月一日ヨリ、一千立方「フィート」ニ付拾八錢ヲ値下スルノ件ヲ承諾セリ、然レドモ五拾錢値下ノ要求ニ對シ、僅々拾八錢ノ値下ハ甚ダ過少ナルヲ以テ、値下ノ交渉ハ今尚運動ノ手ヲ緩メズ、最後ノ目的ニ對シテ邁進シツヽアリ。越エテ昭和六年九月十五日、會社ハ商工省ニ對シ、再ビ五千萬圓ノ增資ヲ申請セリ、玆ニ於テ商工省ヨリ東京市ニ諮問シ來リタルヲ以テ、永田市長ハ市會ニ對シ、條件ヲ附シ增資ヲ承認スベシトノ提案ヲ爲シタレバ、市會ハ十五名ノ委員ヲ選定シ、審議ノ末市會ニ上程シテ、滿場一致之ヲ否決シ、商工省竝ニ會社ニ對シテ之ヲ通告シタリ、然ルニ商工省ハ市會ノ意思ヲ無視シ、遂ニ會社ニ對シテ增資ノ件ヲ認可セリ。更ニ昭和六年二月十四日、第五十九帝國議會ニ於テ瓦斯事業法改正法律案ノ提出アリ、當時余ハ衆議院議員トシテ本案ノ審査委員ニ選定サレタルヲ以テ、余ハ委員會ニ於テ本案ノ趣旨タル商工大臣ノ監督權ノ擴大ハ、必ズシモ不可ナリトセズ、然レドモ認可制度ヲ實施スル結果ハ、東京市對會社ノ報償契約ノ效力ヲ薄弱ナラシムル虞アルニ依リ、實施後ニ於テハ特ニ報償契約ノ精神ヲ尊重シ、必ズ市町村ノ意見ヲ徵スベシト主張シタルニ、當局ニ於テモ結局之ヲ認メ、本案ハ遂ニ議會ヲ通過シタリ、爾來之ガ實施ノ實情ニ照シ、報償契約ノ效力ハ頗ル薄弱トナリタル結果、一部ニ於テハ寧ロ報償契約ヲ破棄シテ、別ニ市民ノ利益ヲ增進スルノ方策ヲ講ズベシトノ說アルヲ以テ、之ガ法律上ノ根據ニ就キ檢討スルノ必要ヲ認メ、瓦斯問題調査委員會ニ法制部ヲ設ケ、委員高橋義次君ヲ部長トシテ目下專ラ研究調査中ニ屬ス。

其後東京市ハ昭和七年十月一日隣接五郡八十二箇町村ヲ合併シ、新ニ市會議員六十名ヲ增員シタルガ、昭和八年一月十六日ノ會議ニ於テ、篠房輔君ノ動議ニ依リ、新ニ選出サレタル市會議員中ヨリ瓦斯問題ニ關スル調査委員十四名ヲ增員スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

石原英明　角田光五郎　秋山文治　森俊成　有馬淺雄
山口久太郎　中村邦吉　田四郎平　有馬秀雄　歌橋憲一
石井良太郎　吉田丕文　布施泰治　遠山丙市

斯クテ本委員會ハ、昭和八年三月十六日市會議員ノ任期終了ト共ニ、自然消滅ニ歸セリ。

▽瓦斯料金値下其他ニ關スル決議案及意見書提出ノ建議　瓦斯問題ニ關スル調査委員高橋秀臣君外十九名ヨリ左ノ市會開會要求書提出アリタルニ因リ、七月十二日會議ヲ開ケリ。

東京市會開會要求書

一　東京瓦斯株式會社資本增加反對竝瓦斯料金値下及計量器使用料撤廢ニ關スル件

右事件ニ付來ル十二日午後四時市會開會相成度會議規則第八條ニ依リ此段請求候也

昭和四年七月九日

高橋秀臣　笠井重治　大神田軍治　八太茂
岡田四郎　森原嘉逸　古島宮次郎　高橋庄之助
森富太　本多市郎　高橋義次　島中雄三
和田操　北條彦四郎　大野傳吉　河村慶治郎
山田保　深澤豐太郎　糟谷磯平　國枝拾次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

斯クテ議事ニ入ルニ先チ、左ノ報告アリタリ。

財主發第一、〇七九號
本日東京瓦斯株式會社ヨリ別紙寫ノ通通知ニ接シ候ニ就テハ不取敢及御通知候也
昭和四年七月八日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

東京市長　堀切善次郎

（別紙）

曩ニ資本金增加之義ニ付御承認申請仕候處六月十九日附ヲ以テ御承認不相成趣御通知ニ接シ困惑仕候爾來愼重熟慮ノ結果一方瓦斯ノ普及、供給ノ圓滑、優良ナル「サーヴイス」ノ提供ヲ爲シテ需要家各位ノ滿足ヲ購ヒ以テ公共的眞使命ヲ達成スルニハ是非共資本ノ安定充足ヲ圖ル必要有之他方經濟界ノ現狀及將來ヲ達觀シテ資本ノ安定充足ヲ圖ルタメ一時ノ金利安ニ眩惑シ借金政策ニ據ルノ會社百年ノ長計ニアラスシテ增資ノ一日モ忽ニスヘカラサルヲ痛感スルニ到候仍テ折角ノ御決定ニ對シ從順ナラサル段重々遺憾至極ニ候得共時機ヲ失スル惧有之候間不得已本日ヲ以テ增資決行ノ事ニ取計候右不惡御諒悉被成下度謹テ此段上申仕候　拜具
昭和四年七月八日

東京瓦斯株式會社
常務取締役　鈴木寅彥

東京市長堀切善次郎殿

右報告ノ後、直チニ議事ニ入リ、左案ヲ上程セリ。

瓦斯料金値下其ノ他ニ關スル決議案

右提出候也
昭和四年七月十二日

提出者

堺利彥　中川重政　池田清秋　伊東美代松
增田知治雄　卯木國三郎　富岡袖吉　北條彥四郎
高橋義次　森健二　森衆道　島中雄三
溝口信　大野傳吉　馬島僩　倉持忠助
山田種三郎　高橋庄之助　柳田宗一郎　蓮江啓藏
糟谷磯平　古島宮次郎　川村正夫　小林半三郎
松浦清三郎　新居友三郎　和田操　安部利七
大神田軍治　森富太　森原嘉逸　小俣政一
中塚榮次郎　岡田四郎　山口久吉　高橋秀臣
長島武治　山田保　高木謙　本田義成
寺部賴助　大崎清作　新甫寬實　松永東
嶋名建　杉ノ原英太郎　岸邊福雄　鹽月學
結城禮一郎　島本龍太郎　桑原信助　渡龜造

詫摩武彦　本多市郎　茂木太市　河村慶治郎
小野養治　中西敏二　深澤豐太郎　阿部溫知
橋本信次郎　土倉宗明　國枝捨次郎　橋本祐幸
高崎高次郎　富田富治郎　和久利幾之助　羽田如雲
岡田和一郎　川手忠義　笠井重治　鈴木慶四郎
佐藤庄吾　友成四郎　八太茂　小澤佐重喜
加藤正信　福田勇

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

瓦斯料金値下其ノ他ニ關スル決議案

市當局ハ本年四月十日瓦斯料金値下及計量器使用料撤廢ニ關スル本會建議ノ趣旨竝同六月十九日資本增加拒否ノ議決ニ基キ此際全市民ノ利益擁護ノタメ左ノ手段ヲ採リ飽ク迄目的ノ達成ヲ期セラルヘシ

一　瓦斯事業法第十二條第三項ニ據リ瓦斯料金ハ一千立方呎ニ付金五拾錢以上ノ値下及計量器使用料撤廢ノ命令又ハ處分ヲ主務大臣ニ申請スルコト

一　同條第四項ニ據リ資本增加拒否ノ決議ヲ徹底セシムルタメ主務大臣ニ裁定ヲ申請スルコト

右決議ス

右ニ就キ森會太君ハ、本決議案ハ事理明白ニシテ何等論議ノ必要ナシト認ムルニ依リ即決可決センコトヲ望ムト述ベ。議長(溝口副議長)滿場ニ之ヲ諮リ、異議ナク之レヲ可決セリ。此時**燭切市長**發言ヲ求メ、理事者ハ決議ノ趣旨ニ基キ速ニ其手續ヲ運ブ可シト言明セリ、尋デ引續キ左案ヲ上程シタリ。

瓦斯料金値下其他ニ關スル意見書提出ノ建議

右提出候也

昭和四年七月十二日

提出者　（前決議案ト同一ニ付略ス）

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

瓦斯料金値下其他ニ關スル意見書

去ル大正七年東京瓦斯株式會社ハ本市トノ間ニ締結セル報償契約第六條第二項ニ基キ料金引上ニ關スル承認ヲ需メタルヲ以テ本市會ハ愼重審議ノ上翌八年九月三十日五項ノ條件ヲ附シテ之ニ承認ヲ與ヘタリ然ルニ其ノ後會社ヨリ要求セル値上ノ原因消滅セルヲ以テ本會ハ市民生活ノ狀況ニ鑑ミ大正十年八月及同十五年九月ノ兩度滿場一致ヲ以テ料金ノ引下ヲ建議シ理事者ヲシテ之カ遂行ニ當ラシメ大ニ督勵スル所アリタルモ容易ニ其ノ實現ヲ見ルコト能ハサリシヲ以テ本年四月十日三度料金ノ引下ヲ建議シ尙計量器ノ使用料ヲ需用者ニ課スルハ不合理ナリト認メ之カ廢止ヲモ併セテ決議シ理事者ヲシテ折衝セシメタルニ會社ハ六月十五日ニ至リ全然之ヲ拒否セルノミナラス却テ資本金壹億圓增加ノ承認ヲ要求シ來レリ之ニ對シ本會ハ現在ニ於ケル金融ノ狀況竝同社業態ノ狀況ヨリ推シテ之ヲ不適當ナリト認メ六月十九日滿場一致ヲ以テ其ノ要求拒否ヲ議決シタリ然ルニ會社ハ本會ノ決議ヲ無視シ敢テ資本ノ增加ヲ斷行セントス斯ノ如キハ本市トノ間ニ嚴トシテ存スル報償契約ヲ蹂躙シ且ツ市民ノ意思ニ反シ專ラ自己ノ利益ヲ擁護スルニ汲々タルモノト謂フヘク其ノ不誠意斷シテ許スヘカラサルモノアリト信ス

冀クハ閣下深ク如上ノ點ニ明鑑ヲ垂レラレ瓦斯料金ハ一千立方呎ニ付金五拾錢以上ノ値下及計量器使用料ノ廢止竝資本金增加ノ阻止ニ對シ本會ノ意圖ヲ容レラレ以テ刻下經濟界ノ不況ニ呻吟シツヽアル市民生活ノ緩和ニ資セラレムコトヲ切望ス

右市制第四十六條ニ據リ意見書提出候也

年　月　日

副議長

內務
商工　兩大臣宛

本案ハ**森富太君**ノ發議ニ依リ、字句ノ修正ヲ議長ニ一任スル事トシ、滿場一致之ヲ可決シタリ。

▽瓦斯事業法第十二條第四項ニ依ル裁定申請書及料金値下請願書

左記二件ハ七月二十日ノ會議ニ報告アリタリ。

財主發第一、一一七號

瓦斯事業法第十二條第四項ニ依リ東京瓦斯株式會社資本增加ニ關シ別紙ノ通裁定方申請致候條爲念御通知候也

昭和四年七月十七日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

（別紙）

瓦斯事業法第十二條第四項ニ依ル裁定申請書

東京府東京市麹町區丸ノ內三丁目一番地

申請人　東京市

右法律上代理人

東京市長　堀切善次郎

同府同市同區丸ノ內三丁目二番地

被申請人　東京瓦斯株式會社

右法律上代理人

取締役社長　岩崎清七

申請ノ目的

被申請人ノ昭和四年四月二十六日株主總會ニ於テ決議シタル資本金一億圓增加ハ之ヲ爲スヘカラストノ御裁定相成度候

理由

一、申請人ハ被申請人トノ間ニ於テ明治四十四年十一月二十五日瓦斯報償契約ヲ締結シタリ（別紙第一號證）而シテ同契約書第十二條ニ依レバ被申請人ノ承認ヲ受クヘキ定メナリ從テ被申請人ハ昭和四年四月二十六日ノ株主總會ニ於テ資本金一億圓增加ノ決議ヲ爲シ同年五月十日附ヲ以テ之カ承認ノ要求ヲ爲シ來リタルニ付調査ノ結果現在ニ於ケル金融ノ狀況竝被申請人營業ノ狀態ヨリシテ此ノ際資本ノ增加ハ適當ナラスト認メ承認セサルコトトシ同年六月十九日ノ市會ニ於テ滿場一致ノ議決ヲ經（別紙第二號證及第三號證）同日被申請人ニ其ノ旨ヲ通達シタルモノニ有之候（別紙第四號證）

二、申請人カ資本增加ヲ承認セサル理由ハ別紙添付ノ市會速記錄（第三號證參照）ニモアルガ如ク增資計畫一億圓中四千二百六十四萬千四百三十五圓七十八錢二厘ハ全ク計畫未定ニ屬スル部分ナルノミナラス其ノ他ノモノニ在リテモ一時ニ之ヲ要スルニハ非スシテ四ケ年ニ亘リ施行スルモノナレハ社債又ハ借入金等ニ依リ徐々ニ擴張ヲ爲シ得ルノ見込十分ニシテ殊ニ被申請人カ曩ニ大正十五年ニ於テ五千五百萬圓增資ノ承認ヲ求メ來リタル際事業擴張ニ要スル不足金千百八十五萬五百七十圓ハ社債又ハ借入金ヲ以テ充當シ徐々ニ適當ノ處置ヲ執ルヘシト說明シタルモノヲ包含シ（別紙第五號證）尙ホ昭和五年乃至昭和七年ニ於ケル擴張計畫所要ノ資金モ場合ニ依リテハ社債又ハ借入金ヲ以テ處辨スルコトアルヘキヲ豫定シアリ（第二號證第五號表備考三參照）加之增資ハ社債又ハ借入金ニ據ルノ方法ニ較ヘ年九分ノ配當ヲ必要トスル結果被申請人ノ負擔ヲ增加スルニ至リ瓦斯料金値下ノ

可能性ヲ失ハシムルヘク以上ノ點ヲ考察シ此ノ際資本增加ハ必要缺クヘカラサルモノニ非ス寧ロ所要資金ハ社債又ハ借入金ヲ以テ充當スルヲ適當ト認メ今回ノ資本增加ハ其ノ必要ナシト信スルモノニ有之候

以上ノ理由ニ依リ被申請ノ資本金一億圓增加ハ全ク適當ノモノニ非サルヲ以テ之ヲ爲スヘカラストノ御裁定相成度瓦斯事業法第十二條第四項及同法施行規則第二十一條ニ依リ申請候也

昭和四年七月十三日

右申請人　東京市
右法律上代理人
東京市長　堀切善次郎

商工大臣俵孫一殿

財主發第一、一三〇號

東京瓦斯株式會社瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ニ關シ別紙ノ通請願書提出候條爲念御通知候也

昭和四年七月二十日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

（別紙）

昭和四年七月十七日

商工大臣俵孫一殿

瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止請願書

東京市麹町區丸ノ內三丁目二番地東京瓦斯株式會社カ東京市內ニ於テ供給スル瓦斯ノ料金ハ一千立方呎ニ付貳圓貳拾五錢ナルモ之ヲ壹圓七拾五錢以下ニ値下シ且計量器使用料ハ之ヲ廢止シ命令書到達ノ日ノ翌月一日ヨリ實施スヘシトノ御命令ヲ前記會社ニ發セラレ度左記理由ヲ附シ及請願候也

理由

一、東京市ハ東京瓦斯株式會社トノ間ニ於テ明治四十四年十一月二十五日瓦斯報償契約ヲ締結シタリ而シテ同契約書第五條ニ依レハ瓦斯料金ハ大正二年七月一日以降ハ一千立方呎ニ付壹圓七拾壹錢トアリ同第六條ニ依レハ會社ノ拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當ヲ標準トシ尙過剩金アルトキハ其ノ半額ニ相當スル料金ノ引下ヲ爲スヘク配當年率九分ニ達セサル場合ハ壹圓七拾五錢迄ノ引上ヲ爲シ得ヘク別ニ炭價ノ激變其ノ他特別ノ事情ニ因リ市ノ承認ヲ得タルトキハ更ニ相當料金ノ引上ヲ爲シ得トアリ二、會社ハ大正七年十月二十六日歐洲大戰勃發後ノ物價騰貴ニ伴ヒ炭價モ亦著シク高騰シタルヲ以テ一千立方呎ニ付壹圓ノ料金引上承認ヲ求メ來リタルニ付本市ハ審議ノ結果大正八年九月三十日當分ノ內五拾錢ノ料金引上ヲ承認シ之ニ對シ五項ノ條件ヲ付シ會社ハ之ヲ承認シ請書ヲ提出シタリ而シテ條件第五ハ「炭價低落ノ場合其ノ他特別ノ事情ニ因リ市カ瓦斯料金ノ値下ヲ要求シタルトキハ會社ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス」トアリ其ノ後炭價ハ著シク低落シ曩ノ料金引上ヲ爲シタル理由ハ既ニ消滅ニ歸シタルヲ以テ大正十年及大正十五年ノ二回ニ亘リ料金引下ヲ要求スル所アリシカ會社ハ言ヲ左右ニ託シテ之ニ應セス市ハ更ニ昭和四年四月十日ノ市會ニ於テ瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ノ建議ヲ爲シ滿場一致ノ議決アリ爾後屢々會社ニ對シ之カ實現ヲ要求スル所アリタルカ遂ニ同年六月十五日會社ハ本市ノ要求ニ應シ難キ旨ノ回答ヲ爲シ來リ全然報償契約ヲ無視スルノ態度ヲ採ルニ至リタリ

三、東京市カ瓦斯料金引上承認ニ際シ付シタル條件第五ノ「炭價低落ノ場合」トハ一般市價ノ低落ヲ指稱セルモノナルコトハ文理竝他ノ條件ヨリ推論シテ明ナルノミナラス別紙添付ノ會社ノ請願書說明及市會ノ速記錄等ヨリ考察スルモ一點疑ノ存セサル所ニシテ又料金引上承認ノ理由ハ歐洲大戰ニ基ク物價暴騰ニ對スル臨時救濟的ノモノニシテ會社ノ請願書ニハ「臨機救濟ヲ相仰度云云」トアリ本市ノ承認條件第一ニ於テモ「當分ノ內」ト制限シ炭價低落ノ場合ニ於テハ料金ヲ値下スヘキ義務アルコトヲ留保シ置キタルモノナリ其ノ後石炭ノ市價ハ別表ノ如ク著シキ低落ヲ示シ會社モ屢々之ヲ是認セル所ニシテ一般物價亦歐洲大戰當時ニ比シ大體低下シ居レルコトハ顯著ナル事實ナルヲ以テ曩ノ料金五拾錢引上ノ事由ハ全ク消滅ニ歸シタリ從テ本市ヨリ瓦斯料金値下ノ要求アリタルトキハ會社ハ直ニ之ニ應スヘキ契約上ノ義務ヲ有スルモノト思料ス尙瓦斯計量器ハ興業財產ノ一種ニシ

テ供給所設備、導管等ト何等異ル所ナク獨立シテ使用料ヲ徴收スルコトハ頗ル不合理ナルヲ以テ之ヲ廢止スルヲ妥當ト信ス

四、會社ハ年率九分ノ配當ヲ維持セム爲ニハ本市ノ要求ニ應シ難キ旨主張スレトモ前記料金引上ニ付テハ之カ配當維持ヲ保障シタルコトナク又當時會社ハ石炭一噸平均貳拾貳圓八拾錢ヲ支辨スルニ非サレハ購入致シ難シト稱シ大正八年ノ豫算書ヲ提出スル所アリ本市ハ右豫算ヲ標準トシテ料金五拾錢ノ引上ニ應シタルモノニシテ之ヲ昭和三年中ニ於ケル實際ノ購入價格一噸拾七圓拾錢ニ比較スルトキハ五圓七拾錢ノ低落ヲ示シ右査定ノ標準ト對比スルモ本市ノ要求ニ應スヘキ義務アルモノト思考スル加之會社ノ事業經營及會社整理上ニ於テモ料金値下竝計量器使用料ノ廢止ヲ爲シ且相當利潤ヲ擧ケ得ルノ餘裕存スルト認メ得ヘキ證據勘カラス即チ

五、事業經營上相當利潤ヲ擧ケ得ルノ點トシテハ

(イ)會社ハ三井物産株式會社ト石炭購入特約ヲ爲シ昭和四年ハ新夕張切込炭四十萬噸ヲ一噸當リ十七圓七十五錢ニ新夕張粉炭十萬噸ヲ一噸當リ十六圓一錢ト爲レアルモ昭和三年末以來小口ニテ購入シタル石炭ハ一噸十五圓十錢乃至十六圓五十錢程度ナルニ拘ラス前記ノ如キ大量ノモノヲ反對ニ殊更高價ニテ購入セムトスルカ如キハ事業經營上眞摯ナラス尚一段ノ努力ヲ爲ストキハ一噸當リ二圓ハ優ニ安價ニ購入シ得ヘク使用石炭ヲ五十萬噸トルモ年額百萬圓ヲ節約シ得ヘシ

(ロ)熱量ハ早稻田大學理工科ノ實驗報告ニ依ルモ別紙ノ如ク大正七年前ト最近トニ著シキ差アリ又會社ノ報告書ニ徴スルモ別紙ノ如ク相當ノ低下ヲ示セルコト明ナリ熱量ノ低下ハ之ヲ以テ直ニ比例的ニ料金値下ノ理由トハナラサルモ需用者ノ損失ヲ招クモノナルコトハ謂フ迄モナシ大阪市、京都市等ノ如ク熱量低下ニ對シ相當料金値下ノ定アル亦當然ト謂ハサルヘカラス

(ハ)瓦斯ノ製造ニ付完全瓦斯化ノ裝置及水性瓦斯製法ノ擴充ニ伴ヒ石炭一噸當リ產氣量ハ著シク增加シ昭和三年ハ大正八年ニ比シ石炭瓦斯製造ニ於テ一噸當リ二千三百四十五立方呎ヲ增加シ又總產氣割合ニ於テハ五千六百十八立方呎ノ增加ヲ示セリ勿論總產氣割合ニ付テハ水性瓦斯ノ製造ニ要スルニ依リ料金ノ値下ヲ爲シ得ヘキ餘裕ヲ有スルモノト思考セラルヲ以テ將來水性瓦斯及完全瓦斯化裝置ニ要スル「コークス」ノ喪失ヲ計算ニ入レサルヘカラサルモ製產費ニ於テ減少ス

(ニ)副生物收入ハ瓦斯收入ニ亞キ會社收益ノ重要ナル地位ヲ占メ「コークス」ハ其ノ大部分ヲ擁スルモノナルヲ以テ之カ販賣ニ付テハ深甚ナル注意ヲ拂ハサルヘカラサルニ拘ラス會社ハ「コークス」ノ賣捌ニ付自己ノ作リタル東京コークス販賣株式會社ニ極メテ低廉ニ販賣シ其ノ賣價及賣渡數量ニ付テハ頗ル公明ヲ缺クノ點多々アリ之ヲ市價ニ對比スルトキハ年產額三十萬噸以上ノ收益ヲ增加セシメ得ルコトハ敢テ難事ニ非スト信ス

六、次ニ會計整理上料金値下理由ノ存スル點トシテハ

(イ)持込石炭中規格外ノ劣等品アルトキハ單價ハ之ヲ低落セシメスシテ其ノ儘商業帳簿ニ記載シ其ノ代價トシテ定量以上ノ石炭ヲ受入レ量出炭ト稱シ每事業年度ノ決算ニ秘密利益トシテ留保シ來リ昭和三年ニハ上期ト下期ヲ通シテ九十四萬八千七百五十六圓ニ達シ之ヲ負債科目中ノ假受金ニ整理シアリ報償契約第六條ニ關スル協定書第二項及第三項竝ニ瓦斯料金引上承認條件第四ニ基キ計算スルトキハ本件ノミニテモ一千立方呎ニ付十六錢ノ値下ヲ爲ササルヘカラス

(ロ)報償契約附屬覺書第七ニ依レハ減價償却金ハ從前ノ比率ヲ超過スルコトヲ得ストアリ而シテ明治四十四年報償契約締結ノ際減價償却ハ極メテ低率ニシテ興業費ニ對シ百分ノ一ニ滿タサルヲ通例トシタル樣見受ラル然ルニ近年百分ノ二ヲ超ユル償却ヲ爲ス例勘カラス勿論減價償却ハ會社ノ基礎ヲ鞏固ニスルヲ以テ經理上ハ奬勵スヘキモノナルモ本市トノ報償契約ハ之ヲ恪守セサルヘカラス故ニ定率以上ノ償却ヲ爲サムトセハ一旦之ヲ償却積立金等ヲ以テ整理シ報償契約第六條第一項及瓦斯料金引上承認條件第四ニ該當スル場合ニハ瓦斯料金ノ値下ヲ行ハサルヘカラス

七、其ノ他設備ノ改善ニ依ル瓦斯漏洩ノ防止、瓦斯供給系統及製造所ノ改善、經費ノ節約、渡邊銀行外特殊關係人ニ付情實ヲ離レタル公平ナル處置等ヲ施ストキハ相當ノ利益ヲ得又ハ損失ヲ免レ得ヘキモノ勘シトセス尚會社ノ帳簿、物件等ニ付詳細ニ調査研究スルトキハ一層剴切ナル瓦斯料金ノ値下及計量器使用料廢止ノ理由ヲ捕捉シ得ヘシト推測セラル

以上ノ理由ニ依リ會社ノ東京市內ニ供給スル瓦斯料金ハ一千立方呎ニ付現在二圓二十五錢ナルモ之ヲ一圓七十五錢以下トシ最低五十錢ノ値下ヲ爲スヘク且計量器使用料ハ之ヲ廢止シ命令書到達ノ日ノ翌月一日ヨリ實施スヘシトノ御命令ヲ東京瓦斯株式會社ニ發セラレ度別紙關係書類添付此段請願候也

添付書類目次

一　東京瓦斯株式會社報償契約書及覺書其ノ他

二　瓦斯料金引上ニ付請願書
三　市會速記錄抄
四　料金引上承認ニ對スル會社請書
五　市場石炭價格調
六　市場炭價ノ低落ニ付會社ノ是認セル點
七　大正十年料金引下交涉ノ件
八　大正十五年料金引下交涉ノ件
九　昭和四年六月十五日料金引下等拒絕文書
十　炭價二十二圓八十錢ノ說明
十一　昭和三年購入炭十七圓十錢ノ說明
十二　昭和四年石炭ノ購入ニ關スル件
十三　早大理工科熱量及壓力實驗報告
十四　會社回答ノ熱量調
十五　方式別瓦斯製造量(產氣割合)
十六　「コークス」賣却値段調
十七　貸借對照表負債中假受金內譯
十八　固定資產ニ對スル減價償却歩合表

一　東京瓦斯株式會社報償契約書（明治四十四年十二月一日市會議決第二百三十一號）

明治四十四年十一月二十五日東京市長（以下單ニ市ト稱ス）ト東京瓦斯株式會社取締役（以下單ニ會社ト稱ス）トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　市ハ其ノ所有又ハ管理ニ屬スル道路橋梁堤塘公園其他ノ土地工作物ニ對シ會社ノ營業上必要ナル埋管其他ノ裝置ヲ爲スコ

トヲ承諾ス

第二條　會社カ前條ノ土地工作物ヲ使用セントスルトキハ豫メ設計書ヲ提出シ市ノ認許ヲ受ケ命令ニ遵フヘシ若シ其使用ニ因リテ市ニ損害ヲ及ホシタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スヘシ

第三條　市ハ一般ノ市稅ヲ除ク外第一條ノ使用ニ對シ何等ノ料金若ハ市稅ヲ賦課徵收セス

第四條　市ハ本契約期間內ハ自ラ瓦斯事業ヲ經營セス又新タニ生スル瓦斯供給營業者ニ對シテ第一條ノ承諾ヲ與ヘス但會社カ獨占權ヲ濫用シ不法ニ市ノ公益ヲ害シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五條　會社ノ供給スル瓦斯料金ハ一千立方呎ニ付當分金壹圓八拾錢トシ明治四十六年七月一日以降ハ金壹圓七拾壹錢トス

第六條　會社ハ其拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當ヲ標準トシ尙ホ過剩アルトキハ其過剩額ヲ會社及需用者ニ均分スルノ主義ニ據リ次ノ事業年度ニ於テハ該過剩金ノ半額ニ比準スル料金ヲ引下クヘシ若シ九分ニ達セサル場合ハ特ニ料金壹圓七拾五錢マテヲ限度トシ其不足ノ半額ニ比準スル引上ヲ爲スコトヲ得

炭價ノ激變其他特別ノ事情ニ因リ更ニ料金ノ引上ヲ必要トスル場合ハ別ニ市ノ承認ヲ求ムヘシ

第七條　會社ハ市有又ハ府ノ管理ニ屬スル道路橋梁公園其他ノ土地營造物ニ供給スル瓦斯料ニ限リ普通料金ヨリ二割ヲ減スヘシ

第八條　會社ハ每決算期ニ於ケル總益金ヨリ總損金ヲ差引タル殘額ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ市ニ納付スルモノトス但總損金中ニハ各種ノ積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ヲ包含セス

前項ノ納付金ハ納付金額通知ノ日ヨリ十五日以內ニ完納スヘシ

第九條　會社ノ積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ハ通シテ總純益金ノ百分ノ十五ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條　會社ハ市ノ要求アルトキハ第六條及第八條ノ計算ヲ證明スルノ責アルモノトス

第十一條　市ハ前條ノ場合ニ於テ其計算ノ當否ヲ調査スル必要アルトキハ會社ニ對シ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ帳簿財產諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

第十二條　左ノ各號ニ付テハ會社ハ豫メ市ノ承認ヲ受クヘキモノトス

一　會社ノ資本金ヲ增加シ又ハ減少スルコト

二　拂込資本ノ四分ノ一以上ノ社債又ハ借入金ヲ爲スコト
三　會社ノ財産ヲ以テ義務履行ノ擔保ニ供スルコト
四　會社ノ營業種目ヲ變更シ又ハ本契約期間內ニ廢業スルコト

第十三條　市ニ於テ會社ノ營業物件ノ全部ヲ買收セントスルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
本契約期間內ニ於ケル買收價格ハ東京市內ノ株式取引所ニ於ケル會社株式ノ既往五箇年間平均相場ニ依ル但其平均相場カ右五箇年間ノ利益配當平均年額ノ二十倍以上ナルトキハ其二十倍額ヲ以テ買收價格ト定ム
契約期間滿了後ニ於ケル買收價格ハ會社最近ノ財産目錄ニ記載シタル價格ニ依ルモノトス

第十四條　前條ノ買收價格其他本契約ノ效力及履行上ニ付市ト會社トノ意見一致セサルトキハ双方ヨリ協議委員各二名ヲ選定シ其多數ノ決定スル所ニ依ル若シ其ノ協議委員ニ於テ尙ホ決定シ得サルトキハ協議委員ノ選定シタル一人ノ裁決ニ依リテ之ヲ決ス

第十五條　本契約有效期間ハ滿三十年トス

第十六條　左ノ場合ニ於テハ市ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得
一　會社カ正當ノ理由ナクシテ六箇月以上市ノ注意ヲ無視シ本契約ノ義務ヲ履行セサルトキ
二　一箇年以上休業シタルトキ

前項契約解除ノ場合ニ於テハ會社ハ市指定ノ期間內ニ第一條ノ埋管其他ノ裝置ヲ撤却シ原形ニ復スヘシ若シ之ヲ履行セサルトキハ其物件ハ當然市ノ所有ニ歸シ尙ホ損害アルトキハ會社ハ之ヲ賠償スヘシ

第十七條　法令ノ結果本契約消滅ニ歸シ又ハ其條項ニ變更ヲ及ホスコトアルモ會社ハ市ニ對シ何等ノ要求ヲ爲ササルモノトス

第十八條　此契約ハ市カ市會ノ議決ヲ得及會社カ株主總會ノ承認ヲ得タル日ヨリ其效力ヲ發生スルモノトス（明治四十四年十二月二十七日株主總會承認）

協定書

瓦斯料金率改定方法ニ關スル協定書（大正二年七月二十八日市會議決第百七號）

本市ト東京瓦斯株式會社トノ間ニ明治四十四年十一月二十五日締結シタル契約第六條ノ實施ニ關シ左ノ通協定スルモノトス

明治四十四年十一月二十五日東京市長ト東京瓦斯株式會社取締役トノ間ニ取換シタル覺書第三ニ基キ同日締結シタル契約第六條ノ實施ニ關スル方法ヲ協定スルコト左ノ如シ

一　契約第六條ニ於テ過剩額ト稱スルハ契約第八條ノ納付金ヲ控除シタル額カ拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當金及契約第九條制限內支出金ノ合計額ニ對シ超過シタル場合ノ差額ヲ指シタルモノトシ之ニ達セサル場合ノ差額ヲ同條ノ所謂不足金トス

二　瓦斯料金率改正ノ標準ト爲スヘキ契約第六條ノ過剩額及不足金ハ會社ノ上半、下半兩營業期ヲ通シテ計算スルモノトス

三　契約第六條ニ依リ瓦斯料金率ノ改定ヲ爲ス場合ニ於テ新料金率算定ノ標準ト爲スヘキ瓦斯數量ニ過剩額若クハ不足金ヲ生シタル當該營業期ノ製造所發送數量ヨリ其四割ヲ減シタル數量ニ依ルモノトス

四　契約第六條ノ過剩額又ハ不足金ハ本協定第一及第二ニ基キ算出シタル金額ニ依ルノ外他ニ一切ノ增減ヲ加ヘサルモノトス

五　契約第六條ニ依リ瓦斯料金率ノ改正ヲ爲ス場合ニ於テ一千立方呎ニ對スル算出額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ引上又ハ引下共ニ四捨五入ノ法ニ依リ計算スルモノトス

六　點火契約ニ依ル街頭及裝飾點火其他特殊ノ供給ヲ爲ス場合ノ料金率竝ニ特別割引契約ニ係ル引用家ニ供給スル瓦斯料金ハ契約第六條ノ範圍外トス

七　改定瓦斯料金率ノ適用ハ每二月一日ヨリ始マルモノトス

八　大正三年二月一日ヨリ改定スヘキ瓦斯料金率算定ノ標準ハ本協定第二ニ拘ラス大正二年七月ヨリ十二月ニ至ル下半期間ノ實績ニ依ルモノトス

本協定ヲ證スル爲本書二通ヲ作製シ東京市長及東京瓦斯取締役各一通ヲ保留スルモノトス

瓦斯料金引上承認ニ關スル件（大正八年九月三十日市會議決第一六〇號）

東京瓦斯株式會社ヨリ報償契約第六條第二項ニ依リ瓦斯料金引上承認ヲ求メ來リタルニ付左記要項ニ依リ之ヲ承認スルモノトス

記

一　會社ノ要求ハ當分ノ內瓦斯量一千立方呎ニ付料金一圓ノ引上ナルモ之ヲ五十錢迄ニ止メシムルコト
二　引上料金ハ本件決定ノ日ノ翌月一日以後ニ適用セシムルコト

三　會社ハ株主ニ對シ年率九分ヲ超過スル利益配當ヲ爲シ得サルコト

四　料金引上期間中拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當ヲ標準トシ過剩アル場合ハ次ノ營業期ニ於テ其過剩ノ全額ニ比準スル引下ヲ爲サシムルコト

五　炭價低落ノ場合其他特別ノ事情ニ因リ市カ瓦斯料金ノ引下ヲ要求シタルトキハ會社ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

二　瓦斯料金引上ニ付請願書

歐洲戰亂物發後ニ於ケル諸物價竝ニ勞銀暴騰ノ結果製造工業界ニ於ケル生產費ニ非常ノ膨脹ヲ來タシ候得共一方ニ於テハ其ノ製品價格モ亦空前ノ暴騰ヲ示シ居候爲メ世間一般ノ事業ハ却テ意外ノ利益ヲ得テ資本ニ對スル利潤ノ如キモ從テ未曾有ノ盛況ヲ呈シ居候儀ハ疾クニ御承知ノ事ト拜察仕候然ルニ獨リ瓦斯事業ニ於ケル目下ノ狀態ヲ申上候ハハ生產費ノ增加ハ寧ロ一般工業ニ比シ頗ル過大ナルモノ有之候即チ勞銀ノ增大ハ都會工業ナルカ爲メニ最モ甚シク且瓦斯ノ製造供給兩設備ニ要スル諸材料ハ三倍乃至六倍ノ騰貴ヲ來タシ殊ニ唯一ノ製造原料タル石炭ニ於テハ四倍以上ノ暴騰ニシテ同業經營者ノ困難ハ實ニ其ノ極度ニ達シ居候幸ニ當會社ニ於テハ炭業組合ノ半數ハ廉價特約ヲ有シ居候得共是トテモ近來瓦斯需用ノ激增ハ益々以テ此ノ優越ナル地歩ヲ失墜スル結果ニ相成居候而カモ製品價格ニ於テハ時局ノ爲メ副生物ニ於テ少カラサル增收アリト雖モ本業最大ノ收入タルヘキ瓦斯料金ニ於テハ依然トシテ明治四十四年十一月附御契約ニ基キ瓦斯一千立方呎金壹圓七拾五錢ノ定價ニ準據スルヲ以テ原料價格ハ製品價格ヲ超過スルノ奇觀ヲ呈シ候結果全ク增收無之候爲メ所詮此ノ大缺陷ヲ補フニ足ラサル次第ニ御座候玆ニ大正八年度ニ於ケル收支豫算ヲ編成仕候ニ別表ノ如ク利益ハ著シク減少シテ經營上洵ニ寒心ニ堪ヘス候斯クテハ營業施設ノ圓滑ヲ缺キ惹イテ一般市民ニ對シテ御迷惑相懸ケ候場合ニモ立到リ申ササル哉ト懸念罷在候次第ニ付當會社トシテハ斯ノ如キ前古未曾有ノ變局ニ際シ特ニ臨機救濟ヲ仰キ候外他ニ手段無之候間年率九分ノ配當ヲ爲シ得ヘキ標準ヲ以テ明治四十四年十一月二十五日附契約書第六條第二項ニ基キ當分ノ內瓦斯料金ヲ一千立方呎ニ付金貳圓七拾五錢ニ引上ノ儀御承認被成下度關係書類相添此段奉請願候也

大正七年十月二十六日

東京瓦斯株式會社

取締役社長　久米良作

三　市會速記錄抄　大正七年十二月十一日

「議員」笠原文太郎君　會社要求ノ十月ト今日トハ經濟界モ變動ノ傾向ガアル矢張此ノ提出シタ當時ト同ジ調書ヲ維持セラレマスカ

「市長」田尻稻次郎君　此ノ戰爭ノ後一年ヤ一年半ハ鐵、石炭ガ廉クナルト思ハナイカラ依然當初ノ調書ニ基キタイ

「議員」笠原文太郎君　炭價ノ暴騰ト謂フコトガ値上ノ根本義ニナルトノ御說明デアリマスガ之ニハ一面運賃現下ノ趨勢ハドウデアリマスカ

「市長」田尻稻次郎君　一年ヤ二年ハ急ニ運賃ハ低落シナイト思フ

市會速記錄抄　大正七年十二月十二日

「議員」眞下五郎君　會社ハ單純無條件ニテ壹圓ノ値上ヲ申請シ、市ハ條件ヲ附セントシテヰルガ若シ會社ガ條件ヲ容レザル場合ハ絕對ニ全部値上ヲ認メザルノ意思アリヤ

「番外」松尾經理課長　會社ガ市ノ附シタ條件ヲ承認セヌナラバ値上ハ承認セナイ覺悟デス

「議員」眞下五郎君　絕對ニ否認シマスカ

「番外」松尾經理課長　左樣

四　料金引上承認ニ對スル會社請書

今般瓦斯料金引上御承認ノ趣御通告ニ接シ正ニ敬承仕候

曩ニ客年十月値上申請書提出以來屬社業經營困難ノ實情ヲ披瀝シ公明ナル御裁斷ヲ受ケ得ヘク期待罷在リタルニ拘ラス殆一箇年ヲ經過シタル今日ニ及ヒ漸ク申請額半減ノ御承認ヲ得ルニ至候事弊社ノ眞ニ遺憾トスル所ニ有之候既ニ時日遷延ノ爲メ豫定ノ擴張計畫ニ齟齬ヲ來シ候結果瓦斯製造意ノ如クナル能ハス從テ遽ニ一般需用家ニ充分ナル供給ヲ爲ス能ハサルヘキヲ懸念罷在候尙先年來昂騰ヲ重ネタル諸物價竝ニ勞銀ハ昨今ニ至リ愈益向上ノ趨勢ニ有之御承認ノ料金ヲ以テシテハ到底豫期ノ營業成績ヲ擧クルコト能ハサルヘク自然不遠內更ニ料金引上申請ノ必要モ可相生カト被存候ヘトモ此ノ際誠意ヲ以テ極力御通告ノ趣旨ニ相副フ樣努力可仕候ニ付右豫メ御含ミ置被下度答申書提出ニ際シ此段申添候　敬具

東京市長法學博士子爵田尻稻次郎殿
東京瓦斯株式會社
取締役社長　石渡敏一

五　市場石炭價格調（夕張一等炭大川端渡）

年別	炭種	塊炭	粉炭	切込炭
大正七年		三一二〇	二七五〇	二九三五
同八年		三二〇〇	二九五〇	三〇七五
同九年		三一五〇	二八〇〇	二九七五
同十年		三二〇〇	一七〇〇	一九五〇
同十一年		一九〇〇	一六〇〇	一七五〇
同十二年		二二〇〇	一七〇〇	一九五〇
同十三年		一九〇〇	一五五〇	一七二五
同十四年		一九〇〇	一六〇〇	一七五〇
同十五年昭和元年		一九五〇	一七〇〇	一八一五
同二年		一九七〇	一七〇〇	一八五〇
同三年		一九八〇	一七〇〇	一八〇〇

六　市場炭價ノ低落ニ付會社ノ是認セル點

○昭和二年一月八日渡邊社長ヨリ西久保市長ニ對シ回答シタル答申書理由中

一、大正七年瓦斯料金値上申請大正八年瓦斯料金値上御承認當時ニ比シ目今一般市場ニ於ケル石炭價格ノ低下シ居ルコトハ肯

定ス

○昭和四年六月十五日鈴木常務ヨリ白上助役ニ手交シタル瓦斯料金値下事由ニ對スル會社說明書中市場炭價ノ低落ハ明ナルモ條件第五覺書ノ精神ハ炭價ノ激落ニヨリテ會社ノ收益狀況好化シ餘裕ヲ生シタル場合ニ於ケル料金ノ變化ヲ豫定シタルモノト云フヘシ

七　大正十年料金引下交涉ノ件

大正十年九月十六日

東京瓦斯株式會社
取締役社長　石渡敏一　殿

冀ニ瓦斯料金値上承認ノ際附シタル條件ニ付テハ當時御申出之通リ誠意ヲ以テ其實行ヲ期セラレ候事トハ存候ヘ共瓦斯供給上遺憾ノ點勘カラサル樣被認且又本件及瓦斯料金ノ件ニ關シ市會ヨリ建議ノ次第モ有之候ニ付テハ左記調書至急御提出相成度此段照會候也　以下略

（回　答）

大正十年九月十六日附御照會ノ趣拜承右ハ當會社ヨリ貴市ニ對シ提起シ目下東京地方裁判所ニ繫屬中ナル法律關係不存在確認ノ訴訟中ニ包含セラルル事項ナルヲ以テ貴市對當社ノ契約ニ基キ回答ノ義務アルモノトシテハ乍遺憾御回答申上兼候得共一面之カ爲メ御調査ニ御不便ヲ相懸ケ候事ハ當會社ノ不本意ト致ス次第ニ候間契約ヲ離レ當會社ハ任意ニ御回答致スモノト御諒解被成下度竝ニ御照會ニ對シ左記ノ通リ御回答申上候　以下略

大正十年十月二十二日

東京市長男爵後藤新平殿
東京瓦斯株式會社
取締役社長　石渡敏一

八　大正十五年料金引下交渉ノ件

瓦斯會社提出料金値下拒絶ニ關スル答申書

瓦斯料金低下ノ餘地アリヤ否ニ付御推問ニ候處即今低下ノ餘地無之候間左樣御承知被成下度別記理由ヲ具シ此段御答申上候　敬具

昭和二年一月八日

東京瓦斯株式會社

取締役社長　渡邊勝三郎

東京市長西久保弘道殿

理由書

一、大正七年瓦斯料金値上申請大正八年瓦斯料金値上御承認當時ニ比シ目今一般市場ニ於ケル石炭價格ノ低下シ居ルコトハ肯定ス

二、石炭ノ一般市場ハサルコトナカラ當會社ニハ自ラ特殊ノ事情存在ス

三、大正四年以前ハ會社自ラ炭山ヲ採掘シ居リタルヲ以テ比較ノ料ニ適セス唯不足炭買入ノ實況ヲ以テスレハ

工場渡　一噸　七圓見當

室蘭船渡　同　五圓二十錢之ニ運賃諸掛一圓八九十錢ヲ加ヘ是亦七圓見當ナリシナリ

四、大正七年即歐洲大戰ノ時ニ際シテハ

(イ)特約炭　十五萬噸ハ工場渡　一噸　七圓三十錢

(ロ)同　六萬噸ハ室蘭船渡　一噸　五圓五十錢

外ニ一月ハ

船賃　一噸　三圓五十五錢

諸掛　同　二圓二十錢

通計　同　十一圓二十五錢餘

二月以降ハ

船賃　一噸　十一圓四十六錢餘

諸掛　同　二圓二十錢

通計　同　十九圓十六錢

(ハ)此特約炭以外ノ買入炭ハ三十圓ヲ突破セリ

(ニ)石炭價格ハ右ノ如ク暴騰セリ勞銀ハ石炭以外ノ諸材料ト共ニ甚シク昂騰セリ

設備炭價ハ著シク增大シタル等營業上ノ危機ニ瀕シタルヲ以テ不得止瓦斯一千立方呎ニ對シ一圓ノ値上ヲ申請シタリ

五、大正八年ニ瓦斯一千立方呎ニ對シ五十錢ノ値上ヲ承認セラレタリ此ノ年ノ買入石炭ハ

(イ)特約炭　十五萬噸ハ工場渡　一噸　七圓三十錢

(ロ)同　七萬噸ハ室蘭船渡　同　五圓五十錢

外ニ鐵道運賃率改正ニ因ル增運賃　同　四十九錢三厘

船賃諸掛　同　七圓六十五錢六厘餘

通計　十三圓六十五錢

(ハ)此特約炭以外ノ買入炭ハ平均三十圓四十錢ナリ

(ニ)即大正八年中ニ使用シタル瓦斯原料石炭ノ買入價格ハ

平均十六圓〇八錢ナリ

(ホ)市價三十圓以上ナリシ場合ニ當會社ハ石炭ニ對スル特約ヲ有シタレハコソ前顯ノ如キ安價炭ノ買入ヲ爲スコトヲ得タリ若シ此特約ナカリセハ配當ヲナス能ハサリシハ勿論或ハ缺損ニ陷リタルカモ未タ知ルヘカラス

六、前來屢々陳述シタル特約炭トハ當初當會社カ採掘シタル石炭山ヲ三井ニ賣渡シタル際二十五年間年々當會社カ使用スル石炭量ヲ豫定シテ之カ供給ヲ爲スコト其價格ハ時價ヲ參酌シテ五年毎ニ更改スルコトヲ約シタリ是大正五年十二月二十日ナリ其ノ際

工場渡室蘭船渡ノ數量ヲ定メ且炭價ヲ工場渡一噸七圓三十錢室蘭船渡一噸五圓五十錢ト定メタリ

七、大正五年十二月ノ契約ニ依ル特約炭ハ數量ニ於テハ特約存スレトモ價格ノ特約ハ大正十年十二月ニ於テ終ヲ告ケ其以後ハ五ケ年ニ亘ル長期ノ價格ノ特約ハ大正十年十二月ニ於テ終ヲ告ケ其以後ハ五ケ年ニ亘ル長期ノ價格ノ協定ヲ爲シ居レリルカ故ニ爾來年々價格ノ協定ヲ爲シ居レリ

八、大正十四年、十五年、昭和二年分ノ石炭買入價格左ノ如シ

大正十四年

(イ) 特約炭	二十九萬噸	一噸	十七圓三十四錢
(ロ) 其他	二萬五千噸	同	十八圓六十一錢
平均		同	十七圓四十四錢

大正十五年、昭和元年

(イ) 特約炭	二十九萬噸	一噸	十七圓十一錢一厘
(ロ) 其他	十萬噸	同	十六圓三十九錢五厘
平均		同	十六圓九十二錢五厘

昭和二年

特約炭	三十萬噸	一噸	十七圓七十五錢

備考　本年分石炭ハ頗ル強調ニシテ漸ク石價格ニ折合ヒタルナリ

九、大正八年値上當時ハ一噸平均十六圓〇八錢ナリシ石炭カ前顯ノ如ク一昨年、昨年、本年ト何レモ著シク高位ニアリ單ニ石炭價格ノミヲ比較スルモ到底値下ノ餘地存スルコトナシ特ニ況ヤ勞銀ハ大差ナシトスルモ副生物收入ハ市價低落ノタメ激減ヲ來シ設備擴張ニ要シタル一千立方呎當リノ資金ハ著シク增加ヲ示ス等何レモ皆値下不能ヲ語リテ明カナルモノナリ

（以下略）

九　昭和四年六月十五日料金引下等拒絶文書

答申書

曩日瓦斯料金値下並ニ計量器使用料撤廢ノ義御垂示ニ付貴意ヲ尊重シテ數回重役會相開キ熟議相重ネ候處瓦斯料金ニ就イテハ過般來屢々實情具サニ縷陳仕リ候如ク計數上餘地無之値下ノ至難ナルコトハ充分御諒承被下候次第ト拜察罷在候若シ强ヒテ値下ヲ行フニ於イテハ豫テ報償契約及附屬覺書ニ依リ貴市ノ御認諾ヲ蒙リ居ル標準配當ヲ維持シ得サルノミナラス延ヒテハ瓦斯供給ノ普及、サーヴイス改善等公共的事業會社トシテノ眞使命ヲ果ス上ニ免レ難キ惡影響有之其關係スル所頗ル重大ナルカ故ニ自然決定ヲ見ルニ至ラス困惑致居候次第ナリシカ過日白上助役ヨリ計數並ニ配當ヲ超越シテ達觀的ニ値下可致樣懇々御內談ノ次第モ有之候得共後日業績好化シ餘裕相生シ候場合ハ御垂示相蒙リ候マテモナク進ンテ値下實行仕度存念ニ有之候モ折角ノ御懇談ニ對シ不本意ナカラ今日ノ場合貴需ニ應シ兼候ニ付何卒不惡御諒承願上候

計量器使用料ハ過去四十幾年間全國同業一般ニ實行致シ居リ候モノニシテ已ニ立派ニ商習慣ト相成リ居リ又今日ニ於テハ料金化致シ居候ノミナラス當社ノ如キ低料金ヲ以テ經營罷在候モノニハ重大ナル收入ノ一部ニ有之候間之レカ撤廢ハ會社經濟上ニ及ホス影響重大ニ有之是亦遺憾ナカラ貴需ニ應シ兼ネ候

右會社ノ衷情御洞察ノ上可然御諒承被成下度重役會ノ決議ニ依リ此段御回答申上候　敬具

昭和四年六月十五日

東京瓦斯株式會社

常務取締役　鈴木寅彥

東京市長堀切善次郎殿

十　炭價二十二圓八十錢ノ說明

大正七年十月二十六日瓦斯料金引上請願計算書說明ノ大正八年會社豫算中

所要石炭總數量　四二〇、九三〇噸

內譯

昭和年間　第參章　昭和四年　第八節　瓦斯問題

購入別	區別	數量	單價	金額
特約購入分	工場持込渡	一五〇、〇〇〇噸	七・三〇円	一、〇九五、〇〇〇円
	室蘭港汽船積込渡	七〇、〇〇〇	二一・〇〇	一、四七〇、〇〇〇
	小計	二二〇、〇〇〇	一一・六六	二、五六五、〇〇〇
時下購入分	製司コークス用	一一五、〇〇〇	三八・〇〇	四、三七〇、〇〇〇
	瓦斯コークス用	八五、九三〇	三一・〇〇	二、六六三、八三〇
	小計	二〇〇、九三〇	三五・〇〇	七、〇三三、八三〇
合計		四二〇、九三〇	二二・八〇	九、五九八、八三〇

十一　昭和三年購入炭十七圓十錢ノ說明

昭和四年五月九日

東京市長堀切善次郎殿

本月三日文發第六六六號ヲ以テ御照會有之候各製造所別生産費用等ノ件別紙ノ通リ御回答申上候

東京瓦斯株式會社

常務取締役　鈴木寅彥

別紙

二　炭價

年次／摘要	使用石炭量 數量	金額	一噸當單價	備考
昭和三年上期	二五二、二五九噸	四、三二九、五四七円	一七・一六円	
同　下期	二三五、九五二	四、〇二二、二二五	一七・〇四	
計	四八八、二一一	八、三五一、七七二	一七・一〇	平均ス

十二　昭和四年度石炭ノ購入ニ關スル件

イ、契約ノ當事者　三井物產株式會社　ロ、購入契約ノ總量　五十萬噸

ハ、內譯左ノ通リ

種類	數量	單價	格	受渡場所
新夕張切込炭	四〇〇、〇〇〇噸	一七・七五円	七、一〇〇、〇〇〇・〇〇円	各工場納込ミ
新夕張粉炭	一〇〇、〇〇〇	一六・〇一	一、六〇一、〇〇〇・〇〇	同
計	五〇〇、〇〇〇	一七・四〇	八、七〇一、〇〇〇・〇〇	

十三　瓦斯熱量竝壓力實驗報告（早稻田大學理工科實驗報告）

試驗年月日	壓力	熱量	試驗年月日	壓力	熱量
大正八、五、二七	○・六二五吋	三、七四四カロリー	大正一二、二、一五	一三耗	三、九三三カロリー
同　九、一二、二一	一三耗	四、一四九　同	一二、三、一一	一三	三、八七〇
同　九、一二、二三	一三	三、七六二　同	一二、一二、一九	一二	三、九三三
同　一〇、四、八	一三	四、一四九　昭和	二、一、—	一一・五〇	三、四七五
同　一一、一一、二九	一二	四、一九四　同	二、一、—	一〇・〇〇	三、一一二
同　一一、一一、三〇	一四	三、八〇七　同	四、二、—	一六	三、五八〇
同　一二、一、三一	一二	四、五七二			

十四　大正十年十月二十二日會社回答ノ熱量調

期別	英熱單位	カロリー換算概數（率八・九）	期間	英熱單位	カロリー換算概數（率八・九）
大正八年下期	四七七・四	四、二四九	大正十年上期	四二八・七	三、八一五
大正九年上期	四四二・五	三、九三八	昭和三年中ノ平均	—	三、六〇〇
同　下期	四四一・六	三、九三〇			

十五、方式別瓦斯製造量調（產氣割合）

種類／年別	石炭使用料	石炭瓦斯 一噸當ガス產氣割合	石炭瓦斯 製產石炭ガス	水性瓦斯	混成瓦斯	合計（瓦斯製造量）	總產氣割合
	噸	立方呎	立方呎	立方呎	立方呎	立方呎	
大正七年	三二六、三三三	一二、七五三	四、一六一、五九七、〇〇〇	一三九、二二〇、〇〇〇	—	四、三〇〇、八一七、〇〇〇	一三、二〇二
同　八年	三三二、四七九	一四、一〇〇	四、五四七、一一〇、〇〇〇	一六八、四二五、〇〇〇	—	四、七一五、五三五、〇〇〇	一四、六二二
同　九年	三四三、〇一六	一四、一〇〇	四、八三六、七二二、〇〇〇	三二五、六五〇、〇〇〇	—	五、一六二、二七二、〇〇〇	一五、〇四九
同　十年	三一三、三〇八	一五、七六六	四、九三九、八〇六、〇〇〇	六五六、九六八、〇〇〇	—	五、五九六、七六四、〇〇〇	一七、八六三
同　十一年	三一七、三一二	一五、九九八	五、〇七〇、〇七二、〇〇〇	一、二一五、九九九、〇〇〇	—	六、二八六、〇七一、〇〇〇	一九、八一〇
同　十二年	二七九、〇三七	一六、七六三	四、六七七、七二六、〇〇〇	六二六、四〇六、〇〇〇	—	五、三〇四、一三二、〇〇〇	一九、〇〇八
同　十三年	二七六、二四〇	一六、五一〇	四、五六〇、七九六、〇〇〇	五六四、四〇四、〇〇〇	—	五、一二五、二〇〇、〇〇〇	一八、一九一
同　十四年	三一五、一一九	一七、二四五	五、四三四、二六五、〇〇〇	一、二六〇、三三五、〇〇〇	—	六、六九四、六〇〇、〇〇〇	二一、二四四
同十五年	三八一、九九一	一六、七八五	六、四一一、七三三、〇〇〇	一、一九六、二三五、〇〇〇	—	七、六〇七、九六七、〇〇〇	一九、九一六
昭和元年	四二三、五四五	一六、八二〇	七、一〇七、五一四、〇〇〇	一、一七〇、〇六一、五〇〇	七三、一六四、一〇〇	八、三五〇、七三九、六〇〇	一九、七六二
同　二年	四八八、二一二	一六、四四五	八、〇二八、七二〇、八〇〇	一、一九九、一〇四、二〇四	六五三、五四六、四〇〇	九、八八一、三七一、四〇〇	二〇、二四〇
同　三年							

十六　大正八年以降瓦斯會社コークス賣却値段

年次	得意先	賣却値段	得意先 販賣先	販賣値段		市價
大正八年	阿部商會	一三・二〇円				
同　九年		一四・〇〇	東京無煙燃料會社	二四・六五円	問屋 三〇・五〇円	五一・〇〇円
同　十年		一五・〇〇		二三・二〇	二七・六〇	四二・二五
同　十一年		一五・〇〇		二二・五〇	二五・五〇	四〇・〇〇
同　十二年		一七・〇〇		二六・〇〇		三二・六七
同　十三年	東京コークス販賣株式會社	一七・〇〇		二三・五〇		四五・〇〇
同　十四年		一七・〇〇	問屋筋	同		四三・五四
大正十五年		一七・〇〇		同		四六・〇〇
昭和元年		一七・〇〇		同		三四・三三
昭和二年		一八・〇〇		同		三三・五〇
同　三年		一八・〇〇		同		三〇・〇〇
同　四年						

十七　會社貸借對照表負債中假受金內譯

種別／事業年度	昭和三年上期	同年下期	備考
商品賣上竝工事請負金	一四九、一五四円 一一九	一四一、〇六三円 五一九	
量出炭	九四八、七五六 〇〇五	九四八、七五六 〇〇五	利益ノ留保
集金員身元保證金	一四、〇六一 六四〇	—	
集金事故塡補基金	六、六〇〇 〇〇〇	—	利益ノ留保
共濟會	三八、七〇一 九四〇	—	
堀上管	—	三四一、六七三 二〇八	

復興工事及移轉補償金				一、四四二、五五五	八九九
興業費戻入金				五〇、五五三	八九二
第三回新株拂込金				八二五、六七〇、〇〇〇	
不用品賣却代其他				二、一八九、四二〇	
合計				三、四七八、二四二、九一五	

十八　大正八年以降固定資産ニ對スル減價償却金歩合表

年別	償却額	割合	期末固定資産
大正八年	八〇五、五九五 円	・〇二二	三六、〇六六、八九八 円
同九年	八二九、〇〇六	・〇二三	三六、〇三八、〇八七
同十年	一、〇九三、一一三	・〇二九	三七、二一二、二一五
同十一年	一、三九二、一四六	・〇三七	三七、七九八、四九二
同十二年	七五六、八九三	・〇一九	三八、七七九、二二三
同十三年	一七九、一三三	・〇〇四	四一、九二九、二一四
同十四年	五三四、四二四	・〇一〇	四九、三一六、四七二
同十五年	九三八、三六九	・〇一七	五四、〇九〇、九九八
昭和二年	一、三五七、〇一六	・〇二三	五八、七三二、二七三
同三年	二、一四六、三七九	・〇三二	六七、一〇七、三七四

備考　一　期末固定資産（土地ヲ除ク）ハ上下兩半期平均額ニシテ各其ノ期償却ヲ爲サヽルモノニ依ル

財主發第一一三三號

七月十七日付財主發第一一一七號ヲ以テ御通知致候瓦斯事業法第十二條第四項ニ依ル裁定申請書添付書類別紙追加御送付候也

昭和四年七月二十日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

東京市長　堀切善次郎

（別紙）

增資不許可裁定申請書添付書類

第一號ハ瓦斯報償契約書ナリ

第二號ハ市會第五十一號議案ナリ

第三號ハ同案審議ノ市會速記錄ナリ

第四號證

文發第九五一號

昭和四年六月十九日

東京瓦斯株式會社

常務取締役鈴木寅彥殿

東京市長　堀切善次郎

昭和四年五月十日附申請ニ係ル貴會社資本金一億圓增加ノ件ハ之ヲ承認セサルコトニ決定候條御了知相成度候也

第五號證

拂込額及興業費竝ニ社債償還年別調　△ハ朱書ナリ

昭和年間　第參章　昭和四年　第八節　瓦斯問題

年次	増資拂込額	復興費支出額	社債償還額	差引殘高
一五	一三、七五〇、〇〇〇 円	九、二八六、〇三四 円	円	四、四六三、九六六 円
一六	一三、七五〇、〇〇〇	一、四八〇、九五四	五、〇〇〇、〇〇〇	一、七三三、〇二二
一七		一一、四三二、八九四	△	九、六九九、八八一
一八	一三、七五〇、〇〇〇	一〇、二〇八、八九四	△ 三、〇〇〇、〇〇〇	九、一五八、七七六
一九	一三、七五〇、〇〇〇	八、三九一、七九四	△ 八、〇〇〇、〇〇〇	一一、八〇〇、五七〇
	五五、〇〇〇、〇〇〇	五〇、八〇〇、五七〇	△ 一六、〇〇〇、〇〇〇	一一、八〇〇、五七〇

今回ノ増資ハ五千五百萬圓ヲ以テ株主關係及市場ノ狀況ヨリ見テ適當ナリト認メタリ

増資五千五百萬圓中ヨリ社債償還ノ爲メ千六百萬圓ヲ引當サルヘカラサルニ依リ興業費ニ支出シ得ヘキモノハ參千九百萬圓ナリ

然ルニ自大正十五年至大正十九年間ニ興業費トシテ支出ヲ要スヘキ豫算ハ上記ノ通リ五千八拾萬五百七十圓ナリ其內上記參千九百

萬圓ヲ差引キタル不足千百八拾萬五百七拾圓ハ借入金又ハ社債ヲ以テ充當シ徐ニ適當ノ處置ヲ取ル見込ナリ

▽瓦斯事業法第十二條第四項ノ裁定申請ニ對スル答辯　九月二十日ノ會議ニ於テ左ノ如ク報告アリタリ。

財主發第一、二〇九號

七月二十二日付ヲ以テ商工大臣ヨリ左記ノ通通牒有之候ニ付別紙ノ通答辯書提出致候條爲念御送付候也

昭和四年八月七日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

〔左記〕

工第四九四一號

昭和四年七月二十二日

商工大臣　俵孫一

東京瓦斯株式會社常務取締役鈴木寅彥ヨリ瓦斯事業法第十二條第四項ニ據リ別添ノ通同社資本金增加ノ件ニ關シ裁定申請アリタルニ付本書到達ノ日ヨリ十四日以內ニ答辯書提出セラルヘシ

東京市法定代理人

東京市長堀切善次郎殿

裁定申請書

申請人　東京瓦斯株式會社

常務取締役　鈴木寅彥

被申請人　東京市

市長　堀切善次郎

當會社カ爲サントスル資本金壹億圓增加ハ妥當ナリトノ御裁定ヲ希望ス

申請ノ目的

申請ノ事實

昭和四年四月二十六日當會社臨時株主總會ニ於テ資本金壹億圓增加ノ義ヲ決議シタルニ依リ、當會社ト東京市トノ間ニ存スル報償契約第十二條ノ規定ニ基キ之カ承認申請ヲ爲シタル所東京市ハ「金融界ノ狀勢竝ニ會社ノ營業狀態ヨリシテ增資ハ適當ナラス」ト認ムトノ理由ヲ以テ不承認ノ決定ヲ爲シ六月十九日其旨通知シ來リタリ

申請ノ理由

第一　當會社ハ事業ノ公共的本務ニ鑑ミ低廉ニシテ文化的ナル瓦斯燃料供給ノ普及發達ヲ爲シ市民生活ニ貢獻スル所アランコトヲ期シ銳意努力シ居レリ

第二　大正十五年資本金四千五百萬圓ヲ壹億圓ニ增加シタリ其時ハ東京市ハ異議ナク承認ヲ與ヘタリ

第三　當會社ハ右增資ニ力ヲ得テ事業擴張ヲ遂行シタリ而シテ昭和二年末ノ需要家總數ハ三十三萬三千八百七十七戶ナリ是過去四

十三年間ニ累積シタルモノナリ

第四　昭和三年十萬戸昭和四年十四萬戸通計二十四萬戸需要家純増加ノ大擴張計畫ヲ樹テ努力ノ結果ハ豫期以上ノ實績ヲ擧ケ昭和三年度ノ純増加ハ十一萬二千四百八十三戸昭和四年上半期ニ於ケル純増加八萬七千六百三十三戸ナレハ此勢ヲ以テ進メハ今年末ニ於ケル需要家總數ハ六十萬戸以上ニ上ルヘキハ明カナリ昭和三、四兩年間ニ於ケル需要家ノ増加ハ昭和二年末ノモノニ比シ實ニ八割強ニ當ル

第五　右六十萬戸ノ需要家ニ圓滑ニ瓦斯ヲ供給センニハ製造供給兩ナカラ其設備ヲ完成セサルヘカラス其爲ニハ現在資本金壹億圓拂込完了ノ上尚本年末ニハ約貳千貳參百萬圓ノ資金不足ヲ來ス豫定ナリ

第六　明年以後ニ於テモ少クモ年々五六萬戸ノ新需要家ノ要望ニ應スルニ非サレハ世ノ滿足ヲ購フヘカラス其ノ爲メニハ毎年千貳參百萬圓乃至千五百萬圓見當ノ新資金ヲ要スルナリ

第七　當會社ハ本年末ニ生スヘキ不足資金及將來ノ擴張資金ヲ株式資本ニ據ルヘキモノトシテ増資ノコトヲ決シ東京市ニ其承認ヲ求メタル次第ナリ蓋シ株式會社ノ興業資金ハ株式資本ニ據ルヲ本則ト思考ス

第八　然ルニ東京市ハ社債又ハ借入金ニ據ルヘキモノトシテ増資ニ對シ不承認ノ決定ヲ與ヘタリ凡ソ事業ヲ經營セントスルナラハ自己資金ニ據ルヘシ借金ニ據ルヘカラストハ普通ノ觀念ニシテ借金ハ破綻ノ基ナリトノ古諺ニ因由スル所深シ申ス迄モナク自己資金ニ據ルハ正道ニシテ借金ニ據ルハ奇道ナリ東京市カ强テ奇道ニ據ラシメントセラルヽ眞意ノ果シテ那邊ニ存スルヤ忖度ニ苦シム所ナリ

第九　現下ノ金融狀況ヨリシテ所要資金ノ相當金額ヲ或程度ノ利率及償還年限ヲ以テ容易ニ吸收シ得ヘク觀セラルヽモ金解禁問題カ當面ノ懸案トナリツヽアル今日ナレハ未曾有ノ變態的低金利狀勢カ今後永續サルルモノトノミハ思惟シ難ク金融界ノ動搖ト金利ノ昂騰トニ想到スレハ借金政策ニ據ルコトノ不安禁スル能ハサルモノアリ

第十　社債未拂込株金アリテソレヲ引當ニナシテコソ容易ニ有利ニ募集シ得ルモノニシテ且ツ合理的ナリ、當會社ノ如キ拂込濟ニシテ未拂込株金ヲ有セサルモノニ在リテハ社債ノ募集必スシモ容易ナラス

第十一　當會社ノ瓦斯供給ノ如キ恒久的事業ノ資金ハ健實安固ナラサルヘカラサルハ自明ノ理ナリ然ルヲ借入金ニ據ルハ事業ノ基礎ヲ不安定ニ導クモノニシテ供給事業ニ累ヲ及ホス俱無シトセス從ツテ低廉便利ニシテ文化的ナル瓦斯燃料ヲ要望スルコトノ熾烈ナルニ鑑ミ都市住民ノ消費經濟改善ノ上ヨリ見テ普及發達ヲ圖リ豐富ナル瓦斯ヲ圓滿ニ供給シ以テ公共事業ノ使命ヲ完フセントスルモノトハ兩立スヘクモアラス

第十二　數歩ヲ讓リテ借金政策ニ據ルヲ可能ナリトスルモ借金ハ依然トシテ借金ナリ借換ニ次ク二借替ヲ以テシ不利ヲ忍ヒテ更ニ借換ヲ爲ストスルモ新資金ノ必要ニ促サレテ借金ハ增當シ遂ニ借金ニハ據ルコト能ハサルニ至ルヘク而カモ何レノ日カ之ヲ償還セサルヘカラス其ノ償還ハ增資ニ據ラサルヘカラス償還期到達ノ都度金融界ノ情勢如何ニ依リテハ果シテ能ク註文通リニ容易ニ增資ヲ爲シ得ヘキカ

第十三　當會社ハ他ノ營利事業ト異リ

一、東京市トノ報償契約第十二條第二項ニ依リ拂込資本金ノ四分ノ一以上ノ社債又ハ借入金ヲ爲スニ對シ承認ヲ要スル規定アリ

二、同上第六條ニヨリ年率九分以上ノ配當ヲ標準トシテ料金均分主義ノ規定アリ

三、東京市トノ覺書七、八項ニ於テ減價卸却金及積立金等ノ社內保留金ニ制限ヲ受ケツヽアリ

四、東京市トノ値上許可條件第三項ニ於テ年率九分ヲ超過スル配當ヲ爲シ得サル規定アリ

此等ノ規定ノ爲メニ從來資金ノ潤澤自由ヲ缺キタルコト多シ從ツテ今日ノ金利ニシテ一度動搖ヲ見ルコトアランカ九分配當制限ノ存スル當會社ノ如キハ增資至難ノ狀態ニ立到ルヘシ

第十四　社債償還期ハ到達シ增資ハ不可能ニ歸シタル場合會社ハ財政的窮境ニ陷リ又救フヘカラサルニ至ルヘキコトハ借金政策ニ據リタル結果財政的窮地ニ陷リ會社ノ存立サヘモ危フマルヽ悲慘ナル事例ハ目前累々トシテ橫ハリ決シテ珍ラシキコトニアラス

顧フニ株式資本ハ事業不振、不時ノ災害等ノ場合ハ株主ニ於テ無配當ヲ忍ヘハ可ナリ借金ニ至リテハ然ラス業績ノ如何ニ拘ハラス既定率ノ利息ハ必ス之ヲ支拂ハサルヘカラス是借金政策ニ據ルモノヽ、常ニ逢着スル事例ニシテ會社ヲ衰滅ニ導ク道程ナリ

第十五　之ヲ要スルニ一時ノ金利安ニ眩惑シテ借金政策ニ據ラントスルハ會社百年ノ長計ヲ思ハサルモノナリ須ラク此際金利安ノ現狀ヲ利用シテ增資ヲ行ヒ未拂込株金ノ徵收容易ナル狀態ニ置キ然ル後社債又ハ借入金ノ運用ヲ行フヲ以テ穩健萬全ノ策ナリト思惟スルモノナリ

第十六　萬一不幸ニシテ增資不能ニ終ルコトアランカ

イ、瓦斯未使用者ハ東京市內ニ於テ十萬戶市外郡部ニ於テ四十萬戶ヲ算ス此內低廉便利ニシテ文化的ナル家庭燃料トシテ熾烈ナル瓦斯要望者決シテ尠シトセス之ニ瓦斯ノ供給ヲ爲シテ都市住民ノ消費經濟改善ニ貢獻セントスル本意ヲ達成スルコト能ハス延テ公共事業ノ眞使命ヲ達成スルコト能ハサルニ至ルコトナキヲ保シ難シ

ロ、株主總會ノ決議ヲ本年六月三十日現在ノ株主ニ對シ一株ニ付一株ノ割合ヲ以テ分配募集スルコト、ナリ居ル故七月一日以降ハ當會社株式ハ株式取引所ニ於テ新株落トシテ賣買取組行ハレ居リ而モ相當多數ノ取組アリテ之カ解決ニ非常ナル困難ヲ生スルニ至ルヘシ

ハ、資金ノ調達意ノ如クナラサルニ於テハ勢事業ノ手控ヲ爲サヽルヘカラサルニ立到ルヘク自然相當多數ノ失業者ヲ生スル不得止事情ニ立到ルヘシ

上來陳述ノ諸點乍勝手充分御酌量ノ上可然御裁定相仰度瓦斯事業法第十二條ニ依リ此段謹テ申請仕候也

昭和四年七月十三日

東京瓦斯株式會社

常務取締役　鈴木寅彥

商工大臣俵孫一殿

（別紙）

答辯書

東京府東京市麹町區丸ノ內三丁目二番地

申請人　東京瓦斯株式會社

常務取締役　鈴木寅彥

右法律上代理人

常務取締役　鈴木寅彥

同府同　市同區丸ノ內三丁目一番地

被申請人　東京市

右法律上代理人

東京市長　堀切善次郎

昭和四年七月十三日附ヲ以テ東京瓦斯株式會社ノ爲シタル裁定申請ニ付被申請人東京市ニ於テ答辯ヲ爲スコト左ノ如シ

一　定ノ申立

申請人ノ申請ヲ却下シ資本金一億圓增加ハ之ヲ爲スヘカラストノ御裁定相成度候

理　由

被申請人カ昭和四年七月十三日爲シタル裁定申請書ノ理由ト同一ニ有之更ニ左記事項併テ主張ス

一、現在ニ於ケル金融ノ狀況ハ甚タ緩慢ニシテ之ヲ社債ニ據ルトスルモ年率六分以下ノ低利ナル資金ヲ得ヘキ可能性存ス加之申請人ノ資本金一億圓ハ既ニ全額拂込ヲ了シ爾ノ社債千六百萬圓ハ殆ント完濟シ瓦斯料金、副生物賣上代等其ノ收入ノ大部分ハ定期且確實ニ收受シ每期相當ノ純益ヲ擧ケ九分ノ配當ヲ持續シ居レル現在ノ狀態ニ於テハ社債又ハ借入金ニ據ル資金調達ノ途ハ十分ニ存スルヲ以テ此ノ際ニ於ケル資本增加ハ其ノ必要ナキモノト信ス

二、申請人既往ノ慣行及瓦斯料金値下竝計量器使用料廢止ニ關スル回答等ニ徵スルトキハ將來ニ於テモ年率九分ノ配當ヲ持續セムトスルコトハ想像ニ難カラス然ラハ現在ノ需用者ハ未タ收益ヲ生セサル建設費ニ投シタル資金ニ對シテモ配當ヲ負擔セサルヘカラサルニ至ルヘシ抑モ東京市ト東京瓦斯株式會社トノ間ニ締結セラレタル報償契約書第十二條第一號ハ東京市カ市民ノ利益擁護ノ立場ニ於テ會社ノ放漫ナル增資及理由ナキ減資ヲ掣肘セムカ爲特ニ規定セラレタルモノニシテ本件ノ如ク年率六分以下ノ低利ナル社債又ハ借入金ヲ以テ擴張資金ヲ得ラルヘキ可能性アルニ拘ラス年率九分ノ配當ヲ伴フヘキ資本增加ヲ行フトセハ其ノ差額ニ相當スル金錢ハ全ク需用者ノ負擔ニ歸スヘク財界不況裡ニ苦シミツツアル東京市民ノ負擔ノ幾分ナリトモ輕カラシムル